

# 在宅・福祉サービス事業部

## 【中期事業計画における事業部理念】

地域への感謝と貢献

私たちは必要とされることを待つことなく、自ら出向き、共に生きる

## 【事業目標】

実験し、実践し、実感できる新たな福祉の視点を見出す

1. 地域に根差した小さな拠点づくりを行い、地域包括支援体制の布石とする
2. 小さな拠点を支え、生み出すために大きな拠点の機能強化を進め、新たな発想をもって事業の見直しとICT化の時代に即応する
3. 将来に向けて聖隷が取り組むべき地域と事業を定め、拡大または撤退の方向性を検討していく傍ら従来の制度等に縛られない新たな領域の福祉活動を考えこれに取り組む
4. これらを支える人材確保、人材育成、施設保全、事業戦略決定等の本部機能について事業部としての主体性を発揮する

社会福祉法人制度改革によって私たちの行っている社会福祉事業は何者であるかが問われ、社会福祉法人は、非営利組織としての活動を立証する事が求められた。そのために組織活動の情報開示と戦略的広報活動は必要であるとした上で地域福祉への貢献が義務付けられることとなった。2016年度はこれを機会と捉え積極的に取り組む事業年度である。

事業部ではエリア制を発足させ、地域福祉が地域毎の視点で細やかに行えることを目指しつつ取り組んできたが、更にこれを進め、各エリアにおける事業拠点レベルの強化に力を注ぎたい。小さな事業拠点であっても、将来の人材育成、管理者育成の観点から適切な権限委譲によって成長の機会と捉えたい。そして地域事情に相応できる事業経営、地域への貢献活動を行っていく事は重要であるとする。その一方で、業務の合理化を進めるために事業部としての本部機能は更に発揮されるべきであり、一事業部でありながらも100ヶ所を超える事業、施設を有する当該事業部は独自の管理統括方法を開発、実践する必要に迫られている。これを実行可能なレベルにするために業務のICT化は徹底して行っていくこととする。また、社会福祉法人に求められている地域貢献活動（福祉充実計画）についても各々のエリア・地域拠点で必要とされる取り組みを見出し、実践する事が望まれる。地域のあらゆる資源と人との結びつきを大切に考え、聖隷の福祉が地域全体の幸福的利益に貢献していく。その活動の原資となる既存事業や新規事業の収益性を確保する努力も行っていく傍ら、将来に向けて聖隷が取り組むべき方向性を地域軸と事業軸の両面から見直し、発展拡大と発展的解消の道を探していきたい。私たちは事業や利益に仕えるのではなく、これらを賢く使い、地域への感謝の思いをもって地域福祉に貢献する活動を行っていく事を事業目標とする。

## 【2016年度重点施策】

1. 地域に根差した小さな拠点づくりを行い、地域包括支援体制の布石とする  
従来施設はコロニー的建設思想があり、地理的に市街から離れた場所に建設され、利用者

支援において地理的に不利な施設が多い。地域包括支援の時代において地域のあらゆる社会資源と共に利用者支援を行うため、小さいながらも地域に求められ貢献することの出来る拠点づくりを段階的に進める。

2. 小さな拠点を支え、生み出すために大きな拠点の機能強化を進め、新たな発想をもって事業の見直しとICT化の時代に即応する

高齢者施設は介護保険制度に基づく施設としてユニットケアを中心に15年が経過した。人材確保が困難な時代を迎え、利用者支援の在り方、介護職員の教育等に見直しを加えねばならない必要を感じている。地域包括ケアが進められる時代に複合施設である大きな拠点が担うべき役割は変化しなければならない。将来的なマイナンバー活用の時代を見据えつつ、2017年度に行われる制度改定、報酬改定に向けて管理ソフトの更新を行う。保育事業、障害者事業においても同様な変化対応が求められ、新たな発想を得るための職員研修を行い、ワーキンググループをつくり検討を開始する。

3. 将来に向けて聖隷が取り組むべき地域と事業を定め、拡大または撤退の方向性を検討していく傍ら従来の制度等に縛られない新たな領域の福祉活動を考えこれに取り組む

制度が変わり、時代が変わる中でも福祉事業における社会的責任は変化しない。利用者と地域の最大の利益と幸福に貢献することを中心に据えた上で、その役割と責務を終えた事業や地域拠点の継続について再考していく。その上で職員の力は新たな領域の福祉活動を生み出す力となるべきであり、経験を重ねた職員に期待していきたい。

生活困窮事業をはじめとする社会貢献活動や、障害福祉における取り組みもまだまだ地域的に限定されており、これらにも地域を超えて取り組む必要がある。

4. これらを支える人材確保、人材育成、施設保全、事業戦略決定等の本部機能について事業部としての主体性を発揮する

2015年度の取り組みに続き、11エリアに跨る事業部の運営管理体制を支えるべく事業部としての本部機能の強化を図り、法人本部機能を補完する。施設設備の更新や小さな拠点の整備、増築新築計画の推進のために施設整備グループの体制強化を図る。また、中途採用者専門部署を浜松に続き、関東(浦安)、関西(宝塚)にそれぞれ配置し、活発な職員募集活動を行う。業務のICT化推進にあたり、情報システム部と連携し、総務業務のウェブ利用、保育、障害、介護保険等の各事業の管理請求ソフトの更新または転換を行う。また、各施設間による相互チェックシステムは継続し、運営管理について支援を必要とする施設、事業について施設機能を利用した支援活動を継続する。新人事システムの検討について、既に活用を開始した介護、保育、相談員キャリアラダーと連動した処遇改善の仕組みを運用すべくワーキンググループを形成し提言する。

#### (高齢者福祉・介護保険事業)

介護保険制度が制定され15年が経過し、職員の多くが介護保険やユニットケア等の日本独自の福祉の枠内で育成され、今後の高齢者福祉の変化に戸惑いを隠せない。地域包括ケア推進の流れは

医療機関との連携なしには語ることは出来ず、従来の介護主導型の福祉だけでは成り立たない。国策により介護離職ゼロを目指した特別養護老人ホームの開設やサービス付高齢者住宅の整備は更に進められる一方、介護サービスの「質」が強く問われる提言が出され、施策が講じられる。日本の高齢者施設は介護の要否か所得の有無の軸で大きく区分され、利用者の状態や意識を中心に区分されていない。このため、様々な症状、状態の利用者が混在し、介護職員にはあらゆる対応力が求められている。障害者福祉は障害種別により種々の施設や事業により支えており、高齢者施設や事業には渾然一体となって支援が行われ、整理がつかない状態となっている。2016年度はこれらの課題に将来的に取り組む基礎をつくるため、エリア制から小さな拠点毎に地域福祉が考えられる体制に変更すると共に、広い視点で日本の取り組むべき福祉について考えることの出来る職員を育成していく年度としたい。まずは職員不足の一端でもあるユニットケアの在り方についてワーキンググループを作り今年度内に提言を出したい。

1. 介護保険施設待機者が激減する中、市町村を超えて営業活動を行うと共に入所待機者リストの共有化のシステムを作り、入所ニーズの変化に対応する。
2. 市町村の行う新総合支援事業(介護予防)について新たなサービス、活動メニューを開発するために情報収集と実験的取り組みを行い、エリアを超えて伝達していく。
3. 障害・介護保険報酬改定にあたり、請求ソフト、記録ソフトの更新、変更を行う。特に記録ソフトについて実験的導入を図ってきた訪問看護システムについて地域医療拠点との連携を重視した見直しを行う。
4. 介護分野で妄信的に行って来たユニットケアを見直し、利用者にとって最上のケアは何かを福祉の倫理観に基づいた理論構築を行い、実験、検証、実行を行う。導入モデルとなった北欧の福祉事情の変化にも学び、ワーキングを行う。
5. 地域における小さな福祉拠点をケアセンターとして位置づけ、拠点の再編成と整備を行う。その上で既存の入所施設は大きな拠点として支援機能を有するべく強化を推進する。
  - (ア) 浦安エリア・訪問看護ステーション浦安の強化
  - (イ) 横須賀エリア・訪問看護ステーション油壺の移転強化
  - (ウ) 浜松第一、第二エリア
    - ① 高丘ケアセンター設置による事業の集約
    - ② 訪問看護ステーション浅田の移転強化
    - ③ いなさ、初生、三方原、住吉、和合の在宅事業の強化編成とケアセンター化
    - ④ 浜北在宅事業の磐田障害事業の支援に伴うサテライト設置
  - (エ) 宝塚エリア・山本、逆瀬台、逆瀬川の在宅事業のケアセンター化
  - (オ) 淡路エリア・津名、東浦の在宅事業のケアセンター化
  - (カ) 奄美エリア・奄美市内における在宅事業の強化とケアセンターの設置
  - (キ) 沖縄エリア・嘉手納の在宅事業のケアセンター化

#### (障害福祉事業)

障害者総合支援法の3年後見直しが行われ、常時介護の必要な方の支援や行動支援等について課題が整理された。高齢者福祉の地域包括支援に対し、障害者福祉のグランドデザインを描きつつ、入所施設の削減は今後も続く。増大する障害者へのサービス量を調整すべく、計画相談(障害ケア

プラン)に基づいた計画的な給付を目指しているが、介護保険事業者による事業進出により、障害の給付費は大きく伸び続け、課題は山積している。障害福祉を総合的な視点で取り組むべく浜松地区では聖隷厚生園を中心にグループ化してきたが、2016年度は更なる機能強化と地域密着を進めるべく、各拠点で障害福祉に取り組むように組織変更を行い、全国の事業モデルをつくる。聖隷厚生園については在宅機能を強化するため、訪問看護ステーション細江を移転により更なる複合施設として進化を目指す。

1. 聖隷厚生園グループの施設を各拠点施設に帰属させ、高齢、障害、児童を問わない支援体制を目指す  
(ア) 讃栄寮拠点・讃栄寮、地域活動支援センターナルド、相談支援事業所ナルド  
(イ) 信生寮拠点・信生寮、まじわりの家、相談支援事業所信生  
(ウ) ナルド工房拠点  
(エ) 和合愛光園拠点・みるとす、あすなろ、チャレンジ工房、相談支援事業所くすのき  
(オ) 浜北愛光園拠点・きらめき工房、相談支援事業所浜松東  
(カ) 磐田市拠点・磐田市発達支援センターはあと、児童発達支援事業所かるみあ、かるみあ豊田、障害児一時預かり事業こうのとり保育園こひつじ保育
2. 障害者計画相談に資する職員を育成し、介護保険事業所においても相談支援専門員研修を受講し資格取得に努める。
3. 障害福祉に関心を持つ学生を掘り起こすため、大学ゼミから学生との接点を持つことに努力する。北欧の障害福祉を学ぶ海外研修を通じて、障害福祉の新たな視点を見出し、世界的にも歴史的にも考えることが出来る職員教育を行う。
4. 磐田市と共に取り組む児童発達支援を更に進めるため、児童発達支援事業かるみあの移転新築を通して、将来を見据えた就労支援施設の開設を行う。
5. 奄美大島における発達障害児支援の輪を更に拡大し、奄美市に続く龍郷町での児童発達支援事業所を開設する。

#### (保育事業)

子育てをめぐる環境が厳しさを増しつつある現状の中で、女性の就業支援、仕事と子育て両立支援に対するあらゆる政策が講じられている。子ども子育て支援、待機児童対策は短期的な視点で緊急整備が国策として掲げられ、将来的な保育事業の供給過多も懸念される。この時代を見据えながらも中期計画における事業戦略は、拡大路線及び保育の人材対策に注力することになる。保育事業における定員増、新規保育園の開設、小規模保育事業の取り組みは促進して行くこととしたい。また、保育士確保も重要な課題であり、新卒者だけでなく、採用担当窓口を設け、保育経験者の中途採用にも注力していく。

1. 保育園における教育機能を重視した運営を行うと共に、2018年度に向けて『こども園』への移行を進める(磐田市・こうのとり豊田保育園)
2. 浜松市における待機児童対策に基づく保育所定員増に貢献する  
2016年度 桜ヶ丘 150名→190名、ひばり 120名→145名、めぐみ 19名→30名、  
2017年度 増築新築に伴う・わかば 150名→200名、ひかりの子 150名→230名、  
聖隷こども園和合(仮称)160名開設



### 3. 多様な保育サービスに取り組む

(ア) 病児保育(病後児型)の強化推進、事業所内保育事業所、小規模保育所の開設協議

(イ) 在宅保育サービス、訪問保育サービス、放課後児童クラブの受託を目指す

### 4. キャリアラダーを活用、学会発表を軸とした学習会等、保育職員の教育に力を注ぐ

### 5. 人材開発部の協力を得て子育て支援員の養成に取り組む

#### (生活困窮支援、生活保護事業)

浜松市生活困窮者支援事業の受託(3年間)を基に相談支援、就職支援、住宅確保支援、学習支援等の社会貢献事業の基盤づくりを行う。高校進学を目的とした学習支援は、委託事業の枠を超えて小学校高学年、外国人児童まで支援する学習サポート事業を生み出し、学生を中心としたネットワークが出来つつある。全国的に事業委託は多くなく、事業の取り組みについて法人施設のある市町村に情報提供し、地域福祉の貢献に努めたい。

生活困窮支援法によって生活保護法の対象基準は更に厳しいものとなり、厳しい生活環境下にある対象者が出現する。救護施設入所者の多くは精神疾患があり、中間施設としてグループホームを検討していく。退所後の生活支援、服薬管理等の医療的支援、就労や居住場所の確保あつ旋等、聖隷厚生園の組織編成を見直し利用者を中心に支援できる体制に変更する。

1. 生活困窮者支援事業のうち、学習支援を業務委託から法人直営とし、教室を本部に置く
2. 学習サポート事業の拠点を中区高丘に加えて、東区、南区にも拠点を置き活動を広める
3. 生活保護施設から地域移行するため居住、就労、相談等、支援する機能を見直し、強化する
4. 生活保護施設本来の支援すべき入所対象者において見直しを図る

#### 【主な施設整備】

1. 浦安愛光園 4床増築工事
2. 訪問看護ステーション細江移転に伴う聖隷厚生園信生寮増築工事
3. 磐田市児童発達支援事業・就労支援施設の建設
4. 龍郷町にて児童発達支援事業所の開設
5. 聖隷こども園わかば定員増に伴う増築工事
6. 聖隷こども園ひかりの子定員増に伴う増築工事
7. 聖隷こども園和合(仮称)の建設

# 和合せいれいの里

特別養護老人ホーム和合愛光園  
和合愛光園デイサービスセンター  
障害者支援施設みるとす  
障害者相談支援事業所くすのき  
生活支援ハウスやまぶき  
和合愛光園和合サテライト  
訪問看護ステーション住吉  
聖隷ヘルパーセンター  
聖隷巡回ヘルパーぐるり和合  
聖隷ケアプランセンター浜松  
聖隷ケアプランセンター和  
地域包括支援センター和合

新たな介護予防・日常生活支援総合事業は、人口減少社会による担い手不足の中で増大する介護ニーズに対し、介護や医療を受ける人を可能な限り減らし、専門職でなくても支援する人を可能な限り増やすという、日本の目指す未来の方向性を提示した。

これは働く人とサービスを受ける人を別々に考えるのではなく、地域に住まう全世代の人々が活躍できる地域づくりに参画することと、専門職でなくてもできる仕事は高齢者や障がい者等、他の人材に任せ、更に専門性を高めることが求められていることを示している。

既に和合せいれいの里は高齢者・障がい者のサービスを有しており、他事業部も含めた各サービスの連携を推進し、新たな人材確保ルートの開発、労働生産性の向上、専門性の向上を図り地域ニーズに応えたい。特に、2016 年度は新たな障がい児へのサービスを実施し、対象者の拡大を図る。また、2017 年度開設予定の聖隷こども園和合（仮称）の開設準備支援を着実にを行い、全世代対応型の福祉拠点としての体制を確立し、法人の中期事業計画を確実に遂行し、安定した経営ができる基盤をつくる。

## 【施設理念】

和合せいれいの里の全事業所および全職員は、和合せいれいの里の利用者一人ひとりがその人らしい生き方ができるよう常に利用者の視点に立ち、そのために必要とされる質の高い適切な支援を切れ目なく総合的に提供する。

## 【経営方針】

1. 高齢者・障がい児（者）に対しワンストップで継ぎ目のないサービスを提供する。
2. 生産性向上活動を通じ、業務の効率化を行いサービスの質を高める。
3. 他事業所と互いに利益ある関係を作り、利用者がその人らしく地域で暮らせるよう支援する。
4. 多様な働き方の創出とその職員が成長を実感できる体制を強化する。

## 【事業・運営計画】

1. 高齢者・障がい児（者）に対しワンストップで継ぎ目のないサービスを提供する。
  - (ア) 特別養護老人ホームにおいて権利擁護の視点に立って、サービス提供体制を再構築する。
    - ①利用者の気持ちを踏まえた介護の提供と家族、地域に支援内容を知って頂く。
    - ②医療的依存度の高い利用者の増加に合わせ、入居枠の増加と退所ルールの変更を行う。
    - ③広域型施設の役割を迫及する為、募集範囲の拡大と宣伝方法の見直しを行う。
  - (イ) ショートステイの受入体制を強化し、一人でも多くの利用者にご利用頂く。
    - ①多様な利用目的に対応できるよう、職場間の情報共有、プログラム開発、支援体制を作る。
    - ②緊急短期入所受入加算、医療連携体制加算の算定を促進する為、営業活動の促進と相談員日誌を活用した毎月の振り返りを行い、算定数を増加させる。
    - ③ショートステイでの個別機能訓練の回数を増やし、リハビリテーション機能の強化を図る。
    - ④地域で就労又は就労訓練している方の自立支援の為、宿泊のみの利用促進を図る。
  - (ウ) 新たな高齢者デイサービス対象者づくり
    - ①地域の潜在的なニーズに対応する為、短時間入浴特化型デイを検討し、開始する。
    - ②認知症通所介護では家族会や認知症カフェを開催し一般デイからの移行や利用者増を図る。
    - ③市が実施するロコモーショントレーニング事業やささえあいボランティア制度を活用し、健全高齢者の施設内での居場所づくりをし、新総合事業移行の準備を行う。
  - (エ) 障害福祉サービスの対象者拡大と利用者の社会参加、自立支援を促進する。
    - ①障害者支援施設「みとす」（生活介護第2単位）利用者の重度化に伴い、人員配置体制加算を2:1から1.7:1に変更する。
    - ②障がい児の利用を促進する為、日中一時支援の新たな居場所・プログラムを作る。
    - ③児童計画相談契約件数年30件の作成と多機能型施設への変更を行う。
    - ④2016年度開始を目指し、現厨房を使った給食提供を行う就労継続支援A型事業の準備を行う。
  - (オ) 生活支援ハウス「やまぶき」では、より多様なニーズの利用者を受入可能にする。
    - ①2015年度開始した3交代勤務体制に対応する為、全職員の相談能力の向上に努める。
    - ②現行以外の用途を行政と協議する。
  - (カ) 訪問介護、巡回ヘルパー「ぐるり和合」について適時、適切に対応できる体制を構築する。
    - ①非常勤ヘルパーの給与体系を見直し、採用力の強化を図ると共に体験型実習を行う。
    - ②新総合事業を見据え、就労支援施設と連携した低額有償サービスの検討を行う。
  - (キ) 訪問看護は病院と連携し在宅移行を更に進める。また新たな利用者を開拓、増加していく。
  - (ク) 居宅介護支援事業所においては特定事業所集中減算を発生させなくても、利用者が安定的にサービスを継続できるよう調整し、良質なケアマネジメントの提供に努める。
  - (ケ) 地域包括支援センター和合では地域と共に更に問題を解決できるよう取り組みを行う。
2. 生産性向上活動を通じ、業務の効率化を行いサービスの質を高める。
  - (ア) 介護職以外でも働ける業務をつくる為、勤務体制を見直し、専門性の向上業務に変換する。
  - (イ) 車両の送迎、運営体制の見直しを行い、使用車両台数の効率化と保有車両の削減をはかる。
  - (ウ) 特別養護老人ホーム、高齢者デイサービスにおいてロボットスーツの導入を検討し、介護

の集中・効率化を行う。

(エ) ぐるり和合ではデイサービスとの兼務化を図り、夕方以外の訪問も委託し超過勤務を削減する。

(オ) 訪問、ケアプラン事業所では音声入力システム導入を検討し、契約・訪問件数増を図る。

### 3. 他事業所と相互に協力関係を築き、利用者がその人らしく地域で暮らせるよう支援する。

(ア) ベッドメイキング等周辺業務をチャレンジ工房へ委託し、工房の工賃向上を支援する。

(イ) 聖隷就労支援事業所が提供開始するパンを納入、提供し、利用者の楽しみを増やす。

(ウ) やまぶきとぐるり和合が連携し、医療や介護を必要とする利用者の増加を図る。

(エ) ケアプランセンター和でも障がい者ケアプランの作成、モニタリングを実施する。

(オ) 法人内病院との連携を強化する為、退院支援ナースの配置や交換人事を進めていく。

(カ) 保育浜松エリアと協力し 2017 年度に開設予定のこども園の開設準備を行う。特に併せて実施される給食設備統合について、子どもに適した給食への対応と効率化を両立させる。

### 4. 職員が成長を実感できる体制強化と多様な働き方の創出

(ア) プリセプター制度、各テクニカルラダー運用を通じ、技術、知識の理解を促進する。

(イ) 個人別研修計画と目標参画、利用者等への報告制度を連動させやりがいと醸成する。

(ウ) 各種委員会の責任者に主任を任命し、その運営を通じ役職者・リーダーの育成を実施する。

(エ) 認知症介護実践者研修の受講者とキャリア段位制のアセッサー取得者の増加を図る。

(オ) フィリピン E P A 卒業生 (2 名) が E P A 候補生 (5 名) を指導する教育体制を構築する。

(カ) みるとす第 2 単位のアセスメント機能を強化し、障害者雇用率を前年度より向上させる。

### 5. 全職員が健全な経営を意識して活動を行う。

(ア) 36 協定や権利擁護等、コンプライアンスの意識を高めるための勉強会を開催する。

(イ) 業務マニュアルを再整備し、法令の遵守とサービスの質の見直しを図る。

(ウ) 空調管理の徹底や計画的な修繕、備品購入を進め経費の削減を行う。

【数値指標】

高齢者入所・和合サテライト・通所関係事業

|              | 和合愛光園        |         |             | 和合サテライト | 和合愛光園<br>デイサービスセンター |        |         | やまぶき生活支援ハウス |
|--------------|--------------|---------|-------------|---------|---------------------|--------|---------|-------------|
|              | 特養入所         |         | 短期          |         | 通所介護                |        |         |             |
|              | 従来型<br>(3号館) | ユニット型   | 従来型<br>(障害) |         | ユニット型               | 一般型    | 予防介護    | 認知症対応型      |
| 利用者定員        | 50名          | 40名     | 20名         | 29名     | 50名                 |        | 12名     | 20名         |
| 利用延数         | 18,250名      | 14,220名 | 6,030名      | 10,324名 | 8,060名              | 989名   | 2,493名  | 4,380名      |
| 一日平均利用者数     | 50.0名        | 39.0名   | 16.5名       | 28.3名   | 26.0名               | 3.2名   | 8.0名    | 12.0名       |
| 稼動率（％）       | 100.0％       | 97.5％   | 82.6％       | 97.5％   | 58.4％               |        | 67.0％   | 60.0％       |
| 稼動延日数        | 365日         | 365日    | 365日        | 365日    | 310日                |        | 310日    | 365日        |
| 平均介護度        | 4.10         | 4.30    | 3.65        | 3.75    | 2.45                |        | 2.90    | —           |
| 単価（一人一日）     | 11,600円      | 13,950円 | 11,700円     | 13,400円 | 10,000円             | 4,750円 | 13,000円 | 4,608円      |
| サービス活動収益(千円) | 221,123      | 198,403 | 73,289      | 138,342 | 85,416              |        | 32,401  | 20,184      |
| 正職常勤換算数      | 26.9名        | 21.7名   | 7.1名        | 13.6名   | 7.1名                |        | 1.0名    | 0.6名        |
| パート常勤換算数     | 12.2名        | 6.2名    | 3.1名        | 4.8名    | 13.3名               |        | 2.9名    | 3.4名        |

障がい者入所・通所・相談関係事業

|              | 障害者支援施設 みるとす            |               |             |            |             | 相談支援<br>くすのき<br>浜松市受託<br>特定・児童 | 高齢<br>障害<br>総合計 |
|--------------|-------------------------|---------------|-------------|------------|-------------|--------------------------------|-----------------|
|              | 施設入所<br>支援<br>生活<br>介護Ⅰ | 生活<br>介護<br>Ⅱ | 短期<br>入所    | 入浴<br>サービス | 日中<br>一時    |                                |                 |
| 利用者定員        | 20名                     | 20名           | 2名          | 5名         | 10名         | サービス利用                         | —               |
| 利用者延数        | 7,188名                  | 5,163名        | 907名        | 92名        | 736名        | 162件/年                         | —               |
| 一日平均利用者数     | 19.7名                   | 21.2名         | 2.5名        | 0.25名      | 2.00名       | 継続サービス                         | —               |
| 稼働率(%)       | 98.5%                   | 106.2%        | 124.2%      | 5.0%       | 20.2%       | 633件/年                         | —               |
| 稼働延日数        | 365日                    | 243日          | 365日        | 365日       | 365日        | 障害児                            | —               |
| 平均区分         | 5.70                    | 4.70          | 4.60        | —          | —           | サービス35件/年                      | —               |
| 単価(一人一日)     | 17,000円                 | 12,840円       | 8,600円      | 6,705円     | 1,810円      | 継続12件/年                        | —               |
| サービス活動収益(千円) | 122,217<br>千円           | 66,294<br>千円  | 8,943<br>千円 |            | 1,332<br>千円 | 21,488<br>千円                   | 989,432<br>千円   |
| 正職常勤換算数      | 13.6名                   | 5.0名          | —           | —          | —           | 2.0名                           | 98.6名           |
| パート常勤換算数     | 3.9名                    | 8.3名          | —           | —          | —           | 1.0名                           | 59.1名           |

訪問・居宅介護支援・地域包括支援事業

|                       |                 |            |               |           |             |            |                    |              |              |             |
|-----------------------|-----------------|------------|---------------|-----------|-------------|------------|--------------------|--------------|--------------|-------------|
| 訪問看護ステーション<br>住吉      | 平均<br>利用者数      |            | 月訪問<br>件数     |           | 年訪問<br>件数   |            | 単価(円)              |              | サービス活<br>動収益 | 常勤換算<br>職員数 |
|                       | 155.6 名         |            | 820.9 件       |           | 9,851 件     |            | 9,791 円            |              | 96,464<br>千円 | 15.9 名      |
| 聖隷<br>ヘルパー<br>センター    | 介護給付            |            |               |           | 予防給付        |            | 単価(円)              |              | サービス活<br>動収益 | 常勤換算<br>職員数 |
|                       | 平均利<br>用者数      | 訪問件数       |               | 利用者       |             | 介護<br>(回)  | 予防<br>(月)          |              |              |             |
|                       |                 | 月間         | 年間            | 月間        | 年間          |            |                    |              |              |             |
|                       | 87.5<br>名       | 1,120<br>件 | 13,440<br>件   | 48.0<br>名 | 3,600<br>名  | 3,400<br>円 | 21,500<br>円        | 78,018<br>千円 | 13.4 名       |             |
| 聖隷巡回<br>ヘルパー<br>ぐるり和合 | 介護給付            |            |               |           |             | 単価(円)      |                    | サービス活<br>動収益 | 常勤換算<br>職員数  |             |
|                       | 月間利用者数          |            | 年間利用者数        |           | 介護 (月)      |            |                    |              |              |             |
|                       | 12.3 名          |            | 148 名         |           | 126,920 円   |            | 21,734<br>千円       | 3.6 名        |              |             |
| ケアプラン<br>センター         | 年間請求件数          |            | 平均単価(円)       |           | 訪問調査        |            | サービス活<br>動収益       | 常勤換算<br>職員数  |              |             |
|                       | 介護              | 予防         | 介護            | 予防        | 年間件数        | 単価<br>(円)  |                    |              |              |             |
| 浜松                    | 3,042 件         | 240 件      | 15,496 円      | 4,121 円   | —           | —          | 51,459<br>千円       | 9.5 名        |              |             |
| 和                     | 2,268 件         | 144 件      | 17,750 円      | 3,951 円   | —           | —          | 44,483<br>千円       | 7.7 名        |              |             |
| 地域包括支<br>援センター<br>和合  | 浜松市受託収入<br>(千円) |            | 予防プラン<br>請求件数 |           | うち<br>再委託件数 |            | 予防<br>プラン<br>単価(円) | サービス活<br>動収益 | 常勤換算<br>職員数  |             |
|                       | 25,448 千円       |            | 3,275 件       |           | 2,110 件     |            | 4,250 円            | 39,366<br>千円 | 6.4 名        |             |

# 聖隷ケアセンター初生

和合愛光園初生サテライト  
聖隷デイサービスセンター初生  
聖隷ヘルパーセンター初生  
聖隷巡回ヘルパーぐるり初生

初生地区は通所による機能訓練や趣味活動を中心とした予防的活動から、訪問による支援に加え、重度者の入所支援という機能で各事業ともに地域での地位を確立しつつある。2015年度は事業の集住から一つの拠点施設としての組織改編をし、運営を開始した。その地域性としては浜松市の北区、中区、東区の間地点という立地であり、この地域での暮らしを継続したいという特色が見られている。

一方、浜松市の施設整備計画を受け、周囲に他法人の入所施設が整備されていく状況となっており、入所待機者の減少がみられ、通所・訪問のご利用者が重度化した際に他施設の短期入所や入所へ移行していく厳しい現状がある。この現状に対し施設としてより切れ目のないサービス提供ができるよう実施サービスの変更をすることで安定した運営を図る。そして、この転換に合わせて人材・資源の有効活用と育成を実施していくことで聖隷の地域密着型拠点としてのモデルとなる体制を構築していきたい。

## 【施設理念】

わたしたちは、住み慣れた地域でその人らしい“暮らし”や“生きがい”を支え続けます

## 【経営方針】

1. 地域のニーズを的確に把握し、安心して地域での暮らしが継続できるサービス提供体制を構築する
2. 各事業の質の向上と施設共同体制の整備により経営の安定化を図る
3. 事業軸、拠点軸に合わせた人材育成、確保ができる体制を整備する

## 【事業・運営計画】

1. 地域ニーズに合わせ、利用を続けることができる提供体制を整備する
  - (ア) 小規模多機能型居宅介護事業の開設検討、運営の開始
  - (イ) (ア)にあわせて訪問介護、定期巡回随時対応型訪問介護看護事業の移転を検討実施する
  - (ウ) 看護、リハビリ、栄養職種の施設内兼務体制を整備する
  - (エ) 地域の病院、地域包括（特に東区）、関連機関からの新規受け入れ活動の促進
    - ① 営業可視化シートを用い、広報活動、受け入れ活動を計画的に実施する
    - ② 各相談員が連携し、通所、定期巡回、空床短期、入所など利用方法の提案を行う
  - (オ) 利用者ニーズに合わせて各事業の質の向上を図る
    - ① 通所部門では業務の標準化を図るとともに、機能訓練の充実と提供方法の再編を図り、機能訓練加算Ⅱの取得増加を図る

- ② 入所部門では看取りケアの充実と入院日数の減少に向けた取り組みを実施する
- ③ 訪問部門では障害者総合支援法枠のニーズ把握、分析を実施し拡大を図る
- ④ 通所、入所部門が共同し趣味活動や余暇活動の合同開催や充実を図る
- ⑤ 入所、訪問部門において喀痰吸引Ⅰ・Ⅱ号研修の受講を推進する

## 2. 新総合事業を見据えて通所・訪問事業の提供体制の変更

- (ア) 介護予防通所介護の短時間型での単位分けを検討実施し、2017年4月より通所介護の「大規模Ⅱ」→「大規模Ⅰ」を目指す。
  - ① 介護予防通所介護のメニュー、体制の見直しを検討し、2016年10月より単位分けの実施
  - ② 浜松市ロコモーショントレーニング事業を聖隷デイサービスセンター三方原と共同実施
- (イ) 訪問介護について要支援者等への有償家事援助等サービス提供方法の検討と試行

## 3. 人材、設備の有効活用と事務機能の計画的な整備による施設機能の強化

- (ア) 経理機能、書類保管機能、受付機能の実務集約と必要人員の配置
- (イ) 設備更新、公用車更新の集約管理と計画の実施
- (ウ) 専門職等の施設内兼務や協力体制を促進し、事業所毎ではなく施設全体での採用・確保活動の実施
- (エ) 入所、通所において清掃等の業務分担化、ロボット等の導入検討による業務効率化

## 4. 拠点軸、事業軸でのリーダー・新人・パートの人材育成の推進

- (ア) 施設での新規パート採用時の教育体制の標準化、整備、実施
- (イ) 交換研修、ラダー・キャリア段位の運用と目標参画との連動による計画的育成の実施
- (ウ) 喀痰吸引等専門研修の受講計画化と実施
- (エ) 各種（防災、リスク、苦情解決、衛生等）委員会への任命と役割実施によるリーダー人材の育成

### 【数値指標】

|              | 和合愛光園<br>初生サテライト | デイサービスセンター初生 |          | ヘルパーセンター初生 |          |          | 巡回ヘルパー<br>ぐるり初生 |
|--------------|------------------|--------------|----------|------------|----------|----------|-----------------|
|              |                  | 介護給付         | 予防給付     | 介護給付       | 予防給付     | 自立支援・有償等 |                 |
| 利用者定員        | 29名              | 50名          | (50名)    | —          | —        | —        | —               |
| 利用延数         | 10,357名          | 9,961名       | 420名     | 6,000名     | 153名     | —        | 84名             |
| 一日平均利用者数     | 28.4名            | 32.1名        | 8.5名     | —          | —        | —        | —               |
| 稼働率（％）       | 97.9%            | 81.2%        |          | —          |          | —        | —               |
| 稼働延日数        | 365日             | 310日         |          | 248.5日     |          | —        | —               |
| 平均介護度        | 3.91             | 1.63         | —        | —          | —        | —        | —               |
| 単価（一人一日）     | 13,400円          | 9,500円       | 37,400/月 | 3,596円     | 18,023/月 | —        | 128,840円        |
| サービス活動収益（千円） | 138,793千円        | 110,421千円    |          | 24,333千円   |          | 16,900千円 | 10,260千円        |
| 職員数（正・ゾ）     | 13.5名            | 6.5名         |          | 4.02名      |          |          | 1.98名           |
| 職員数（パ・ア）     | 4.3名             | 15.0名        |          | 1.28名      |          |          | 0.32名           |



# いなさ愛光園

特別養護老人ホームいなさ愛光園、短期入所  
いなさ愛光園デイサービスセンター(通常規模型)  
いなさ愛光園デイサービスセンター(認知症対応型)  
ほのぼのケアガーデン(認知症対応型共同生活介護)  
いなさ愛光園ヘルパーステーション  
聖隷ケアプランセンターいなさ  
いなさ愛光園在宅介護支援センター、配食サービス

いなさ愛光園は1997年4月に開設して、20年目を迎える大きな節目の年となる。地域への感謝の思いをもって地域福祉に貢献する活動に取り組んでいきたいと考える。また、施設理念である「利用者の尊厳保持を援助の基本に据え、一人ひとりの利用者・家族の思いに応えられるケアを実践する」を再確認し、職員が成長を実感できる1年でありたい。2017年度から始まる介護予防・日常生活支援総合事業の準備を職員が丸となって円滑に進めていく。

いなさ愛光園は浜松市北区の最北の福祉の砦となる施設である。北区に所在する聖隷の各事業等が連携して地域包括ケアシステムを構築してサービスの提供を目指していく。特に、2015年10月開設した聖隷ケアセンターいなさと連携を図ることで、総合力を高める。

2016年2月に新東名高速が浜松いなさJCTと豊田東JCT間がつながった。2020年度には海老名南JCTと御殿場JCT間がつながる予定である。また、2017年には大河ドラマのモデルとなる地域となることから、地域が活性化する起爆剤が潜んでいる。地域の各種団体と連携することで、地域の中で貢献する活動をしたいと考える。また、新東名高速や三遠南信自動車道を使用しての新たなサービスの提供エリアも検討する。

## 【施設理念】

利用者の尊厳保持を援助の基本に据え、一人ひとりの利用者・家族の思いに応えられるケアを実践する

## 【経営方針】

1. 充実した個別援助を提供するため、いなさ愛光園全体が濃密な連携を図る
2. 地域において信頼されるサービスを提供するため、職員資質の向上に努める

## 【年度事業目標・年度重点施策】

1. ケアプランに基づいた個別ケアを充実する
  - (ア)「その人らしさ」を支援するため、ケアマネジメントのプロセスを徹底する
  - (イ)利用者や家族の声を拾い上げ、素早く柔軟に対応する
  - (ウ)野菜作りができる畑を作るなど自然を感じられるような行事を企画する
  - (エ)パーソンセンタードケアの視点を大切にし、認知症ケアの充実をする
  - (オ)年齢や個々に合わせた生活環境やケア環境を提供する

2. 安心、安全、快適な生活を支援する

- (ア) ミニカンファレンスなど情報共有・情報伝達を大切にする
- (イ) 開業医、嘱託医等と協力して看取りケアのシステムを確立する
- (ウ) 医療ニーズの高い新規利用者に対してのサービスを前向きに検討する
- (エ) 事故・苦情・感染等については、迅速且つ適切に対応する
- (オ) 利用者や家族に対する接遇の向上に取り組む

3. 職員の資質向上をする

- (ア) 長期的な成長を視野にいれ、目標参画システムを円滑に運用する
- (イ) 介護テクニカルラダー、相談支援スキルラダー、福祉施設看護ラダーを計画的に運用し  
自己研鑽に努め、各々のスキルアップの支援をする
- (ウ) O J T の推進と 3 年目以上を対象にした園内研修プログラムの企画と実施をする
- (エ) 特別養護老人ホーム、グループホームの外部評価を受審する

4. 安定した施設運営をする

- (ア) 各サービスの加算の取得と検証をする
- (イ) 腰痛予防対策を具体的に進める
- (ウ) L E D 導入等、環境に配慮したコスト削減をする
- (エ) 車両更新、建物修繕及び設備更新のための計画を作成する

5. 地域交流を大切にし、地域に貢献する施設になる

- (ア) 障害者総合支援法による居宅介護(ホームヘルプ)を 10 月に向けて準備する
- (イ) 福祉避難所としての準備をする
- (ウ) サロン型ロコモーショントレーニングの企画運営をする
- (エ) 地域の行事に積極的に参加する

【数値指標】

高齢者入所・短期入所・通所関係事業・訪問介護・居宅介護支援・委託事業

|            | 特別養護老人ホームいなさ愛光園 |                          |                    | いなさ愛光園<br>デイサービスセンター     |            |
|------------|-----------------|--------------------------|--------------------|--------------------------|------------|
|            | 特養入所            |                          | 短期入所               | 通所介護                     |            |
|            | 従来型             | ユニット型                    | ユニット型              | 通常規模型                    | 認知症<br>対応型 |
| 利用者定員      | 30名             | 40名                      | 20名                | 35名                      | 10名        |
| 利用者延べ人数    | 10,585名         | 14,417名                  | 6,205名             | 8,525名                   | 2,170名     |
| 一日平均利用者数   | 29.0名           | 39.5名                    | 17.0名              | 27.5名                    | 7.0名       |
| 稼働率        | 96.6%           | 98.7%                    | 85.0%              | 78.5%                    | 70.0%      |
| 稼働日数（延べ）   | 365日            | 365日                     | 365日               | 310日                     | 310日       |
| 単価（一人一日当り） | 14,186円         | 13,168円                  | 12,590円            | 8,898円                   | 11,766円    |
| サービス活動収益   | 152,819千円       | 190,006千円                | 78,119千円           | 75,854千円                 | 25,532千円   |
| 職員数（常勤換算）  | 46.2名           |                          | 15.4名              | 14.2名                    | 8.8名       |
|            | ほのぼのケア<br>ガーデン  | いなさ愛光園<br>ヘルパー<br>ステーション | 聖隷ケアプラン<br>センターいなさ | いなさ愛光園<br>在宅介護支援<br>センター | 配食サービス     |
| 利用者定員      | 9名              | —                        | —                  | —                        | —          |
| 利用者延べ人数    | 3,248名          | 4,693名                   | 1,872名             | —                        | 2,058名     |
| 一日平均利用者数   | 8.9名            | 13.0名                    | —                  | —                        | 7.0名       |
| 稼働率        | 98.8%           | —                        | —                  | —                        | —          |
| 稼働日数（延べ）   | 365日            | 361日                     | 365日               | 365日                     | 294日       |
| 単価（一人一日当り） | 12,607円         | 4,947円                   | 15,623円            | —                        | 782円       |
| サービス活動収益   | 40,946千円        | 23,572千円                 | 31,623千円           |                          | 1,289千円    |
| 職員数（常勤換算）  | 8.8名            | 6.0名                     | 4.4名               |                          | —          |

## 軽費老人ホーム もくせいの里

軽費老人ホームは、介護保険制度の施行、事務費一般財源化等の社会の変遷を背景として、高齢者の自立支援という生活支援機能の観点での取り組みが求められてきた。近年、厚生労働省・国土交通省主幹のいわゆる「高齢者住まい法」の充実が叫ばれているが、高齢者世帯の増加や独居など地域社会や家族形態が大きく変化している。その中で、高齢者の尊厳保持、自立支援の実現、従来からの低所得高齢者の自立・軽度要介護高齢者の支援に加え、虐待や社会的孤独の方等の多様な社会的援護を要する高齢者の支援対応等、地域ニーズに柔軟な対応が求められている。軽費老人ホームが有する多様な機能を活かし、自立支援を中心とした社会的・経済的なニーズに応える役割は今後も大きい。もくせいの里の2016年度事業計画では「一人一人の人生の終盤、生活の安心が得られ、豊かに幸せに過ごすことができるようにする」という基本を守り、低料金で利用が可能な施設として、利用者の「この施設で安心して生活を続けたい」との思いにしっかり向き合う施設運営を行う。

### 【施設理念】

入居者の自由と尊厳ある生活を支援し、穏やかで明るい生活作りをめざす

### 【経営方針】

1. 職員間の連携を重視し、利用者に行き届いた施設サービスを提供する
2. 利用者満足度の高い最高の食事提供を行う
3. 老朽化している施設の設備更新をはかり、安心して利用できる施設を目指す
4. 法人内の他施設との連携をはかる
5. 地域との連携強化に努める

### 【事業・運営計画】

1. 安心と安全を重視したサービス
  - (ア) 各職員の連携を強化し、施設全体の防災を徹底する。職員のいない時間帯の地震、火災発生時の初動訓練には引き続き重点的に取り組む
  - (イ) 身寄りのなくなった利用者に備えて身元保証人にかわる仕組みの検討を開始する
  - (ウ) スプリンクラー設置に続き、耐震補強を行う
2. 利用者に寄り添うサービス
  - (ア) デイサービスセンター三方原と連携し、ロコモティブ・トレーニングの開催場所として2F集会室を提供し、入園者の介護予防など機能面からみたサービス提供を充実させる
  - (イ) 配食サービス利用者の安否確認時の情報交換をケアマネジャーなどと密に行う
  - (ウ) 入居者アセスメントの方法を見直し効率を高めた個別支援を充実させる
  - (エ) 外部で行われる講座やイベントに、利用者とともに参加する
  - (オ) 「役に立ちたい」という利用者ニーズに答える活動を開始する（軽作業・ボランティア）

### 3. 職員の資質の向上

- (ア) 聖隷および老人施設協議会等の研修への積極的な参加、施設内研修の活性化、資格取得などのキャリアアップで職員の自己成長を目指す
- (イ) 食事の質向上のため、コンテストの参加に加え、盛り付け、ソフト食などの研修に積極的に参加し、栄養調理技術の向上を目指す
- (ウ) 目標参画シートによる個別目標に合致したテーマで研修を行う

### 4. 地域社会に貢献

- (ア) 浜松市北区の要望に応えるため、地域の食事サービスを継続して受託していく
- (イ) 高台幼稚園と従来同様定期的なふれあい活動を継続する
- (ウ) 近隣デイサービスへの食事提供を進める
- (エ) 地域へのもくせいの里の施設情報を見直し、入居希望につなげる仕組みを作る
- (オ) 地域住民にもロコモティブ・トレーニング参加を働き掛ける

### 5. 設備の更新

- (ア) エレベーターの交換工事
- (イ) 厨房冷蔵庫の交換
- (ウ) 管理棟の防水シートの交換

#### 【数値指標】

|              | 軽費老人ホーム    | 食事サービス   | 計          |
|--------------|------------|----------|------------|
| 利 用 者 定 員    | 50 名       | 577 名    |            |
| 利用者予算（延べ）    | 18,250 名   | 6,935 名  |            |
| 利用者予算（日）     | 50 名       | 19 名     |            |
| 稼働率（％）       | 100%       | 84%      |            |
| 稼働日数（延べ）     | 366 日      | 309 日    |            |
| 単価（一人一日当り）   | 5,983 円    | 657 円    |            |
| サービス活動収益（千円） | 109,472 千円 | 4,544 千円 | 114,026 千円 |
| 職 員 数        | 14.0 名     | 0.6 名    | 14.5 名     |

# 細江地区在宅複合事業

訪問看護ステーション細江  
聖隷ケアプランセンター細江

## 【事業・運営計画】

[訪問看護ステーション細江]

1. 厚生園との連携を強化し、訪問看護と障害者支援事業が一体となった静岡県下でモデルとなる事業展開のスタートを切る
2. 聖隷三方原病院との新たな協働を通し、『ときどき病院・ほぼ在宅』が実現する地域を目指す
3. 聖隷ケアセンターいなさとの取り組みを通し、湖北地区を丁寧に支援する
4. ラダーに組み込み、質向上を目指す

[聖隷ケアプランセンター細江]

1. 聖隷三方原病院サテライト機能を強化し、法人内近隣ケアプランセンターにとってのハブ事業所の役割を果たす
2. 聖隷三方原病院との連携・PR活動を強化し、退院後の生活ニーズに対応する
3. 厚生園への事業所移転に伴い、障害者相談支援事業所との協働をスタートする
4. 事業所全体で相談援助の知識・技術を向上させる

## 【数値指標】

訪問看護事業（訪問看護ステーション細江）

| 平均利用者 | 月平均訪問件数 | 年間訪問件数  | 単価（円）   | サービス活動<br>収益（千円） | 職員数<br>（常勤換算） |
|-------|---------|---------|---------|------------------|---------------|
| 118 名 | 719 件   | 8,637 件 | 9,390 円 | 86,184 千円        | 10.85 名       |

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター細江）

| 年間請求件数  |      | 平均単価（円）  |         | サテライト<br>（三方原）<br>年間担当件数 | サテライト<br>（三方原）<br>月額（円） | サービス<br>活動収益<br>（千円） | 職員数<br>（常勤換算） |
|---------|------|----------|---------|--------------------------|-------------------------|----------------------|---------------|
| 介護      | 予防   | 介護       | 予防      |                          |                         |                      |               |
| 2,010 件 | 84 件 | 17,500 円 | 3,951 円 | 108 件                    | 94,500 円                | 36,640 千円            | 5.0 名         |

# 引佐地区在宅複合事業

地域包括支援センター細江  
聖隷ケアプランセンターいなさ南部

## 【事業・運営計画】

[地域包括支援センター細江]

1. 2017年度の新「介護予防・日常生活支援総合事業」の開始を見据え、地域活動の支援と地域住民との連携を図る
2. 様々な相談に対応できる人材の育成を行う
3. 併設事業所との連携の強化と体制作りを進める
4. 高齢者と認知症の方の孤立化予防と支援を強化する
5. 地域の医療と介護の連携促進を図る

[聖隷ケアプランセンターいなさ南部]

1. 地域包括支援センター細江と密に連携し、新規利用者をスムーズに受けることで稼動を安定させる
2. 併設事業所と定期的に利用者の情報交換をし、連携して支援を行う
3. 研修会参加や併設事業所との事例検討を行い、ケアマネジメントの能力、質の向上を図る
4. 業務の効率化、働きやすい環境を作る

## 【数値指標】

地域包括支援事業（地域包括支援センター細江）

| 浜松市<br>受託収入<br>(千円) | 予防プラン<br>請求件数 | 内<br>再委託件数 | 予防プラン<br>単価 (円) | サービス<br>活動収益<br>(千円) | 職員数<br>(常勤換算) |
|---------------------|---------------|------------|-----------------|----------------------|---------------|
| 30,748 千円           | 4,584 件       | 3,036 件    | 4,590 円         | 39,138 千円            | 5.8 名         |

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンターいなさ南部）

| 年間請求件数  |       | 平均単価 (円) |         | 訪問調査<br>年間件数 | 訪問調査<br>単価 (円) | サービス<br>活動収益<br>(千円) | 職員数<br>(常勤換算) |
|---------|-------|----------|---------|--------------|----------------|----------------------|---------------|
| 介護      | 予防    | 介護       | 予防      |              |                |                      |               |
| 1,272 件 | 162 件 | 15,112 円 | 3,951 円 | 0 件          | 0 円            | 20,366 千円            | 4.0 名         |

# 聖隷リハビリプラザいなさ

## 【事業・運営計画】

1. 安定した経営に向けての新規利用者獲得と仕組みづくりを行う
2. 利用者の個別性に対応できる人材の育成を行う
3. 業務内容を整理し、効率的に仕事を行えるシステム作りを行う
4. 聖隷ケアセンターいなさの4事業所での連携を強化する
5. 地域へ向けた情報発信、地域貢献活動を行う

## 【数値指標】

|            | 介護        | 予防         |
|------------|-----------|------------|
| 利用者定員      | 45 名      | (45 名)     |
| 利用者延べ人数    | 4,787 名   | 493 名      |
| 1 日平均利用者数  | 19.8 名    | 10.4 名     |
| 稼働率        | 67.1%     |            |
| 稼働日数（延べ）   | 309 日     |            |
| 単価（一人一日当り） | 6,304 円   | 29,922 円/月 |
| サービス活動収益   | 30,177 千円 | 14,751 千円  |
| 職員数        | 8.8 名     |            |



# 三方原地区在宅複合事業

訪問看護ステーション三方原

聖隷ケアプランセンター三方原

## 【事業・運営計画】

[訪問看護ステーション三方原]

1. 病院・地域・相談支援部門との連携を強化し、特に医療保険利用者獲得を目指す
2. 自治会・民生委員との活動を通じ、訪問看護を地域に広める
3. 新卒看護師を迎え、体制整備と教育をスタッフ全員で行う
4. 三方原3事業所の連携を生かし、充実したサービスを実践する

[聖隷ケアプランセンター三方原]

1. エリア内の病院・施設・地域包括支援センターとの連携を強化する
2. 介護予防・日常生活支援総合事業への知識を深める
3. 三方原3事業所との取り組みから、他職種の視点や知識を学び、実践に生かす
4. 業務改善への積極的な取り組みを行う

## 【数値指標】

訪問看護事業（訪問看護ステーション三方原）

| 平均利用者 | 月平均訪問件数 | 年間訪問件数  | 単価（円）   | サービス活動<br>収益（千円） | 職員数<br>（常勤換算） |
|-------|---------|---------|---------|------------------|---------------|
| 114 人 | 679 件   | 8,149 件 | 9,450 円 | 78,364 千円        | 12.1 名        |

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター三方原）

| 年間請求件数  |       | 平均単価（円）  |         | 訪問調査<br>年間件数 | 訪問調査<br>単価（円） | サービス<br>活動収益<br>（千円） | 職員数<br>（常勤換算） |
|---------|-------|----------|---------|--------------|---------------|----------------------|---------------|
| 介護      | 予防    | 介護       | 予防      |              |               |                      |               |
| 1,902 件 | 366 件 | 15,600 円 | 3,951 円 | 12 件         | 4,320 円       | 28,276 千円            | 5.0 名         |

# 聖隷デイサービスセンター三方原

## 【事業・運営計画】

1. 聖隷内他事業所との連携の強化を図る
  - (ア) 浜松市リハビリテーション病院を退院した患者様へのシームレスな支援
  - (イ) ロコモサロンへの取り組み
2. リハビリテーション・ケアの効果をまとめ、サービスの質の向上を図る
  - (ア) 結果をまとめ、利用者・家族・ケアマネジャーに伝える「サービスの見える化」
  - (イ) 学会、研修会で発表し「発信力」を高める
3. 職員一人ひとりが「やりがい」をもって健康的に仕事ができる環境を整備する
  - (ア) 目標参画システム、ラダーを活用する
4. 三方原3事業所が協働して、研修会、地域貢献活動を行う

## 【数値指標】

|              | 介護        | 予防        |
|--------------|-----------|-----------|
| 利用者定員        | 65 名      |           |
| 利用者延べ人数      | 11,538 名  | 684 名     |
| 一日平均利用者数     | 37 名      | 13 名      |
| 稼働率          | 76.9%     |           |
| 稼働日数（延べ）     | 309 日     |           |
| 単価（一人一日当り）   | 6,172 円   | 33,194 円  |
| サービス活動収益(千円) | 71,212 千円 | 22,704 千円 |
| 正職員数（常勤換算）   | 7.1 名     |           |
| 職員数（常勤換算）    | 14.2 名    |           |

# 高丘地区在宅複合事業

訪問看護ステーション高丘

地域包括支援センター高丘

## 【事業・運営計画】

[訪問看護ステーション高丘]

1. 「リハビリ強化型のステーション」の一員として、スタッフ一人一人が行動できる基盤をつくとともに外部への発信を継続する
2. 高丘地域の特徴を活かした訪問を計画・実践し、拠点内の連携強化を図るとともに、浜松市リハビリテーション病院との連携基盤をつくる
3. 看護ラダーを運用し、質の高いサービスの提供及び人材の育成を行う

[地域包括支援センター高丘]

1. ロコモ事業をとおり、高丘拠点のそれぞれの事業所の連携を深める
2. 地域の状況を分析し、エリアを決めて順次個別訪問を行い、情報収集や新たなニーズの発掘をする
3. 新しい「介護予防・日常生活支援総合事業」への移行に向けた、地域資源の把握や地域の特徴に合わせた支援をすすめる
4. 浜松市との情報共有や報告の仕方を改善する

## 【数値指標】

訪問看護事業（訪問看護ステーション高丘）

| 平均利用者 | 月訪問件数   | 年訪問件数    | 単価（円）   | サービス活動<br>収益（千円） | 職員数<br>（常勤換算） |
|-------|---------|----------|---------|------------------|---------------|
| 192 名 | 1,003 件 | 12,040 件 | 8,900 円 | 109,428 千円       | 14.8 名        |

地域包括支援事業（地域包括支援センター高丘）

| 浜松市受託<br>収入（千円） | 予防プラン<br>請求数 | うち<br>再委託件数 | 予防プラン<br>単価（円） | サービス活動収益<br>（千円） | 職員数<br>（常勤換算） |
|-----------------|--------------|-------------|----------------|------------------|---------------|
| 26,895 千円       | 3,900 件      | 2,280 件     | 4,390 円        | 47,986 千円        | 6.5 名         |

# 聖隷リハビリプラザ IN 高丘

## 【事業・運営計画】

1. 訪問看護ステーション高丘、地域包括支援センター高丘とともに地域の拠点として活動する
2. 浜松市リハビリテーション病院と連携し、切れ目のないリハビリテーションサービスを提供する
3. リスクに対しての気づきの力を高め、質の高いサービスを提供する
4. 職員がやりがいや楽しみを持って働くことができる環境を整える
5. 介護保険外サービス（ロコ友活動の継続や新たな教室開設）に取り組む

## 【数値指標】

|              | 介護                 | 予防        |
|--------------|--------------------|-----------|
| 利用者定員        | 50 名               |           |
| 利用者延べ人数      | 6,688 名            | 600 名     |
| 一日平均利用者数     | 21.6 名             | 12.0 名    |
| 稼働率          | 67.2%              |           |
| 稼働日数（延べ）     | 309 日              |           |
| 単価（一人一日当り）   | 5,354 円            | 34,196 円  |
| サービス活動収益(千円) | 35,807 千円          | 20,517 千円 |
| 職員数（常勤換算）    | 14.9 名（うち 1 名は、産休） |           |

# 訪問看護ステーション浅田

## 【運営方針】

1. 医療依存度の高い利用者を受ける為、他機関にアピールしていく
  - (ア) 病院・医院・居宅介護支援事業所と電話や文章で細やかな連携をとる（判りやすく・優しく）
  - (イ) アンケートや各病院の連携看護師等との連携を通し、訪問看護ステーション浅田を印象付ける
2. 根拠に基づいた高い専門性と、利用者の立場に立った親しみやすく質の高い看護を行う
  - (ア) ケース検討や内外の研修を通して、情報の共有や新しい知識や技術を習得する
  - (イ) 利用者や他機関からの苦情や情報を真摯に受け止め、振り返りと行動の変容を行う
3. 安定した経営基盤を作る為、関わりの長い利用者（小児、障がい児・者、難病等）に対して訪問看護のサービスを提供する
  - (ア) 居宅介護支援事業所や相談支援事業所・病院相談室・在宅支援看護師にアピールする
  - (イ) 精神訪問看護の研修に2名参加し、精神の訪問看護も受けていく
4. 将来的に取り組みを検討している訪問以外での障がい児・者への新たな関わり方を模索する
  - (ア) 「児童発達支援事業所かるみあ」への研修を行い、兼務等も含め今後に結び付けられる様に前向きに検討する

## 【数値指標】

|    | 平均利用者数 | 月訪問件数 | 年訪問件数   | 単価       | サービス活動収益（千円） |
|----|--------|-------|---------|----------|--------------|
| 医療 | 42 名   | 286 件 | 3,388 件 | 11,000 円 | 36,428 千円    |
| 介護 | 85 名   | 430 件 | 5,181 件 | 9,100 円  | 47,147 千円    |
| 予防 | 12 名   | 32 件  | 384 件   | 8,900 円  | 3,417 千円     |

## 訪問看護ステーション住吉第二

### 【事業・運営計画】

1. さまざまな利用者層に対応できる訪問看護ステーションになる
  - (ア)在宅看護職ラダーをフルに活用して、訪問看護職員の能力開発を推進する
  - (イ)精神疾患を持つ人の訪問ニーズに対応できる看護師の育成（算定要件研修2名参加）
2. いつでも受け入れる体制づくり
  - (ア)訪問スタッフ1日6人体制とし、新規、連日・長時間・複数回訪問のニーズに対応
  - (イ)他事業所が難色を示す利用者を率先して受け入れる
3. 利用者と家族の社会参加やリフレッシュを支援する
  - (ア)デイサービスセンター住吉との連携を通し、互いの事業をより理解し、サービス調整する
  - (イ)在宅難病患者家族リフレッシュ事業を継続する
4. 経営基盤の安定を図る
  - (ア)居宅介護支援事業所、障害者支援相談所、浜松労災病院・東区の診療所への働きかけ
    - ①いつでも、どのようなケースでも受け入れるステーションを継続アピールする
    - ②紹介元居宅へ挨拶（自筆はがき）、居宅・障害支援専門員への情報提供をこまめに行う
  - (イ)訪問内容をこまめに見直し、訪問単価を上げる工夫をする
5. 仕事もプライベートもいきいきと居られる職場づくり
  - (ア)個人課題・目標を職場内共有し、声を掛け合い、「仕事を楽しまう」を合言葉にする
  - (イ)スタッフ6人体制、1人1日4～5件とし、超過勤務時間減少、有休取得率80%を目指す
6. 他事業所とともに電子システム試用のチャンスがあれば、積極的に取り組んでいく

### 【数値指標】

| 平均利用者数 | 月訪問件数 | 年訪問件数  | 単価(円)  | サービス活動収益<br>(千円) | 職員数(常勤換算) |
|--------|-------|--------|--------|------------------|-----------|
| 78名    | 470件  | 5,650件 | 9,200円 | 54,080千円         | 10名(9.5)  |

# 聖隷デイサービスセンター住吉

## 【事業・運営計画】

1. 利用者一人一人の個性・ニーズを把握し、在宅生活の維持、ＱＯＬ（生活の質）の維持ができるサービスの提供
  - (ア)適切な通所介護計画書の作成・評価を行い、個々のニーズに応じたサービスを提供する
  - (イ)聖隷内他事業所への研修や外部研修に参加し、ケアの振り返りや視野の拡大、自己能力の向上に繋げる
  - (ウ)介護職、機能訓練指導員、看護師、各々の専門職の情報を一元化し、より質の高いケアを提供する
2. 運営の安定化の推進
  - (ア)利用者の状態変化（重度化・医療依存度の高度化）にも対応したケアを提供する
  - (イ)拠点として組織力を強化するため、訪問看護ステーション住吉第二、ひばり保育園との連携を強化する
    - ①安全管理（事故・感染・防災）の委員会を合同で行う
    - ②業務連携や情報共有会議（合同会議、所長会議）を定期的に開催する
  - (ウ)地域に開かれた施設運営（地域行事への参加、ロコモトレニング事業の開催）に取り組む

## 【数値指標】

| 介護給付       |            |            | 予防給付       |            | 単価（円）     |           | サービス<br>活動収益<br>（千円） | 職員数<br>（常勤<br>換算） |
|------------|------------|------------|------------|------------|-----------|-----------|----------------------|-------------------|
| 平均<br>利用者数 | 月間<br>利用者数 | 年間<br>利用者数 | 月間<br>利用者数 | 年間<br>利用者数 | 介護<br>（月） | 予防<br>（月） |                      |                   |
| 27 名       | 695 名      | 8,343 名    | 19 名       | 228 名      | 9,686 円   | 34,663 円  | 88,713 千円            | 17.3 名            |

## 聖隷コミュニティケアセンター

### 【事業・運営計画】

1. 高丘エリアの聖隷の在宅事業所との連携を深め、地域の方々へ継ぎ目のないサービスを提供し、安心して生活して頂ける様努める
2. 福祉用具の役割、専門性を発揮し、地域の方々から信頼される事業所となる
3. 社会情勢や利用者の要望を捉え、新しい事業・サービスにチャレンジする
4. 聖隷の各病院に店舗があるメリットを最大限に活かし、専門性の高い病院と在宅を繋ぐ店舗になる。特に、浜松市リハビリテーション病院店の改善に重点を置く
5. 店舗形態について販売機能のみに囚われず、「店舗スペースをどう活用するか」という発想で取り組みを行う

### 【数値指標】

| レンタル件数(件) | 介護保険収益（千円） | 販売収益（千円）   | サービス活動収益(千円) |
|-----------|------------|------------|--------------|
| 9,552 件   | 155,354 千円 | 329,707 千円 | 485,061 千円   |



# 聖隷厚生園讃栄寮

讃栄寮 救護施設

讃栄寮 短期入所（障害者総合支援法）

近年、生活保護受給の世帯数は過去最多となり、障害のある方だけでなく失業や疾病により生活困窮された方が救護施設の利用者になっている。2016 年度は、讃栄寮の入所支援において地域移行支援や自立支援の見直しを行い、地域の社会資源との連携も意識しながら、ご利用者が自身の人生を自己決定すること、そのニーズに対応できる支援が展開できる事業運営を目指していく。また、讃栄寮は移転後、13 年目を迎え、老朽化による修理が多発している。そのために大規模な修繕計画を検討する。

## 【施設理念】

一人が癒されるために、一人があるべき姿に立帰るために  
一人の生命が真にまもり生かされるために、そして地域のために

## 【経営方針】

1. 人権尊重およびご利用者自己決定を重視した支援を行う
2. 経済的自立や社会的自立を目標に地域移行や社会参加を行う
3. 地域移行が困難なご利用者には、高齢者施設に移行するまで、安全かつ充実した生活を過ごすことのできる支援を行う

## 【事業・運営計画】

1. 利用者が主体的に自己決定できる生活支援の展開
  - (ア) 利用者が地域で実現したいことを最低一つ支援計画に取り入れる
  - (イ) 利用者が支援計画作成に参加し、自己決定を尊重した支援計画を作成する
  - (ウ) 「社会生活力プログラム」を活用し、自立した生活に必要な支援プログラムを実施する
  - (エ) 食物繊維の豊富な食事提供や水分コントロールで自然に排便ができるよう支援し、 Bristol スケール（便の形状分類表）で評価をする
  - (オ) 利用者が主体となって活動する行事を企画する
2. 地域の福祉ニーズに応じたサービスの展開
  - (ア) 施設内作業場を中間的就労支援事業所として申請し、地域の生活保護受給者を受け入れる
  - (イ) 短期入所事業で「もう一度利用したい」利用者を増やすため、環境整備、利用活動プログラムの見直しを行い、リピーター率を 80%とする
  - (ウ) 精神科病院と相互に見学会を行い、病院の治療環境の理解と、生活の場としての救護施設の機能を相互理解する
  - (エ) 地域の障害者相談支援事業所へ P R 活動を行い、短期入所事業の見学会を実施する

### 3. 居宅生活訓練事業と通所事業の安定的な運営

- (ア) 居宅生活訓練事業定員 3 名が 1 年間で通所事業に移行できるよう入所中から地域生活を想定した自立支援を提供する
- (イ) 通所事業利用 2 年間で地域定着できる支援を行う
- (ウ) 通所利用終了者の現在の状況を昨年開催した通所ＯＢ会のネットワークを活用して調査し、支援の必要性がある利用者の通所事業再利用を生活保護行政に提案する

### 4. サービスの質の向上と次世代の育成を目的とした人材育成

- (ア) 季節的に変調をきたす時期や悪化する予兆を個別にリスト化し、再発予防の為の服薬管理の徹底や集中的な面接支援等の早期介入によって、入院日数の 20%減少を目指す
- (イ) 事例検討を中心にケースワーク技術向上のための勉強会を聖隷クリストファー大学社会福祉学部と共同で計画し、学生も参加する勉強会を実施する
- (ウ) 『接遇チェックリスト』を作成し、管理者と職員で相互チェックを行い、利用者との支援関係が適切に構築できるよう意識向上を図る
- (エ) 精神保健福祉士、社会福祉士の実習指導者の養成研修に参加し、各指導者を 1 名確保する
- (オ) 職員による虐待防止セルフチェックを年 2 回以上実施し、虐待になる言動を職員が意識できるように促し、虐待防止に努める
- (カ) 高齢化の利用者に関して、身体機能リハビリの評価に基づき、必要な介護機器の導入を行う

### 5. 環境に配慮した施設整備への取組

- (ア) 大規模修繕を計画的に行うため、複数年修繕計画を作成する
- (イ) 水光熱費のコスト削減に取り組み、2015 年度対比 90%を達成する

#### 【数値指標】

|              | 讃栄寮        |         |                 |
|--------------|------------|---------|-----------------|
|              | 救護施設       | 救護通所    | 短期入所<br>(自立支援法) |
| 利用者定員        | 60 名       | 5 名     | 4 名             |
| 利用者延べ人数      | 23,973 名   | 1,830 名 | 1,098 名         |
| 一日平均利用者数     | 65.5 名     | 5.0 名   | 3.0 名           |
| 稼働率          | 109.2%     | 100.0%  | 75.0%           |
| 稼働日数（延べ）     | 366 日      | 366 日   | 366 日           |
| 単価（一人一日当り）   | 9,340 円    |         | 6,680 円         |
| サービス活動収益（千円） | 241,000 千円 |         | 7,335 千円        |
| 職員数（常勤換算）    | 30.8 名     |         |                 |

# 聖隷厚生園 信生寮

障がい者支援施設 聖隷厚生園信生寮

まじわりの家

障がい者相談支援事業所 信生

聖隷厚生園信生寮のご利用者は疾病や身体状況、年齢層が幅広く、求められるサービスも多様である。2016年度は、肢体不自由児・者の障がい福祉サービス範囲内の既成概念にとらわれない発想で、サービス等の組み合わせによる付加価値を見いだすことのできる施設運営を目指す。具体的には2つの取り組みを重点的に考えている。1点目は信生寮1F部分に移転を計画している高齢者在宅事業（訪問看護、居宅介護支援等）との連携による個別支援の質的向上や新たな地域のニーズの発掘、2点目は、ナルド工房との協働による就労継続支援A型事業（雇用型、定員10名）を開始させ、法人内の障がい者法定雇用率の達成に貢献し、介護業界で障がい者が働くモデルを創造する。また労働生産人口が今後減少していくことを踏まえ、介護人材の育成・発掘にも貢献できる取り組みをする。福祉体験や介護実習等の受け入れを積極的に行い、介護の担い手をふやすための取り組みを行う。

## 【施設理念】

一人が癒されるために、一人があるべき姿に立帰るために  
一人の生命が真にまもり生かされるために、そして地域のために

## 【経営方針】

1. “ご利用者主体” “できること” に着目した支援の提供
2. 多様なサービスとの組み合わせによる新たなサービスの創造
3. 相手の尊厳を守る支援の実践
4. 人材育成と発掘のための啓発活動の推進
5. 施設会計の円滑化と衛生管理体制の向上
6. 環境に配慮した経営と地域貢献への取り組み

## 【事業・運営計画】

1. “ご利用者主体” “できること” に着目した支援の提供
  - (ア) 個別支援計画に最低1つ以上“できること”に着目したプランを立案し、利用者が主体的に生活できるように支援する
  - (イ) 利用者が健康に過ごせるように排便コントロールを見直し、苦痛のない自然排便ができる支援を多職種協働で行う
  - (ウ) 経管栄養者が希望している経口移行支援を多職種協働で実現させ、学会発表する
  - (エ) すべての施設行事計画に利用者が参画できるようにする
  - (オ) 多様な日用品購入方法を検討し、“選択できる機会”を利用者に提供し、自律を促す
  - (カ) 介護職員によるたん吸引・経管栄養、医行為除外行為の安全性を確保するため、看護職員によるチェック体制を整え、継続する

## 2. 多様なサービスの組み合わせによる新たなサービスの創造

- (ア) 1F ピロティ部分に移転する訪問看護ステーション細江、ケアプランセンター細江等と連携し、在宅者の生活の質を向上させる取り組みを行う
- (イ) ナルド工房との協働で就労継続支援 A 型事業（雇用型 定員 10 名）を開始し、新しい労働力として、介護業務の一部を障がい者が担えるモデルを創造する
- (ウ) 短期入所事業は障がい児や緊急性の高いケースの受け入れを積極的に行う
- (エ) 医療的ケア（たん吸引、胃ろう）が必要な利用者の受け入れを 2015 年度以上に行う

## 3. 相手の尊厳を守る支援の実践

- (ア) 接遇のあり方を見直し、相手の尊厳を大切にしたい言動ができる職場環境を作る
- (イ) 職員による虐待防止セルフチェックを年 2 回以上実施し、虐待につながる言動を職員が意識できるように促し、虐待防止に努める

## 4. 人材育成と発掘のための啓発活動の推進

- (ア) 事例や実務に基づいた介護技術向上のための定期勉強会の計画を立て実施する
- (イ) 『教育担当者委員会』での新人育成のあり方を振り返り、さらに効率的に行えるように見直し、改善を図る
- (ウ) 介護福祉士、社会福祉士の各養成校との連携強化を図り、学生が卒業後「介護・福祉業界で働いてみたい」と思えるような学習の機会を提供する
- (エ) E P A 候補生の就業、学習の場を整え、円滑に新規受け入れができるようにする

## 5. 施設会計の円滑化と衛生管理体制の向上

- (ア) 磐田市障害者総合支援施設開設に向けて運営管理部門の準備と担当者育成を行う
- (イ) 感染予防対策を見直し、利用者への集団感染を防ぐ取り組みを強化する
- (ウ) 職員の作業手順、作業環境管理を見直し、特に腰痛予防対策の徹底を図る

## 6. 環境に配慮した経営と地域貢献への取り組み

- (ア) 水光熱費、オムツの使用量を月ごとに職場内周知を図り、基準年度とした 2012 年度から－2%を目指す
- (イ) 効率的に修繕する流れを作り、修繕費を過去 3 年平均から－10%を目指す

### 【数値指標】

|              | 信生寮        |           |          | まじわりの家    |         | 信生          |            |
|--------------|------------|-----------|----------|-----------|---------|-------------|------------|
|              | 入所         | 短期        | 日中一時     | 生活介護      | 機能訓練    | 浜松市<br>相談支援 | 指定<br>相談支援 |
| 利用者定員        | 60 名       | 10 名      | －        | 14 名      | 6 名     | －           | －          |
| 利用者延べ人数      | 21,864 名   | 3,849 名   | 2,700 時間 | 4,037 名   | 1,566 名 | －           | －          |
| 一日平均利用者数     | 59.9 名     | 10.5 名    | －        | 15.8 名    | 6.0 名   | －           | －          |
| 稼働率          | 99.8%      | 105.5%    | －        | 112.2%    | 100.0%  | －           | －          |
| 稼働日数（延べ）     | 366 日      | 366 日     | 366 日    | 257 日     | 257 日   | －           | －          |
| 単価（一人一日当り）   | 16,486 円   | 9,130 円   | －        | 14,018 円  |         | －           | －          |
| サービス活動収益（千円） | 360,457 千円 | 35,141 千円 | 2,927 千円 | 78,546 千円 |         | 9,073 千円    | 14,076 千円  |
| 職員数（常勤換算）    | 64.9 名     |           |          | 14.2 名    |         | 4.0 名       |            |

## 聖隷厚生園 障害児者在宅事業（浜松）

ナルド工房

チャレンジ工房

きらめき工房

生活訓練事業所ナルド

障害者相談支援事業所ナルド

地域活動支援センターナルド

2016年度は、障害者総合支援法施行後3年の見直しがある。制度や法律、時代のニーズを的確に汲み取り、社会情勢に合わせた幅広く柔軟な対応力が不可欠である。また、中期計画の初年度でもあり、新たな障害福祉サービスを創造する元年と捉えたい。そして、2017年度に開設予定である「（仮称）磐田市障害児者総合支援施設」に向けた準備を着実に進めなければならない。そのためにも、既存施設のさらなる安定的経営の充実と事業拡大に向けた人材育成、人材確保を同時に取り組む必要がある。

2016年度は、①事業拡大に向けた既存施設のさらなる安定的経営、②就労継続支援A型事業の開設、③「就職3年定着」に向けた取り組み、④包括的相談支援に対応すべき人材の育成及び確保、⑤2017年度に新たに開設する「磐田市障害児者総合支援施設（仮）」に向けた準備、などを念頭において計画に取り組みたい。

### 【施設理念】

一人が癒されるために、一人があるべき姿に立ち帰るために  
一人の生命が真にまもり生かされるために、そして地域のために

### 【経営方針】

1. 利用者が仕事にやりがいを感じられる新たな就労モデルの創出と実行
2. 「就職3年定着」を意識した就労支援の実践
3. 「（仮称）磐田市障害児者総合支援施設」開設に向けた取り組み
4. 利用者が生活の中で訓練成果を実感できる支援の提供
5. 包括的相談支援を意識した相談支援事業への取り組み
6. 新規契約者獲得のための受け入れ体制の構築
7. 利用者理解を深める人材育成と業務改善

### 【事業・運営計画】

#### 就労支援事業

1. 利用者が仕事にやりがいを感じられる新たな就労モデルの創出と実行
  - （ア）新規作業の導入、新商品の開発、既存作業の活性化を図る
  - （イ）高水準の就職実績と工賃実績が両立する就労支援施設として機能させる
  - （ウ）就労継続支援A型事業を新たに創設し、介護分野における就労支援モデルを作り出す

(エ) ベッドメイク作業のパッケージ化を図り、関係施設へ拡大し、就労訓練として利用者支援に役立てる

(オ) 工賃向上に向けて、作業種目ごとに、ご利用者と一緒に考え、計画や実行を側面から支える支援を実行する

## 2. 「就職3年定着」を意識した就労支援の実践

(ア) ナルド工房10名、チャレンジ工房10名、きらめき工房8名の就職者を輩出する

(イ) ジョブコーチセンターの設立を目指し、体制・人員・方法の具体的検討を行う

(ウ) 就職3年以上のご利用者の動向を確認し、就職期間が長期となった利用者へ支援を強める（ステップアップ就職や再訓練の検討）

(エ) 法人内施設のリネン、介護補助、厨房系、その他の就職ルートを確立する

## 3. 「(仮称) 磐田市障害児者総合支援施設」開設に向けた取り組み

(ア) 主力作業となるパン製造販売をきらめき工房で開始し、保育施設・障害施設・高齢者施設に提供を提案し、販売ルートを確立する

(イ) きらめき工房を中心に、磐田市、児童発達支援事業所かすみあとの連携により、作業メニューの確立、利用者確保、開設に向けた準備を進める

## 《生活訓練事業》

### 1. 利用者が生活の中で訓練成果を実感できる支援の提供

(ア) 訪問介護等の在宅サービスと連携し、利用者が習得した日常生活技能を実生活で活かせる取り組みを行う

(イ) 高齢化に対する機能・体力維持や疾病管理の支援を意識したプログラムを提供する

## 《相談支援事業等》

### 1. 包括的相談支援を意識した相談支援事業への取り組み

(ア) 高齢者の在宅サービス事業（訪問看護・訪問介護・居宅介護支援）等と連携し、協働による支援困難ケースへの対応にあたる

(イ) 地域包括支援センター、生活困窮者支援センターなどの各関係機関との連携した相談支援を展開する

## 《共通事項》

### 1. 新規契約者獲得のための受け入れ体制の構築

(ア) 病院や相談事業所、施設へ事業内容や方針の案内を行い、情報収集と対象者の発掘を行う

(イ) 特別支援学校の教員や保護者、相談支援専門員向けの工房作業体験会を提案する

(ウ) 離職者の再チャレンジの受け入れを積極的に行う

### 2. 利用者理解を深める人材育成と業務改善

(ア) 全職員、年1回以上は外部研修に参加する

(イ) 施設ごとに、職員全員が持ち回りで年間スケジュールを立てて勉強会を実施する

(ウ) 支援方法の検討会と虐待防止のセルフチェックを各施設で年2回以上実施する

(エ) サービス管理責任者、相談支援専門員などの有資格者の確保と育成に努める

(オ) ケアマネジメントの手法に基づいた個別支援計画の立案の方法を再検討する

(カ) 多岐に及ぶ事業所間の共通認識を図るため、施設間交流研修を実施する

【数値目標】

|              | ナルド工房     |           | チャレンジ工房   |           | きらめき工房    |           |
|--------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
|              | 就労移行      | 就労継続      | 就労移行      | 就労継続      | 就労移行      | 就労継続      |
| 利 用 者 定 員    | 20 名      | 15 名      | 15 名      | 15 名      | 15 名      | 15 名      |
| 利用者延べ人数      | 4,098 名   | 4,186 名   | 3,228 名   | 3,632 名   | 4,011 名   | 4,011 名   |
| 一日平均利用者数     | 15.6 名    | 15.9 名    | 12.0 名    | 13.5 名    | 12.9 名    | 12.9 名    |
| 稼働率          | 77.9%     | 106.1%    | 80.0%     | 90.0%     | 86.0%     | 86.0%     |
| 稼働日数（延べ）     | 263 日     | 263 日     | 269 日     | 269 日     | 311 日     | 311 日     |
| 単価（一人一日当り）   | 15,930 円  | 8,757 円   | 12,969 円  | 9,271 円   | 10,923 円  | 9,283 円   |
| サービス活動収益（千円） | 65,282 千円 | 36,656 千円 | 41,864 千円 | 33,672 千円 | 43,812 千円 | 37,233 千円 |
| 職員数（常勤換算）    | 15.1 名    |           | 12.8 名    |           | 12.5 名    |           |

|              | 生活訓練ナルド   |         | 相談支援事業ナルド   |            |
|--------------|-----------|---------|-------------|------------|
|              | 生活訓練      | 生活介護    | 浜松市<br>相談支援 | 指定<br>相談支援 |
| 利 用 者 定 員    | 14 名      | 6 名     | - 名         | - 名        |
| 利用者延べ人数      | 3,493 名   | 1,476 名 | - 名         | - 名        |
| 一日平均利用者数     | 13.0 名    | 6.0 名   | - 名         | - 名        |
| 稼働率          | 93.4%     | 98.8%   | - %         | - %        |
| 稼働日数（延べ）     | 267 日     | 249 日   | - 日         | - 日        |
| 単価（一人一日当り）   | 7,818 円   |         | - 円         | - 円        |
| サービス活動収益（千円） | 38,850 千円 |         | 9,075 千円    | 16,930 千円  |
| 職員数（常勤換算）    | 5.7 名     |         | 4.0 名       |            |

# 聖隷厚生園 障害児者在宅事業（磐田）

磐田市発達支援センターはあと

児童発達支援事業所かるみあ

2008 年、磐田市発達支援センター「はあと」（以下、はあと）の受託を開始し、8 年経過する。子育て支援に力を注ぐ磐田市の行政施策のもと、発達障害に対する早期発見・早期支援に重点を置いてきた。早期発見はされるものの、その後のフォロー体制が整わないため、継続して長期的な支援が必要な子どもが増加している。早期支援の受け皿として、児童発達支援事業所「かるみあ」（以下、かるみあ）を 2013 年に開設した。2016 年度は、増加する利用希望児への対応として、児童発達支援事業所「かるみあ豊田」（以下、かるみあ豊田）を独立した事業所として展開する。また、乳幼児期から就労まで途切れることなく総合的な支援を提供することで、地域の一員となる力を育てられるよう「（仮称）磐田市障害児者総合支援施設」の開設準備を行う。最後に、児童発達支援センターと発達支援センターとの業務整理が国で進んでいる。国の動向を見つつ、磐田市にてどのようなサービスを展開することが子ども・保護者・関係施設（園・学校）にとって有効なのか検討したい。

2016 年度は、①児童発達支援事業所の安定的運営、②家族支援の充実、③発達支援センターにおける機関支援の強化、④「（仮称）磐田市障害児者総合支援施設」開設に向けた準備⑤職員が成長できる体制の確立の 5 点に重点を置き、磐田市民および関係機関の要請に応えた専門性の高い事業を展開する。

## 【施設理念】

一人が癒されるために、一人があるべき姿に立ち帰るために  
一人の生命が真にまもり生かされるために、そして地域のために

## 【経営方針】

1. 子どもの“できそうなこと”に着目した支援の実現
2. 家族支援の充実
3. 地域からの要請に応じたサービス展開
4. 職員が成長できる体制の確立と安定した人材確保に取り組む

## 【事業・運営計画】

1. 子どもの“できそうなこと”に着目した支援の実現
  - （ア）子どもの発達段階を正確に把握する
  - （イ）療育プログラムの立案、実行、振り返りを行う
  - （ウ）家族が“子どもの成長を実感できる”個別支援計画を作成する
2. 家族支援の充実
  - （ア）子どもと向き合い、主体的に子育てについて考える機会を提供できるよう、家族に合わせた助言や関わりを行う



- (イ) 家庭訪問・保護者懇談会にて、保護者の思いや願いを引き出す
- (ウ) 年度末に、保護者満足度評価を実施する
3. 地域からの要請に応じたサービスの展開
- (ア) 待機児童に対する対応を検討する
- ①「かるみあ豊田」を単独事業所として設立する
- ②待機児童児対応のため、「かるみあ」「かるみあ豊田」合同にて新規受入検討会を行う
- ③「はあと」相談希望者（待機期間 4 か月以上）は、所属機関と連携し、フォロー体制を整える
- (イ) 機関支援の強化
- ①「困り感の原因」について多面的評価を行い、実施可能な支援方針を検討する
- ②「客観的な指標」を活用しながら、園・学校に対してコンサルテーションを行う
- ③健診事後教室との協力体制整備、幼稚園との支援目標共有・連携体制を強化する
- (ウ)「(仮称) 磐田市障害児者総合支援施設」開設に向けた準備
- ①放課後等デイサービスのプログラムを作成する
- ②児童受入体制（製作物・掲示物・療育備品）を整え、療育プログラムを作成する
- ③定期的な保護者説明会を実施し、スムーズな移転を行う
4. 職員が成長できる体制の確立と安定した人材確保に取り組む
- (ア) プリセプター制度を見直し、OJTが着実に行われるようにする
- (イ) 外部研修の拡大と、利用児童やその家族に向けて情報発信するツールをつくる
- (ウ) 効果的、効率的に業務を遂行できるよう、ムリ・ムラ・ムダをチェックする体制を整える
- (エ) ボランティアや学生の体験実習を積極的に受け入れるとともに経験者の雇用を推進する

【数値指標】

|              | はあと       | かるみあ         |                    |        |         |
|--------------|-----------|--------------|--------------------|--------|---------|
|              | 発達障害等支援   | 児童発達<br>かるみあ | 児童発達<br>かるみあ<br>豊田 | 保育所等訪問 | 日中一時    |
| 利 用 者 定 員    | -名        | 20 名         | 10 名               | - 名    | - 名     |
| 利用者 延 べ 人 数  | -名        | 4,700 名      | 2,312 名            | 692 名  | 2,640 名 |
| 一日平均利用者数     | -名        | 19.9 名       | 9.7 名              | 3.8 名  | 11.2 名  |
| 稼 働 率        | -%        | 99.6%        | 96.7%              | - %    | - %     |
| 稼働日数（延べ）     | -日        | 236 日        | 239 日              | 180 日  | 236 日   |
| 単価（一人一日当り）   | - 円       | 7,354 円      |                    |        |         |
| サービス活動収益（千円） | 26,791 千円 | 76,645 千円    |                    |        |         |
| 職員数（常勤換算）    | 8.1 名     | 21.6 名       |                    |        |         |

## 聖隷厚生園 浜松市生活自立相談支援センター つながり

2014 年度、生活困窮者自立支援法が成立し全国各地でモデル事業が実施され、2015 年には法の本格稼働にともない全国に計 901 か所の相談窓口が開設された。当事業所は 2014 年度のモデル事業に引き続き 2 年目の受託である。2015 年度は、モデル事業による普及啓発活動の影響もあり、各方面から多数の相談が寄せられた。生活困窮状態にある方たちの「生活再建」を目標に、自立相談支援事業、就労準備支援事業、学習支援事業の 3 事業に一体的に取り組んだ 1 年であった。

2016 年度は、前年度のテーマを引き継ぎ、①生活圏ネットワークモデルの強化・充実、②個別支援関係のさらなる重視、③「負」の世代間連鎖の解明と阻止の 3 点について重点的に取り組むとともに、④学習支援や⑤就労支援にも積極的に取り組んでいく。

### 【施設理念】

- 一人が癒されるために、一人があるべき姿に立帰るために
- 一人の生命が真にまもり生かされるために、そして地域のために

### 【経営方針】

1. 年齢や置かれた状況にかかわらず、その人らしい「生活の再建」を支援する
2. 既存のサービスにとらわれず「新たなサービス」を開拓・創造する

### 【事業・運営計画】

1. 生活圏ネットワークモデルの強化・充実
  - (ア) 西区の安心ネットワークを中心に生活圏ネットワークモデルを具現化する
  - (イ) 地域ケア会議(圏域会議)に参加し事業の具体的説明を行うとともに連携事例を発見する
  - (ウ) 個別事例について地区民生委員・関係機関に情報提供を行う
  - (エ) 各地区の実践報告会・研修会等で事業実績や生活困窮事例を紹介する
2. 個別支援関係のさらなる重視
  - (ア) 生活困窮者の世代別ニーズに見合う事業周知方法を具体化する
  - (イ) 一人親・転職希望女性、高齢者等を対象に「ステップアップ就労」を企画する
  - (ウ) 法人内各施設の協力を得て「中間的就労」の場を開拓する
  - (エ) 自立相談支援員のスキルアップを目的に事業所内外の勉強会等に参加する
3. 負の世代間連鎖の解明と阻止
  - (ア) 生活技能(家事技能)が未形成な事例を対象に生活技能に焦点を当てたかわりを持つ
  - (イ) 就労概念が未形成な事例を対象に社会生活技能訓練等を中心とした企画を実施する
  - (ウ) 事業報告書等で生活困窮事例の分析を行い、その傾向を把握する

#### 4. 学習サポート事業の拡大

- (ア) 学習サポート事業を中区以外にも開設する
- (イ) 学習サポート卒業生を対象に高校定着・退学防止支援（学び直しの場の提供）を行う
- (ウ) 学習サポート事業の卒業生を「学習サポーター」として招き入れる

#### 5. 就労支援

- (ア) 50～60代の単身者、一人親世帯、再就職女性等を対象に月5名を就職につなげる
- (イ) 一般企業・ハローワーク・つながりが一体となり、インターンシップ環境を構築する
- (ウ) 就労支援対象者のうち、就職率80%および6ヶ月離職率70%を目指す

#### 6. 実践の言語化

- (ア) 静岡県が行う伝達研修において講師を務める。
- (イ) 全国の研修や学会等において日頃の実践を発表する
- (ウ) スタッフ1人1研修に参加し、実践力の向上と全県・全国のレベルの把握を行う

#### 【数値指標】

|                 | つながり           |          |
|-----------------|----------------|----------|
|                 | 浜松市生活困窮者自立支援事業 | 学習サポート事業 |
| 利 用 者 定 員       | - 名            | - 名      |
| 利 用 者 延 べ 人 数   | - 名            | - 名      |
| 一 日 平 均 利 用 者 数 | - 名            | - 名      |
| 稼 働 率           | - %            | - %      |
| 稼 働 日 数 （ 延 べ ） | - 日            | - 日      |
| 単価(一人一日当り)      | - 円            | - 円      |
| サービス活動収益（千円）    | 48,486 千円      | 一千円      |
| 職員数（常勤換算）       | 9.2 名          | 2.4 名    |

# 浜北愛光園

特別養護老人ホーム浜北愛光園

高菌デイサービスセンター

障害者相談支援事業所浜松東

訪問看護ステーション貴布祢

聖隷ケアプランセンター浜北

地域包括支援センター北浜

浜北地区においては、医療ニーズの高まり、障がい者（児）施策の充実、そしてこれらへの対応を含む地域包括ケアシステム構築の推進が喫緊の福祉・介護課題となっている。近年は法人の垣根を超えた連携も徐々に深まりつつあるものの、増え続ける各種ニーズに応えていくためには更に協力・協働体制を強化していくことが共通認識されている。そのような状況下、浜北愛光園は『大規模・多機能・高機能の複合福祉拠点』という強みを有する重要な社会資源であり、医療系サービスで始まったデータ共有など様々な試みに参画しつつ、地域包括ケアの一翼を担えるよう一層の役割発揮をしていく。一方で福祉・医療・介護分野における人材の不足は当面続くと思われるため、今後は介護者の負担軽減・子育てと仕事の両立支援・多様な働き方ができる仕組みづくり等の施策にも重点を置きたい。

2016年度はこのような現況を踏まえ、事業面では関係機関との連携・協働の一層の強化、高度医療・障がい・併給ケースや困難ケースへの対応力強化とワンストップ化の促進を図り、組織運営面では働き甲斐と働きやすさを重視した魅力ある職場づくりを推進する。ICT化による業務の合理化・高効率化と、介護機器類の導入・更新による負荷軽減・安全性向上を図りつつ、地域に積極的に向き、「聖隷の施設を選んでよかった」と地域から信頼され愛される施設づくりに取り組んでいきたい。

## 【施設理念】

わたしたちは利用者と職員の「その人らしい自立（自律）」を大切にしたい施設づくりを追求します

## 【経営方針】

1. 利用者満足の向上のために、既存サービスの質の向上及び他事業所との連携を通じて、高齢者・障害者複合サービス拠点としての機能強化に取り組む
2. 職員満足の向上のために、採用・教育・資格取得支援等を通じて多様な人材育成に取り組むとともに、職員にとってやりがいと成長実感・達成感がある施設づくりを目指す
3. 健全な経営の推進のために常に業務の改善と効率化に努めるとともに、連携の強化と新たなサービスの開拓に取り組む
4. 環境に配慮した経営と災害拠点としての役割、社会福祉法人としての使命を果たすことを通じて、地域貢献に取り組む

## 【事業・運営計画】

### 1. 利用者満足の向上

- (ア) 地域包括ケア推進のために、地域包括支援センター及び在宅事業と地域の中核病院・在宅支援診療所等と連携し、ご利用者に切れ目なく必要な医療や介護を提供していく体制を整えていく。
- (イ) ケアプラン作成・実行・評価がより確実にできるために、マネジメント・フローを改善し、個別ケアの質の向上と稼働率・リピート率の向上を図る
- (ウ) 身体だけでなく心も癒される事業所づくりを目指して、心地よい介護への改善と接遇サービス・ホスピタリティの向上を促進するとともに、接遇クレーム0を維持する
- (エ) 高齢者と障がい者・児の相談窓口のワンストップ化を推進し、併給ケースであっても迅速な相談支援と必要なサービス利用支援に繋げていく

### 2. 職員満足度の向上

- (ア) 次世代リーダー候補者を発掘・育成するために、役職者・リーダー級職員のプリセプター制度を点検・評価の上、継続する。また一般職員向けプリセプター2年制度を継続し、職場の全員が人材育成上の役割をもつチーム教育システムの定着を図る
- (イ) 業務のICT化の促進と介護支援機器の導入により、業務の効率化・介護者の負担軽減のための環境改善を図る
- (ウ) 介護福祉士・介護支援専門員等の資格取得率向上のための学習機会を提供するとともにEPA介護福祉士合格者を活用して後輩候補生の学習支援・相談サポート等を行う
- (エ) 園内保育・園内学童保育・相談など仕事と育児の両立をサポートできるよう対策を検討し講じるとともに、短時間求職者や高齢者も福祉・介護事業に参画できるよう体制を整える

### 3. 健全な経営の継承、向上

- (ア) 法令や規則に準拠した適正な施設経営の継続と事業団中期事業目標の達成を両立させていくとともに、広報紙やホームページ等を通じて積極的に広報していく
- (イ) 事業部間・エリア間・拠点間の連携を踏まえ、既存事業における機会損失の低減に努めるとともに、地域における福祉課題や介護ニーズの掘り起しと事業化を検討する
- (ウ) 年度事業計画・予算を確実に達成していくために、月例会議等において経営指標を活用したPDCAに努める
- (エ) 地域における高齢者の居場所づくりや生活サポートなど、社会福祉法人としての社会貢献活動に積極的に取り組む

### 4. 地域貢献等のための活動、広報等

- (ア) 環境に配慮した経営のために、エネルギー消費量・CO<sub>2</sub>排出量の抑制を意識した事業活動を継続する
- (イ) 地域災害対策拠点施設として、町内会・自治会の防災訓練に参加する
- (ウ) 高齢者向けサロンの開催、民生・児童委員会との交流機会を継続し、地域における高齢

者福祉活動に積極的に参画する

(エ) 福祉教育や実習機会等を通じて、福祉・介護の魅力とやりがいを発信・伝播していく

# 【数値指標】

高齢者入所・短期入所・通所・相談支援関係事業

|                  | 浜北愛光園         |               |              |              | 高菌デイサービス     |        | 障害者<br>相談支援<br>浜松東 |
|------------------|---------------|---------------|--------------|--------------|--------------|--------|--------------------|
|                  | 特養入所          |               | 短期入所         |              | 通所介護         |        |                    |
|                  |               |               |              |              | 一般型          | 予防     |                    |
| 従来型              | ユニット型         | 従来型           | ユニット型        | 一般型          | 予防           |        |                    |
| 利 用 者 定 員        | 50 名          | 100 名         | 20 名         | 20 名         | 35 名         |        |                    |
| 利 用 延 数          | 18,250 名      | 36,500 名      | 5,611 名      | 4,964 名      | 7,002 名      | 473 名  |                    |
| 一日平均利用者数         | 50 名          | 100 名         | 15.37 名      | 13.97 名      | 22.73 名      | 1.53 名 |                    |
| 稼 動 率 （ % ）      | 100%          | 100%          | 76.9%        | 68.0%        | 69.34%       |        |                    |
| 稼動延日数            | 365 日         | 365 日         | 365 日        | 365 日        | 308 日        |        |                    |
| 平 均 介 護 度        | 4.11          | 3.78          | 3.30         | 3.31         | 2.13         |        |                    |
| 単価（一人一日）         | 12,062 円      | 13,652 円      | 10,948 円     | 13,329 円     | 9,949 円      |        |                    |
| サービス活動収益<br>（千円） | 220,922<br>千円 | 498,407<br>千円 | 61,431<br>千円 | 66,163<br>千円 | 74,498<br>千円 |        | 17,982<br>千円       |
| 職員数(常勤換算)        | 35.9 名        | 59.7 名        | 11.7 名       | 13.2 名       | 15.1 名       |        | 2.8 名              |

訪問看護事業(訪問看護ステーション貴布祢)

| 平均利用者数 | 月訪問件数 | 年訪問件数  | 単価(円)  | サービス活動収益<br>(千円) | 職員数<br>(常勤換算) |
|--------|-------|--------|--------|------------------|---------------|
| 113名   | 694件  | 8,322件 | 9,595円 | 80,494千円         | 13.0名         |

居宅介護支援事業(聖隷ケアプランセンター浜北)

| 年間請求件数 |      | 平均単価(円) |        | 訪問調査<br>年間件数 | 訪問調査<br>単価(円) | サービス<br>活動収益<br>(千円) | 職員数<br>(常勤換算) |
|--------|------|---------|--------|--------------|---------------|----------------------|---------------|
| 介護     | 予防   | 介護      | 予防     |              |               |                      |               |
| 1,862件 | 176件 | 15,818円 | 3,951円 | 36件          | 4,320円        | 32,430千円             | 4.7名          |

地域包括支援事業(地域包括支援センター北浜)

| 浜松市受託収入<br>(千円) | 予防プラン<br>請求件数 | うち<br>再委託件数 | 予防プラン<br>単価(円) | サービス活動収益<br>(千円) | 職員数<br>(常勤換算) |
|-----------------|---------------|-------------|----------------|------------------|---------------|
| 24,618千円        | 2,100件        | 720件        | 4,350円         | 33,753千円         | 5.4名          |

# 森町愛光園

特別養護老人ホーム森町愛光園

地域密着型森町愛光園

森町愛光園天宮サテライト

短期入所生活介護及び短期入所：障害

デイサービスセンター

ホームヘルパーステーション

聖隷ケアプランセンター森町

在宅介護支援センター

2015年度の介護保険報酬改定による影響は各事業における稼働率の維持と新規加算の取得により乗り切ることができた。しかし、建築後24年目を迎えた本体施設は設備機器の更新や修繕などの支出も増加しており支出の増加は否めない。そこで、2016年度は人員の配置や事業の拡大などにより、各事業の生産性を向上させ収益の確保を目指したい。昨年来検討している「天宮サテライトへのホームヘルパーステーションおよび聖隷ケアプランセンター森町の移転・拡充」や、「町内におけるデイサービス増設」などを、サービス提供の効率性と費用対効果そして森町の保健福祉計画との整合性を判断し実行へ移していきたい。

また、町内唯一の特別養護老人ホームとしてサービス水準の向上を心がけ、利用者、家族、地域、職員へのブランディングを意識して行っていきたい。内部的には接遇向上は継続課題として各事業にて実施する。外部的には施設機能の地域展開として、町内の施策への発信力や企画力、地域活動への人材の提供などを通じて職員の育成を図っていきたい。

## 【施設理念】

わたしたちは、ご利用者・地域・職員の「幸せ」のために最善を尽くします

## 【経営方針】

1. わたしたちは、利用者の尊厳を守ることを第一とし、一人ひとりのQOLの向上をめざし、誠実かつ献身的に仕えます
2. わたしたちは、福祉・介護サービスを通して、地域の人々が安心して住み続けられる社会づくりに貢献します
3. わたしたちは、質の高いサービス提供に必要な人材の確保と育成に努め、「安心と効率の追求」と「働きやすくやりがいのある職場環境」の両立を実現します
4. わたしたちは、これらのことに継続的に取り組み、創造性・持続性・実現可能性を高めていくことができる組織づくりを目指します

## 【事業・運営計画】

### 1. 【入所部門】 重度化に向けたケアの質の向上と経営リスクを回避する

- (ア) 利用者の生活の質を著しく低下させる誤嚥性肺炎の入院を防ぐため、嚥下機能低下者への食事介助・口腔ケア技術の向上を図るための研修参加や、痰吸引研修参加の継続と、既修了者のフォローアップ教育の導入を実施する
- (イ) 経口維持加算の取得体制の構築と件数増加を図り、適切な口腔ケアの提供を実施する
- (ウ) 入院日数の減少に向けた取り組みを継続(看護師・相談員による病棟訪問と情報共有)し、空床日数の削減を目指す
- (エ) 認知症関連研修の計画的参加により、認知症の周辺症状への対応力を向上する
- (オ) サービス満足度向上への取り組み(接遇)を委員会および職場単位で実施し、施設サービスへの苦情件数ゼロを達成する

### 2. 【在宅部門】 在宅生活者を軽度から支えるサービスの充実化を図る

- (ア) サービス満足度(本人の満足と家族レスパイトの満足)を向上させることでリピート率を上げ、ショートステイの稼働率の向上につなげる
- (イ) 通所介護においては機能訓練メニューの充実化(個別機能訓練加算Ⅱの開始)および認知症加算を算定することで、町内他事業所との差別化を図り稼働率を向上させる
- (ウ) 訪問介護では保険外の実費サービスの導入および障害者向けの訪問介護(障害者総合支援法)を開始することで、地域の多様なニーズへ応える体制を整える
- (エ) 医療サービスから介護保険サービスへの利用者の流れを円滑にするために、公立森町病院内に居宅介護支援事業所窓口を開設するための働きかけを実施する
- (オ) 民生・児童委員の会合への参加、地域向け介護者教室など、施設外へ「出向く」ことによるニーズ発掘を行う

### 3. 【地域貢献】 森町地域包括ケアのネットワーク作りの一翼を担う

- (ア) 町内事業所間の顔の見える関係性構築のため、通所介護事業所連絡会、ケアマネジャー連絡会、ヘルパー事業所連絡会を通じて町内の介護施設のネットワーク作りを先導する。
- (イ) 地域包括ケアを担う人材作りのため、地域向け介護者教室を開催し、地域の福祉人材の育成や発掘を行う
- (ウ) 認知症見守りネットワークを構築するための地域包括支援センターの検討会に参加し、地域の専門職としての役割を果たす

### 4. 【災害対応】 大規模災害に備えた体制を強化する

- (ア) ライフライン障害を想定した訓練を導入し、災害時の限られた資源の中でも利用者のケアが継続できるようにマニュアルを策定する
- (イ) 福祉避難所開設訓練を森町と検討・共同開催し、地域の要援護者の受け入れに備える
- (ウ) 事業継続計画(BCP)において、大規模災害時の本体とサテライトとの連携を、物資・人員・通信等具体的な事項についてマニュアルを追加する



【数値指標】

|              | 特養             |            | サテライト特養     | 短期入所       | 通所介護       |          |             |
|--------------|----------------|------------|-------------|------------|------------|----------|-------------|
|              | 従来型            | ユニット型      | ユニット型       | 従来型        | 介護         | 予防       |             |
| 利用者定員        | 60 名           | 20 名       | 29 名        | 12 名       | 42 名       |          |             |
| 利用者延べ数       | 21, 828 名      | 7, 157 名   | 10, 375 名   | 3, 942 名   | 8, 172 名   | 888 名    |             |
| 1 日平均利用者数    | 59. 8 名        | 19. 6 名    | 28. 4 名     | 10. 8 名    | 26. 5 名    | 2. 9 名   |             |
| 稼動率          | 99. 67%        | 98. 04%    | 98. 02%     | 90. 00%    | 70. 04%    |          |             |
| 稼動日数（延べ）     | 365 日          |            | 365 日       | 365 日      | 308 日      |          |             |
| 単価（一人一日当り）   | 11, 501 円      | 13, 761 円  | 12, 451 円   | 11, 463 円  | 10, 894 円  | 5, 087 円 |             |
| サービス活動収益(千円) | 349, 525 千円    |            | 129, 178 千円 | 45, 189 千円 | 93, 544 千円 |          |             |
| 職員数（常勤換算）    | 42. 97 名       | 13. 60 名   | 21. 00 名    | 7. 80 名    | 14. 90 名   |          |             |
|              | 在宅介護<br>支援センター | 居宅介護支援     |             | 訪問介護       |            | 配食       | 合計          |
|              |                | 介護         | 予防          | 介護         | 予防         |          |             |
| 利用者定員        |                |            |             |            |            |          |             |
| 利用者延べ数       |                | 1, 692 名   | 96 名        | 4, 667 名   | 359 名      | 77 名     |             |
| 1 日平均利用者数    |                |            |             | 13. 0 名    | 1. 0 名     | 0. 3 名   |             |
| 稼動指数         |                | 25. 6 件    | 1. 4 件      | 62. 7 件    | 4. 4 件     |          |             |
| 稼動日数（延べ）     |                |            |             | 359 日      |            | 257 日    |             |
| 単価（一人一日当り）   |                | 16, 139 円  | 4, 545 円    | 3, 693 円   | 3, 462 円   | 600 円    |             |
| サービス活動収益(千円) |                | 27, 743 千円 |             | 18, 476 千円 |            | 46 千円    | 663, 701 千円 |
| 職員数（常勤換算）    | 0. 1 名         | 5. 50 名    |             | 6. 80 名    |            | 0. 1 名   | 112. 77 名   |

# 松戸愛光園

特別養護老人ホーム松戸愛光園

松戸愛光園ショートステイ

松戸愛光園デイサービス

松戸愛光園ケアプランセンター

2016 年度松戸愛光園は経営の安定化を目指し、各事業間の協働を推進する。事業ごとに把握している利用者情報を松戸エリアとして一元化を行い、各専門職が利用者満足向上・稼働率向上に寄与していく。運営面においては、次期介護報酬改定に向けた中間年であり、その動向を見極めつつ準備を開始する年度と位置付ける。

人材育成・職員教育として、各専門職ラダーを定着化していくこととともに、目標参画システムとラダーの連動を図る。介護職にあつては、介護プロフェッショナルキャリア段位制度への取り組みを継続する。また、「千葉県ユニットリーダー研修」の実習施設として、2016 年度も千葉県内のユニット型施設職員の実習を受入れていく。

次に、職員確保については東京周辺地域として喫緊の課題であり、新規卒業生の確保は勿論の事、中途採用者確保、離職防止等、あらゆる手段を講じて取り組む必要がある。

自然災害対策については、松戸市総務部危機管理課および松戸市特別養護老人ホーム連絡協議会と連携し、「福祉避難所開設・運営マニュアル」の作成、「特別養護老人ホーム大規模災害訓練」の実施等を行う。

最後に、社会福祉法人として地域貢献は重要事項である。地域に貢献できる特別養護老人ホームであるために全職員一丸となって、近隣団地を中心として福祉事業に取り組んでいく。

## 【施設理念】

『一人ひとりの生命と尊厳を守り、利用者主体の自立生活支援を追求する。』

## 【経営方針】

1. あなたらしい生活の継続
2. あなたと共に歩んできた方々と一緒に
3. あなたを思いやる気持ちを忘れない
4. あなたらしい最期の支援
5. 地域の皆さんと共に

## 【事業・運営計画】

### 1. 事業の成長・社会福祉充実（最高の質を追求し提供する）

- （ア） 居宅介護支援事業について、特定事業所加算算定への取組みを推進する。また、市川市方面への進出計画の検証を図る
- （イ） 各事業の相談員が連携し、利用者情報の一元化を行い、シームレスなサービス提供の強化を推進する。同時にサービス提供エリアの拡大を検討する
- （ウ） 入居者の入院期間短縮および新規入居者の受入期間短縮を目指し、嘱託医、看護師、相談員等との協働を強化する
- （エ） 認知症対応機能を強化し質の高いサービスの提供を推進する。また、栄養ケアマネジメントの充実を図るとともに、嘱託医と連携して医療ニーズの高い中重度要介護者対応機能を強化する

### 2. 人材育成と確保

- （ア） 介護テクニカルラダー、相談支援スキルラダー、施設在宅看護ラダーを定着化し、目標参画システムとの連動を図る。また、介護プロフェッショナルキャリア段位制度評価者（アセッサー）講習の受講を推進する
- （イ） 認知症関連研修、喀痰吸引研修への参加と指導看護師の養成を図る
- （ウ） 千葉県ユニットリーダー研修への参画と、千葉県内ユニット型施設の実習生の受入を行う
- （エ） 高校を含む各福祉系学校からの実習生の受入を促進する
- （オ） 人事部人事課関東採用センターと連携し、職員確保のためのリクルーター活動を継続する

### 3. 業務のICT化、介護ロボット導入の検討

- （ア） 間接業務コスト削減を目指し、iPadやスマートフォン等を活用した記録入力システムの検討を推進する
- （イ） 安全・安心な介護を提供するため、松戸愛光園のハードに合致した実運用可能な介護ロボットの検討を開始する

### 4. 施設保全

- （ア） ガスエンジン・ヒートポンプ・エアコン（GHP）の買替計画の継続・推進する
- （イ） 厨房機器の老朽化への対応を行う
- （ウ） 送迎・訪問車両の更新を図る

### 5. 地域への貢献（公益的活動・住み慣れた地域で暮らしていくために）

- （ア） 松戸愛光園チャリティバザーを開催する
- （イ） 隣接団地住民に対し、新たな生活支援事業への取組を開始する
- （ウ） 地域交流ホールを活用し、高塚新田地区の住民福祉活動への支援を行う
- （エ） 屋上庭園を地域住民に開放し、松戸愛光園の認知度の向上を図る
- （オ） 周辺地域の清掃を年2回、松戸ニッセイエデンの園と共に実施する

【数値指標】

|                  | 特養入居          | 短期入所         | 通所介護      |         | ケアプラン<br>センター | 総計            |
|------------------|---------------|--------------|-----------|---------|---------------|---------------|
|                  |               |              | 一般        | 予防      |               |               |
| 利用者定員            | 100 名         | 20 名         | 29 名      |         |               |               |
| 利用者延べ数           | 35,843 名      | 5,110 名      | 5,482 名   | 339 名   | 1,146 名       | 47,920 名      |
| 一日平均利用者数         | 98.2 名        | 14.0 名       | 17.8 名    | 1.1 名   |               |               |
| 稼働率 (%)          | 98.2%         | 70.0%        | 65.0%     |         |               |               |
| 稼働日数 (延べ)        | 365 日         | 365 日        | 308 日     |         |               |               |
| 単価 (一人一日当り)      | 13,572 円      | 14,082 円     | 10,531 円  | 2,917 円 | 10,274 円      |               |
| サービス活動収益<br>(千円) | 487,355<br>千円 | 72,262<br>千円 | 59,232 千円 |         | 11,774<br>千円  | 630,623<br>千円 |
| 職員数 (常勤換算)       | 71.1 名        | 11.7 名       | 12.4 名    |         | 3.0 名         | 98.2 名        |

# 浦安市高洲高齢者福祉施設及び 浦安市猫実高齢者デイサービスセンター

浦安市特別養護老人ホーム・短期入所生活介護

浦安市ケアハウス

浦安市高洲高齢者デイサービスセンター

浦安市猫実高齢者デイサービスセンター

浦安市高洲地域包括支援センター

2016年度は、地域包括支援センターの指定管理を受け、地域の特性を分析し新町圏域の各資源を活用し、国の大きな方向性である地域包括ケアシステムの確立に向け総力を挙げて取り組む。また、人材の確保・育成は重要課題である。そのうち離職防止と質の確保について、教育体系を今一度見直していく。

## 【施設理念】

“私たちは、地域（市民）とともに高齢者福祉に貢献する”

## 【運営方針】

1. 私たちは、一人ひとりを知りその人らしい生活が続けられるよう支援します
2. 私たちは、ご利用者・ご家族（関わりのある方々）の思いを理解し、実現に向けて共に支援します
3. 私たちは、その人らしい最期の時をご家族（関わりのある方々）と共に支援します
4. 私たちは、職員一人ひとりが専門性を高め、人として成長するために常に研鑽します
5. 私たちは、一人ひとりが地域の社会資源として自覚し役割を果たします

## 【年度事業目標・年度事業計画】

1. 安心・安全に基づく個別計画書の充実と実践
  - (ア) ICF（国際生活機能分類）の視点に基づくケアプランの作成
    - ① 年間を通じたフロアー担当者に対する研修の実施
    - ② 職場単位での学習会の継続
  - (イ) 個人の生活目標を意識した計画書の作成
    - ① サービス担当者会議等における計画書の内容検証
  - (ウ) ターミナルケアの流れの再確認
    - ① 各専門職が統一した支援を行うことが出来るよう情報共有を図る
  - (エ) 生活リズムを基本とした業務の組み立てに取り組む
    - ① 個々の生活リズムの可視化
    - ② 事故予防の視点を意識した業務の見直し

2. 職員が専門職としての意識を持った仕事に取り組む
  - (ア) 職員研修の見直しを行い、基礎から実践まで体系化する
  - (イ) ケース担当制の役割を遂行でき、利用者・家族と共に支援が出来る
3. 経営の安定を図る
  - (ア) 各種加算の算定を行う
    - ① 通所介護：中重度受入加算取得の検討
    - ② 短期入所：医療連携強化加算取得の検討
    - ③ 特養：看護体制加算Ⅱ・日常生活機能継続加算取得の検討
  - (イ) 各事業の稼働率の目標達成
    - ① 拡大職場長会議における目標管理
    - ② 予算を意識した、収支管理を行う
4. 地域への貢献活動に取り組む
  - (ア) 地域に向けて施設の専門的知識・技術の提供
  - (イ) 施設機能の地域への活用方法の検討
  - (ウ) 認定生活困窮者就労訓練事業の実施検討
  - (エ) 障がい者雇用の促進
5. 防災体制の確立
  - (ア) 施設マニュアルと職場マニュアルの連動
  - (イ) 福祉避難所としてのマニュアル整備

【数値指標】

|                  | 特 養           | 短 期           | ケア<br>ハウス    | 高 洲<br>デイ    | 猫 実<br>デイ    | 地域包括<br>支援セン<br>ター | 総合計           |
|------------------|---------------|---------------|--------------|--------------|--------------|--------------------|---------------|
| 利用者定員            | 100 名         | 50 名          | 50 名         | 20 名         | 20 名         | —                  | 240 名         |
| 利用者延数            | 36,135 名      | 16,425 名      | 17,885 名     | 5,219 名      | 5,526 名      | —                  |               |
| 一日平均利用者数         | 99 名          | 45 名          | 49 名         | 17 名         | 18 名         | —                  |               |
| 稼働率 (%)          | 99%           | 90%           | 98%          | 85%          | 90%          | —                  |               |
| 稼働日数 (延べ)        | 365 日         | 365 日         | 365 日        | 307 日        | 307 日        | —                  |               |
| 単価 (一人一日当り)      | —             | —             | —            | —            | —            | —                  |               |
| サービス活動収益<br>(千円) | 509,792<br>千円 | 219,715<br>千円 | 98,824<br>千円 | 41,887<br>千円 | 53,151<br>千円 | 26,600<br>千円       | 949,969<br>千円 |
| 職員数 (常勤換算)       | 65.73 名       | 24.66 名       | 5.80 名       | 7.15 名       | 7.60 名       | 4.80 名             | 115.74 名      |

# 浦安愛光園

浦安愛光園は、今まで取り組んできた看取りケア・認知症ケア・口腔ケアをより強化し充実させることで終の棲家としての役割を果たしながら、生活モデルとしての機能訓練を実現し可能な限り重度化を防ぐことに努めていく。目指すケアサービスのあり方としては良質なサービス、個性性の高いサービスの効果的・効率的な提供であり、ケアプランの実施・評価、居住環境の整備、人材の確保と育成、地域社会との連携、ICT化の推進、経営基盤の強化を重点目標として取り組んでいく。

2016年度は第6期介護保険事業計画に基づき3度目の増床を行う。効率的な施設運営と待機者ニーズに積極的に応えていくため入居定員を70名から74名に変更する。

2015年度から継続している課題としては、人材の確保・育成があり高洲地区全体で雇用対策に取り組む。その中で浦安愛光園は、専門職以外の資源の活用と離職防止対策を行っていく。特に人員不足の長期化が新たな離職者を誘発しないよう適正な人員の配置を早期に行い悪循環から脱却する。

## 【施設理念】

私たちは、ご利用者の“暮らし”“つながり”“その人らしさ”を大切にします

## 【経営方針】

1. それまで大切にしてきた“暮らし”が続けられるよう支援します
2. 家族、友人、地域、社会との“つながり”が保てるよう支援します
3. 一人ひとりの意思・人格を尊重し、“その人らしさ”が実現できるよう支援します

## 【事業・運営計画】

1. 利用者一人ひとりの個性や生活リズムにあわせた、質の高いサービスを提供する
  - (ア) ケアプランを意識したケアと記録を行いケアマネジメントサイクルの理解を深める
  - (イ) 効果的なユニット運営を実践するためにケアプラン・ADL表・24Hシートを連動させ、日々の介護において個性性と生活意欲の向上を重視する
  - (ウ) 利用者・家族・職員が園の指針を理解し、その人らしさを尊重した看取りができるよう支援する
  - (エ) 認知症実践者研修・実践リーダー研修を計画的に受講し園全体の認知症対応力向上を図る
  - (オ) ユニット毎に居住環境の見直しを行い、過ごし方・楽しみ方の選択肢を広げる
2. 安心・安全・快適な生活の場を提供する
  - (ア) 健康管理・予防ケア・機能訓練を充実させるため知識・技術の向上と多職種協同を図る
  - (イ) 委員会の機能・発信力を強化し災害・感染・事故のリスク管理を現場に浸透させる

(ウ) 接遇・マナー向上への取り組みを継続する

### 3. 職員の資質向上とやりがいのある職場作りを推進する

(ア) ユニットリーダーの育成

(イ) 目標参画システムと介護テクニカルリーダーを連動させ、一人ひとりのキャリアデザインを形成する

(ウ) 内部研修への参加率向上、外部研修の活用、フィードバックによりスキルアップを図る

### 4. 地域ニーズに応える施設づくりと地域貢献

(ア) 定員 70 名から 74 名への増床を安全に行い、浦安市民の待機者ニーズに応える

(イ) 地域の清掃・美化活動に住民と一緒に参加し、地域に貢献する

(ウ) ボランティア、看護・介護実習、職場体験等を受け入れ、地域交流を促進するとともに社会との関わりを継続する

(エ) 福祉避難所としての体制を整える

### 5. 業務効率化・ICT化

(ア) 障がい者雇用・高齢者雇用の継続・定着を図る

(イ) 手書きや重複記入によるムダを削減していくために、書式と運用方法の見直しを行う

(ウ) 高洲地区での記録システム導入を検討する

(エ) 赤外線センサーやロボットの導入を検討し、機械化を推進していく

### 6. 経営改善の継続

(ア) 入院期間及び新規入居までの期間の短縮化を図り稼働率の向上を目指す

(イ) 全職員がコスト意識を持ち、ムリ・ムダ・ムラのない業務を構築する

#### 【数値指標】

|              | 特養（ユニット型）  |
|--------------|------------|
| 利用者定員        | 70 名       |
| 利用者延べ人数      | 25,905 名   |
| 一日平均利用者数     | 71.0 名     |
| 稼働率          | 97.2%      |
| 稼働日数（延べ）     | 365 日      |
| 単価（一人一日当たり）  | 13,935 円   |
| サービス活動収益（千円） | 360,982 千円 |
| 職員数（常勤換算）    | 50.0 名     |

\*2016 年 7 月増床 定員 74 名



## 介護老人保健施設 浦安ベテルホーム

2016 年度、地域包括ケアシステムがより一層具体的なものとなり、在宅復帰支援施設としての役割はますます増してくる。この好機を逸することなく、浦安市唯一の介護老人保健施設としての強みを生かしながら医療機関との連携を強化し、存在感を示していくことで経営の安定化にもつなげていきたい。また、深刻な人材不足には、離職者抑制と多彩な採用活動の両面から取り組むことで解決に向けて進めていく。サービス面では、利用者、家族の真に求める生活を追及し、多職種協働で取り組み質の向上を目指す。

### 【施設理念】

私たちは、ご利用者の“暮らし”“つながり”“その人らしさ”を大切にします。

### 【経営方針】

1. それまで大切にしてきた“暮らし”が続けられるよう支援します。
2. 家族、友人、地域、社会との“つながり”が保てるよう支援します。
3. 一人ひとりの意思・人格を尊重し、“その人らしさ”が実現できるよう支援します。

### 【事業・運営計画】

1. 利用者を主体においたその人らしい生活の支援
  - (ア) 利用者、家族との接触の機会を増やし、考えやライフスタイルを知る
  - (イ) 各種会議等を通し、その人らしい生活の支援のあり方を共有する
  - (ウ) 各部署・職種の役割を明確にし、入所目的に見合った関わり、望む生活の支援を行う
  - (エ) 利用者、家族の満足が得られる憩いの充実を図る
2. 専門職としてのスキルと経営的視点を併せ持った人材の育成と、職員を大切にする施設づくり
  - (ア) テクニカルラダーとキャリア段位制度を活用し、ワンランク上のレベルを達成し職員のやりがいにつなげる
  - (イ) 事業団中期事業計画、事業目標、事業部及び施設運営方針の理解と浸透
  - (ウ) “次”を担う、経営視点からも職場運営に関与できる人材の育成
  - (エ) 職員定着率の向上を目指した働きやすい職場作りと、メンタル不全者 0 の継続
3. 多職種連携による在宅復帰支援と在宅療養（生活）への関わり強化
  - (ア) なじみの地域で最期まで暮らせる支援を多職種協働で実践する
  - (イ) 利用者個々にあった QOL に向き合い、在宅復帰パスを有効活用する
  - (ウ) 在宅復帰の可能性を拡大するため、ADL・IADL 評価を可視化する

#### 4. 運営の安定化

- (ア) 地域で必要とされる施設の確立と、地域への浸透による入所、ショートステイ、通所の稼働率の向上
  - ①戦略的なベッドコントロールにより空きベッドを削減する
  - ②訪問看護、ケアプランセンター及び医療機関、他事業者との連携を強化する
  - ③内外部への営業・広報活動の充実拡大により、改めてニーズを的確に把握するとともに地域への認知度を上げる
  - ④退所後も継続してサービス（通所リハビリテーション、訪問看護等）を利用できる、切れ目のないサービスを提供する
- (イ) 各種加算の適正な取得と拡大
- (ウ) 業務の省力化、自動化、ＩＣＴ化を踏まえた設備の検討と長期使用に耐えうる計画的な設備更新
- (エ) 事業部、人事部連携のもと、職員確保のためのルート作り
- (オ) 持続可能な施設運営を考えた入所形態の検討

#### 5. 地域社会への貢献

- (ア) 社会福祉法人に求められる役割の理解
- (イ) 生活保護受給者の受入れと、無料又は低額老人保健施設事業の基準を満たした運営の実現
- (ウ) 地域における実現可能な具体的公益的活動の検討
- (エ) イベントの企画・参加により、地域ネットワークを広げる
- (オ) 障がい者、高齢者雇用の促進と生活困窮者への関わりの検討

#### 【数値指標】

|              | ベテルホーム入所 | ベテルホーム短期 | 通所リハビリ   | 総計       |
|--------------|----------|----------|----------|----------|
| 利 用 定 員      | 100 名    | 入所に含む    | 40 名     | 140 名    |
| 利 用 者 延 べ 数  | 27,284 名 | 791 名    | 8,961 名  | 37,036 名 |
| 一日平均利用者数     | 74.8 名   | 2.0 名    | 29.0 名   | —        |
| 稼 働 率        | 76.8%    |          | 72.5%    | —        |
| 稼働日数(延べ)     | 365 日    | 365 日    | 309 日    | —        |
| 単価(1人1日当り)   | 13,685 円 |          | 11,553 円 | —        |
| サービス活動収益(千円) | 384,216  |          | 103,524  | 487,740  |
| 職員数(常勤換算)    | 60.8 名   |          | 14.9 名   | 75.7 名   |

## 聖隷ケアプランセンター浦安

### 【事業・運営計画】

1. 良質なサービスの提供
  - (ア) 満足度調査を実施し傾向の把握・分析を行う
  - (イ) ケアプランとサービス事業所の個別サービス計画の連動性を推進する
2. 地域包括ケアシステムの構築
  - (ア) サービス事業所との情報共有を密にし、地域の多職種連携を強化し、認知症や寝たきりになっても住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう支援する
  - (イ) 介護老人保健施設に併設された事業所という特徴や強みを活かし、在宅復帰ケースの支援を充実させる
  - (ウ) 開設する地域包括支援センターと訪問看護ステーションとの連携、他法人との連携を強化し、地域ネットワークを構築する
3. 専門性の高い人材の育成
  - (ア) 主任介護支援専門員研修や地域ケア会議に計画的に参加する
  - (イ) 高洲地区での専門職合同会議を開催し困難ケースや事例検討を通して個々のスキルアップを図る

### 【数値目標】

| 一日平均<br>利用者数 | 年間<br>利用者数 | 稼働日数 | 単価（1人<br>1日当り） | サービス<br>活動収益 | 職員数<br>（常勤換算） |
|--------------|------------|------|----------------|--------------|---------------|
| —            | 936名       | 365日 | 11,715円        | 11,006千円     | 2.0名          |

## 浦安せいいれいクリニック

### 【事業・運営計画】

1. 地域住民にも広く利用していただけるよう、地域への広報を拡充する
2. 地域における医療資源として、安定した診療体制を継続する
3. 利用者、入居者、地域住民への初期診療の役割を担う
4. 事故報告書の活用によるリスク管理強化と、感染症の拡大防止に貢献する

### 【数値目標】

| 一日平均<br>利用者数 | 年間<br>利用者数 | 稼働日数 | 単価（1人<br>1日当り） | サービス<br>活動収益 | 職員数<br>（常勤換算） |
|--------------|------------|------|----------------|--------------|---------------|
| 5.7名         | 1,383名     | 244日 | 3,000円         | 6,107千円      | 2.3名          |

# 聖隷訪問看護ステーション浦安

## 【事業・運営計画】

1. 聖隷訪問看護ステーション浦安を開設し、浦安エリアの在宅事業の充実を図る
  - (ア) 浦安市・市川市・江戸川区をエリアとして訪問看護サービスの提供をする
  - (イ) ターミナルケア、医療依存度の高いケアも積極的に受け入れ、あらゆるニーズに対応できる質の高いステーションを目指す
2. 東京海上日動ベターライフサービス株式会社の訪問介護事業、居宅介護支援事業と同フロアで事業展開することで、法人を越えた新しい事業運営の在り方を成功させる
  - (ア) お互いのメリット・強みを活かして協力しながら事業運営をしていく
  - (イ) 事務所開設・運営に係る費用・備品等共有することで経費の削減を図った運営をしていく
  - (ウ) 研修や職員募集、PR活動など協力して効率的に行う
3. 浦安ベテルホーム、浦安愛光園、浦安市特別養護老人ホームと連携し、地域からの在宅・施設のニーズに対応できる体制を構築する
  - (ア) 利用者・家族のニーズに合わせて、地域から施設へ、施設から地域へとスムーズに移行できるように更なる連携を強化していく

## 【数値指標】

| 平均利用者数 | 月訪問件数 | 年訪問件数   | 単価      | サービス活動収益  | 職員数<br>(常勤換算) |
|--------|-------|---------|---------|-----------|---------------|
| 16.6 名 | 102 件 | 1,194 件 | 9,272 円 | 11,071 千円 | 2.9 人         |

# 横須賀愛光園

特別養護老人ホーム横須賀愛光園

デイサービスセンター

西第二地域包括支援センター

せいいい訪問看護ステーション横須賀

せいいいヘルパーステーション横須賀

聖隷巡回ヘルパーぐるり横須賀

せいいいケアプランセンター横須賀

## 【特別養護老人ホーム】

2015 年度は、サービス提供面では、介護・看護・栄養・相談等機能の発揮により、利用者の生活の質の維持・向上や、事故・感染・苦情の要因分析から予防的なリスク対応力向上に努めた。安全・安心な施設づくりでは、施設と在宅サービスの連携強化により、利用者の日常生活の充実に努めるとともに、より実践的な防災訓練を通じ防災意識や災害対応力を向上させた。また、年間を通じ、利用者が生活しやすく職員も働きやすい環境づくりに注力した。

2016 年度は、サービス提供面では、目的と行動の共有を強化し、入居者・利用者が前向きに生活することができる支援を充実させることで、関わる職員の達成感を高める。また、事故・感染・苦情について、より速度感のある対応に努める。

安全・安心な施設づくりでは、防災意識を向上し「災害リスクに強い施設」を目指す。また、全ての利用者にいつでも清潔な環境を提供し、気持ち良く過ごすことができるよう努めるとともに、福祉・介護の豊富な知識・確かな技術を持った人財を育成し、地域で支援を必要とする方々へ間断なく支援を行うことができる体制を強化する。

開設 24 年が経過し地域より大きな期待を寄せられていることは、これまでの活動が評価された証である。今後も「横須賀愛光園に関わる全ての人を大切にする」ことで、入居者・利用者・地域・職員、それぞれの自己実現に向けて全職員で取り組む。

## 【施設理念】 『安心して、明るく楽しく生きる』

- 【経営方針】
1. 専門性の高い人財育成と活力のある職場風土を醸成する
  2. 利用者ニーズを把握し、それを実現できるように努める
  3. 安全で安心できるサービス提供に努める
  4. 地域との結びつきを大切にする

## 【事業・運営計画】

1. 住みやすく・働きやすい施設づくりを行う
  - (ア) 人と人とのつながりに喜びを感じる関わりをもつ
  - (イ) 入居者・利用者の気持ちやプライバシーに配慮した対応を徹底する

- (ウ) 4S（整理・整頓・清掃・清潔）を推進し、快適な生活環境を提供する
- (エ) 効果的な防災訓練の実施とBCP（事業継続計画）を作成し安心感を高める

## 2. 入居者・利用者の自己実現につながるサービスを提供する

- (ア) 行為の自立ではなく、決定の自立につながる支援を行う
- (イ) 生きることの意義・価値を感じる生活を、入居者・利用者とともにつくる
- (ウ) 認知症・精神疾患の理解を深めることで、要介護度の重度化に対応する
- (エ) 事故・苦情・感染対策などの発生要因を的確に捉え、迅速且つ適切な対応を図る
- (オ) 様々な場面で誰もが対応できるよう、介護・看護・相談等の専門性を高める

## 3. 安定した経営を行う

- (ア) 利用者満足度を向上させ、利用率の維持・向上を図る
- (イ) 健康管理・事故予防と迅速な新規受入を徹底し、空床期間の低減に努める
- (ウ) 業務効率向上やエコロジー活動を通じ、無理・ムラ・無駄を排除する
- (エ) 計画的な設備・備品の更新を図る

## 4. 地域ネットワークの一員として活動する

- (ア) 在宅事業との連携を強化し、地域ネットワークづくりに積極的に関与する
- (イ) 地域活動への積極的な参加や、継続性のある地域美化・エコロジー活動を実践する
- (ウ) ボランティア・実習生などに対し、社会活動実践の場を積極的に提供する

### 【数値指標】

|             | 特養入所      |                | 短期入所     |           |
|-------------|-----------|----------------|----------|-----------|
|             | 従来型       | ユニット型          |          |           |
| 利用者定員       | 64名       | 40名            | 16名      |           |
| 利用者延べ数      | 22,704名   | 14,283名        | 5,486名   |           |
| 一日平均利用者数    | 62.2名     | 39.1名          | 15.0名    |           |
| 稼働率（％）      | 97.4％     |                | 93.9％    |           |
| 稼働日数（延べ）    | 365日      |                | 365日     |           |
| 単価（1人1日当たり） | 11,104円   | 14,466円        | 10,636円  |           |
| サービス活動収益    | 461,672千円 |                | 58,339千円 |           |
| 職員数（常勤換算）   | 68.5名     |                | 11.6名    |           |
|             | 通所介護      | 地域包括<br>支援センター | 配食サービス   | 合計        |
| 利用者定員       | 40名       | —              | —        | —         |
| 利用者延べ数      | 7,392名    | —              | 2,000名   | —         |
| 一日平均利用者数    | 24名       | —              | 10.0名    | —         |
| 稼働率（％）      | 60.0％     | —              | —        | —         |
| 稼働日数（延べ）    | 308日      | —              | 200日     | —         |
| 単価（1人1日当たり） | 8,049円    | —              | 550円     | —         |
| サービス活動収益    | 59,288千円  | 30,438千円       | (911千円)  | 609,737千円 |
| 職員数（常勤換算）   | 9.2名      | 4.0名           | —        |           |

### 【在宅事業】

2015 年度は、各事業の連携を強化するとともに、横須賀愛光園の施設機能との連携を強化した。また人材の確保に努め、聖隷福祉事業団だからこそ成し得るサービスの提供に取り組んだ。

2016 年度は、介護予防・日常生活支援総合事業の開始（横須賀市では 2016 年 1 月より実施）、診療報酬改定などがあり、利用者ニーズの変化が想定される。加えて、地域の人口減少・高齢化率上昇がより顕著となり、介護・看護を中心に、職員の確保は困難を極めるが、ワークライフバランスのとれる就業環境や、やり甲斐を持つことができる業務の在り方、職員同士・事業間の和を保つ職場環境の創出に注力し、安定した事業運営に向け、人材の流出防止に努めたい。また、今後の地域における役割の拡大に向け、既存事業の充実・整理、新たな地域への進出など、横須賀エリアにおける面的事業展開を推進し、強固な事業基盤整備を積極的に行う。

### 【事業理念】

福祉サービスを利用される方が望む生き方、住まい方の権利を重んじ、住み慣れた地域で自立して生活ができるように支援していく

### 【経営方針】

1. 職員の質を高め、良質で肌理細かなサービスを提供する
2. 人材の確保と働きやすい職場づくりを行う
3. 他の医療・介護事業所との連携を深め、地域の一員として活動する
4. 健全な経営に基づいた事業の継続

### 【事業・運営計画】

1. 訪問看護事業（せいれい訪問看護ステーション横須賀）
  - （ア）人材を育成し、ケアの質を向上させる
    - ① ケースカンファレンスを充実させ、より良いプラン作成につなげる
    - ② 看護ラダーの実施及び研修の充実により、看護技術を向上させる
  - （イ）健全経営を維持する
    - ① 利用者確保のために、積極的に外部事業者との連携を深める
    - ② サービスの質を担保する看護体制及び機能強化型訪問看護管理療養費Ⅰを維持する
    - ③ 業務の見直しを行い、更なる業務効率向上を目指す
    - ④ 見学・体験研修・就職説明会の開催により、人材確保に努める
  - （ウ）防災対策を推進する
    - ① 状況設定シミュレーションを行い、災害対応力を強化する
2. 訪問介護事業（せいれいヘルパーステーション横須賀）
  - （ア）ヘルパー事業を支える専門性を向上させる
    - ① 個々のレベルに応じた目標設定と定期評価を行う
    - ② 介護ラダーを活用し、知識・技術の向上を図る

(イ) 更なる業務効率向上により、就業環境を改善する

①サービス提供スケジュール作成の過程を可視化する

②あらゆる情報の事業所全体への共有の為に、登録ヘルパーの会議参加率を向上させる

(ウ) 地域が求めるサービスを提供する

①喀痰吸引研修受講者を増員し、重介護・医療行為等を必要とする方々の対応に備える

### 3. 定期巡回随時対応型訪問介護看護事業（聖隷巡回ヘルパーぐるり横須賀）

(ア) 人材を確保し、専門性を向上させる

①実習受入れ・説明会開催で職員確保の足がかりをつくる

②利用者・事業所双方に最適な訪問効率を検討・実践する

(イ) 他職種・地域との連携を強化する

### 4. 居宅介護支援事業（せいれいケアプランセンター横須賀）

(ア) 安定した経営を継続する

①特定事業所加算Ⅱを継続し、収益を維持・向上させる

②関係機関への情報提供や顔の見える関係づくりを通じ、利用者を確保する

(イ) 質の向上を図る

①相談ラダーの活用・事業所相互チェックを通じ、相談技能の向上を図る

②マニュアル・手順書の見直し・整備をし、業務効率を向上させる

## 【数値指標】

### 1. 訪問看護事業（訪問看護ステーション）

| 平均利用者数 | 月訪問件数 | 年訪問件数   | 単価(円)    | サービス活動収益   |
|--------|-------|---------|----------|------------|
| 129 人  | 759 件 | 9,105 件 | 10,749 円 | 102,637 千円 |

### 2. 訪問介護事業（ヘルパーステーション）

| 介護給付   |        |         | 予防給付  |       | 単価(円)   |          | サービス活動収益  |
|--------|--------|---------|-------|-------|---------|----------|-----------|
| 平均利用者数 | 月間訪問件数 | 年間訪問件数  | 月間利用者 | 年間利用者 | 介護(回)   | 予防(月)    |           |
| 83 人   | 798 件  | 9,570 件 | 17 人  | 198 人 | 3,703 円 | 17,897 円 | 59,447 千円 |

### 3. 定期巡回随時対応型訪問介護看護事業

| 介護給付   |        | 単価(円)     | サービス活動収益  |
|--------|--------|-----------|-----------|
| 月間利用者数 | 年間利用者数 | 介護(月)     |           |
| 16 人   | 187 人  | 118,444 円 | 22,148 千円 |

### 4. 居宅介護支援事業（ケアプランセンター）

| 年間請求件数  |       | 平均単価(円)  |         | 訪問調査年間件数 | 訪問調査単価(円) | サービス活動収益  |
|---------|-------|----------|---------|----------|-----------|-----------|
| 介護      | 予防    | 介護       | 予防      |          |           |           |
| 2,826 件 | 264 件 | 16,000 円 | 4,513 円 | 180 件    | 4,500 円   | 46,671 千円 |



# せいい訪問看護ステーション油壺

2015 年度は、職員の確保と働きやすい環境づくりに注力するとともに、研修参加を通じ認知症理解を深め、知識・技能の向上を図るとともに、地域連携の充実に努めた。

2016 年度は、「三浦地域の居宅・施設における訪問看護サービスの提供強化」を旗印に、在宅利用者の健康維持だけでなく、人生の最終段階を穏やかに迎えるための支援をより充実させる。また、事業活動への職員の参画意識を高めるために、運営状況の分析と共有を日常化する。

## 【事業・運営計画】

1. 重度医療・障害・認知症に対応できる職員を育成する
  - (ア) 終末期ケア・緩和ケア・重症心身障害・認知症研修へ積極的に参加する
  - (イ) 研修参加者による職場内伝達講習を強化する
  - (ウ) 定期的なカンファレンスを実施し、利用者ニーズに沿った看護を提供する
  - (エ) マニュアルを整備・適宜修正し、全職員が同様の質で対応できるようにする
2. 新たな加算を取得しサービスの質の向上を図る
  - (ア) 退院時共同指導加算取得の為に医療機関との連携を強化する
  - (イ) 退院時カンファレンスを迅速に行う
  - (ウ) 加算要件を理解し、適切な対応を行うことでサービスの質を高める
3. 運営状況の分析を共有する
  - (ア) 収支、利用者状況等を分析し、全職員で共有する
4. 環境活動を積極的に行う
  - (ア) エコキャップ活動の参加や、地域美化活動を行う
  - (イ) 業務用・自家用に限らず、エコドライブを実施する

## 【数値指標】

| 平均利用者数 | 月訪問件数   | 年訪問件数   | 単価(円)    | サービス活動収益(千円) |
|--------|---------|---------|----------|--------------|
| 80.9 人 | 355.4 件 | 4,265 件 | 10,104 円 | 48,325 千円    |

# 宝塚すみれ栄光園

特別養護老人ホーム宝塚すみれ栄光園、短期入所生活介護

宝塚すみれ栄光園デイサービスセンター

聖隷ケアプランセンターすみれ

開設より2年が経過し、各部署において運営の形は出来上がった。開設3年目となる2016年度も、我が家のように安心できる居場所として、ゆったりと過ごして頂き、健やかな生活を楽しんで頂けるよう、利用者のケアに取り組んでいく。また、結いホーム宝塚、ケアハウス宝塚を合わせた宝塚せいいいの里として、各々が連携の意識を高く持ち、安定した運営の構築を行っていく。4月には、宝塚市第2地区にある聖隷ケアプランセンター結いを聖隷ケアプランセンターすみれに統合する事で24時間連絡体制を確保する。宝塚せいいいの里の入居者並びに待機者には、聖隷の在宅サービスを利用された方が多いことから、宝塚せいいいの里の所在する宝塚市第4地区においてデイサービス、短期入所の利用を広げていく。

「日常生活の場」となる入所では、個々の心身状況に応じたケアを行うために、入居者のできる力に目を向け、生活環境の整備、個別・集団に合わせた余暇活動・行事の充実を進めていく。短期入所とデイサービスでは併用利用を促進し、受け入れる利用者の幅を広げていき、入所施設へのスムーズな移行に繋げる。

これらを行っていくためには、多職種間での情報共有が重要となってくる。日々の利用者状況から、アセスメントによるケア方針、各施設の状況把握が行える環境構築を進めていく。情報を活用する職員は、介護・医療の専門的知識、技術の向上に取り組み、キャリア段位・目標参画を通してサービスの質を向上して行かなければならない。職員確保については、人事部関西採用センターと連携し、これまで以上に積極的に募集・採用活動を行っていく。

地域とは、住民・学生ボランティアの受入れ、看取りケアや認知症対応等の理解を深める機会提供、防災や防犯での連携に取り組んでいき、宝塚せいいいの里が、入居者・利用者・家族・職員・地域の方々と共に生きる場となれる様、努力していく。

## 【施設理念】

一人ひとりの想いを真心と愛で結ぶ

## 【経営方針】

1. 思いやりの心、敬いの心をもって一人ひとりと“心でつながる関係”を大切にします
2. “馴染みの関係”の中で一人ひとりの想いや個性を尊重した生活を支援します
3. できる力に目を向け、“創造性のある真心をもったケア”で支援します
4. ご家族や地域との“結びつき”を大切にします
5. “挑戦する心”を持ち、人として成長するために常に研鑽します

## 【事業・運営計画】

1. 入居者・利用者一人ひとりに安心と穏やかな暮らしを提供する

- (ア) 生活の場としての日常生活を大切にする。入居者・利用者の能力を活かし、ユニットとして家庭的な雰囲気の中、役割のある生活を営んで頂く
- (イ) 一人ひとりの暮らしの変化の把握、体調変化の早期発見に努め、園での安定した生活を提供する
- (ウ) アクティビティ・レクリエーション等を年間計画に基づき実施し、祭事や季節感を大切にする
- (エ) アセスメント能力を高め、ケアマネジメントの質を向上し、入居者・利用者の心身の状況に応じた適切な介護を提供する

## 2. 宝塚せいの里「人材育成システム」の推進

- (ア) リーダーは自身の成長は勿論、スタッフを教育する者として役割を明確にする
- (イ) 新人教育・パート職員育成プログラム、チェックシートに基づいた指導を行う
- (ウ) 聖隷の内部研修、ユニットリーダー研修等の外部研修の受講と合わせて、職員が目指すキャリアを支援する研修や職場異動を行っていく

## 3. 宝塚せいの里内事業・宝塚地区施設における連携強化と、シームレスなサービス提供

- (ア) 市内聖隷在宅施設と情報連携を行い、入居施設への待機者登録へ繋げる
- (イ) 入所施設待機者情報システムを活用し、入居待機者へ対しタイムリーな情報提供を行い、稼働率維持を図る
- (ウ) 事業所内の保育所・小学生自習室等、働きやすい環境を市内聖隷施設で共有する

## 4. 様々なニーズに応え、地域に信頼される施設運営

- (ア) 地域包括ケアに対する施設の役割として、看護師・管理栄養士・作業療法士等が専門職として地域の求めるニーズに対応する
- (イ) 研修室を地域住民や地域ネットワークの会議・研修に開放する
- (ウ) 入居者が地域の一員としてあるためにも、催事の相互交流やボランティアの積極導入に力を入れる
- (エ) 中学生トライやる研修・大学生ボランティア・実習受入れを通して福祉教育にも注力する

## 5. 環境活動への取り組み

- (ア) 施設の効率的運用を図り、水光熱費の低減を進める
- (イ) 施設周辺の環境活動へ地域住民と共に取り組む

### 【数値指標】

|              | 特養入所<br>(ユニット) | 短期<br>入所 | 通所介護<br>(一般) | 居宅介護支援   |        | 合計        |
|--------------|----------------|----------|--------------|----------|--------|-----------|
|              |                |          |              | 介護       | 予防     |           |
| 利用者定員        | 100名           | 20名      | 24名          |          |        |           |
| 利用者・請求延べ数    | 35,770名        | 6,972名   | 4,816名       | 1,842件   | 516.0件 |           |
| 一日平均利用者数     | 98.0名          | 19.1名    | 18.2名        |          |        |           |
| 稼働率          | 98.0%          | 95.5%    | 81.7%        |          |        |           |
| 稼働日数(延べ)     | 365日           | 365日     | 311日         |          |        |           |
| 単価(一人一日・件当り) | 14,112円        | 13,564円  | 10,073円      | 17,300円  | 4,060円 |           |
| サービス活動収益(千円) | 556,507千円      | 96,489千円 | 60,514千円     | 33,965千円 |        | 747,475千円 |
| 職員数(常勤換算)    | 78.8名          | 14.1名    | 13.6名        | 6.0名     |        | 112.5名    |

## 介護付きケアハウス ケアハウス宝塚

ケアハウス宝塚は、2015年度10室の増室を行い定員を70名にするとともに、入居者の特性に合わせた住替えを実施した。開設3年目となる2016年度も入居者数70名を継続するとともに、入居者の個々のニーズを受け止め、その人らしい生活を営むことができる施設づくりに取り組んで行く。また、宝塚せいいいの里を構成する宝塚すみれ栄光園、結いホーム宝塚と共に、それぞれの施設特性を活かし、宝塚せいいいの里全体で最適なサービスの提供、安定した運営の構築を図っていく。

中間施設として、宝塚せいいいの里内をはじめとした宝塚地区内の事業所・施設と連携を図りながら在宅生活が困難な特養待機者の入居を進めていく。

要支援から要介護5まで、様々な心身の状況の入居者がいる中で、それぞれの入居者のニーズに沿った個別支援を行っていく。余暇活動や外出企画等のサービス提供においては、ボランティア等の社会資源を活用し、より細やかなニーズへの対応をしていきたい。

住替えを実施したことで、2つのフロアのコンセプトに明確な違いが出てきた。フロアコンセプトに応じたサービス提供ができるよう、職員が専門的研修・講習会へ積極的に参加するとともに、得られたスキル・知識をケアハウス全体で共有する態勢を作っていく。

地域との関わりについては、地域住民・学生ボランティアの受け入れ、事業者、住民、家族を問わず、介護に係る学習会や研修会の開催並びに場の提供を行っていく。また、防災や防犯に関しても地域住民の参加を含め、積極的に協力関係を築き、地域の防災・防犯の拠点となれるよう力を入れていく。

### 【施設理念】

一人ひとりの想いを真心と愛で結ぶ

### 【経営方針】

1. 思いやりの心、敬いの心をもって一人ひとりと“心でつながる関係”を大切にします
2. “馴染みの関係”の中で一人ひとりの想いや個性を尊重した生活を支援します
3. できる力に目を向け、“創造性のある真心をもったケア”で支援します
4. ご家族や地域との“結びつき”を大切にします
5. “挑戦する心”を持ち、人として成長するために常に研鑽します

### 【事業・運営計画】

1. 入居者の希望を叶え、その人らしい生活を実現する
  - (ア) 生活スタイルを尊重し、自立した生活を継続できるよう支援する
  - (イ) 入居者のニーズに合わせた余暇活動や外出企画を計画し実施する
  - (ウ) ボランティアや社会資源を活用し、利用者の細やかなニーズに対応する

## 2. 他職種と協働し、個別支援が出来る人材の育成

- (ア) フロアコンセプトを理解し、フロア及び各ユニットの特性を活かしたサービス提供につなげる研修・講習会への参加する
- (イ) 伝達講習を実施し、ケアハウス全体で共有する
- (ウ) アセスメント力を向上させるO J Tを職種を超えて実施する
- (エ) 職場会議等での定期的な危険予知訓練を実施する

## 3. 宝塚せいのりの里内施設並びに宝塚地区施設における連携強化とシームレスなサービス提供

- (ア) 宝塚地区入所施設待機者情報システムを構築し、入居待機者に対しタイムリーな情報提供を行い、稼働率維持を図る
- (イ) 宝塚せいのりの里・宝塚地区の入所施設や事業との連携を深め、求めに応じたサービスの提案を行う

## 4. 地域住民との協働と地域社会への貢献

- (ア) 日頃から地域のボランティアを積極的に受け入れ、行事などの運営にあたっては地域のさまざまなサービスを活用する
- (イ) 地域住民・団体と防災や防犯での情報交換・協働を図る
- (ウ) 中高生・大学生のボランティアや実習、インターンシップの受け入れを行い、福祉教育にも注力する
- (エ) 地域住民の求めに応じて、福祉の専門性を生かした学習会・研修会などを開催する

## 5. 環境活動への取り組み

- (ア) 施設の効率的運用を図り、水光熱費の低減を進める
- (イ) 施設周辺の環境活動へ地域住民と共に取り組む

### 【数値指標】

|                         | 介護付きケアハウス  |
|-------------------------|------------|
| 利 用 者 定 員               | 70 名       |
| 利 用 者 延 べ 数             | 24,820 名   |
| 一 日 平 均 利 用 者 数         | 68.0 名     |
| 稼 働 率                   | 97.1%      |
| 稼 働 日 数 ( 延 べ )         | 365 日      |
| 単 価 ( 一 人 一 日 当 り )     | 13,168 円   |
| サ ー ビ ス 活 動 収 益 ( 千 円 ) | 328,736 千円 |
| 職 員 数 ( 常 勤 換 算 )       | 40.6 名     |

# 結いホーム宝塚

2013年11月に開設した結いホーム宝塚は3年目を迎える中、100名の入居者数を維持してきている。2016年度も引き続き、入居者・家族のニーズ、入居を希望する方々の要望、地域の方々の声に応えていくために、宝塚すみれ栄光園、ケアハウス宝塚を併せ持つ宝塚せいのりの里の長所を生かし、運営の安定化を図っていく。宝塚地区内においても、各施設・事業所が連携し、情報共有することを通して、入居・利用希望者への迅速・丁寧な情報提供、利便性の向上につなげていく。

開設当初より入居いただいている方の中には、介護の必要性が高くなってきている人が少なくない一方で、比較的元気に日々を過ごされている方々もおられる。介護度については、平均すれば要介護2の前半という状況の中で、入居者のその人らしさを支えるケアやアクティビティ等の充実が求められる。日常の中での「食べる楽しみ」についても応えていきたい。

また各フロアがそれぞれの特色を打ち出していくこと、職員自らが進んで専門的ケア修得のためにスキルアップすること、加えて個々の職員が自らの施設での役割・責任について自覚を持って行動できるような体制を作り上げていく。

日頃から地域の住民・学生ボランティアや実習生を受け入れること、専門性を生かした学習会や研修会を開催すること等を通して、宝塚せいのりの里が地域住民、入居者、家族に求められる場になるよう協力し合っていく。さらには、地元住民から求められてこの場所が地域の防災や防犯の拠点となれるよう情報交換・協働を図っていく。

## 【施設理念】

一人ひとりの想いを真心と愛で結ぶ

## 【経営方針】

1. 思いやりの心、敬いの心をもってお一人おひとりと“心でつながる関係”を大切にします
2. “馴染みの関係”の中で一人ひとりの想いや個性を尊重した生活を支援します
3. できる力に目を向け、“創造性のある真心をもったケア”で支援します
4. ご家族や地域との“結びつき”を大切にします
5. “挑戦する心”を持ち、人として成長するために常に研鑽します

## 【事業・運営計画】

1. 入居者のその人らしさを支えるためのケアの提供
  - (ア) 入居者それぞれの心身状況に応じた生活環境を整え、ケアを提供する
  - (イ) 入居者それぞれのニーズに応じたアクティビティを企画、提供する
  - (ウ) 「食べる楽しみ」に応えるために、日々の食事を充実し、選択食や特別食を実施し、イベントの見直しを行う
  - (エ) 全ての生活期において、職員それぞれの専門性を発揮するとともにお互いが連携する
  - (オ) ケアマネジメントの過程を充実させる

- (カ) 家族への情報発信を積極的に行い、家族との円滑な協働関係を築く
- (キ) 長期入院者（3ヶ月以上）に対する関わりを密にし、退院後の不安を軽減するための支援を行う

## 2. フロア特性に合わせて人材育成のための体制作り

- (ア) OJTを効果的に行うための基盤を作る
- (イ) 職員個々に応じた役割分担を行い、責任を明確化する
- (ウ) フロア特性にあわせ、専門的ケアの提供に向けてスキルアップを行う
- (エ) 内外部の研修を積極的に活用し、現場にフィードバックする
- (オ) 宝塚せいの里内の里内での人材育成プログラム、技術チェックツールを活用し、宝塚せいの里内での人材交流を行う

## 3. 宝塚せいの里及び宝塚地区での連携強化とシームレスなサービス提供

- (ア) 宝塚せいの里内の委員会活動に対して、担当者が役割を認識し、職員間での情報共有・活性化を図る
- (イ) 市内聖隷在宅施設と情報連携を行い、入居施設への待機者登録へ繋げる
- (ウ) 入所施設待機者情報システムを活用し、入居待機者へ対しタイムリーな情報提供を行い、稼働率維持を図る
- (エ) 事業所内の保育所・小学生自習室等、働きやすい環境を宝塚市内聖隷施設で共有する

## 4. 地域住民との協働と地域社会への貢献

- (ア) 日頃から地域のボランティアを積極的に受け入れ、行事などの運営にあたっては地域のさまざまなサービスを活用する
- (イ) 地域住民・団体と防災や防犯などのリスク管理面において情報交換・協働を図る
- (ウ) 中高生・大学生のボランティアや実習、インターンシップの受け入れを行い、福祉教育にも注力する
- (エ) 地域住民の求めに応じて、福祉の専門性を生かした学習会・研修会などを開催する

## 5. 環境活動への取り組み

- (ア) 施設の効率的運用を図り、光水熱費の低減を進める
- (イ) 施設周辺の環境活動へ地域住民と共に取り組む

### 【数値指標】

|              | 介護付有料老人ホーム |
|--------------|------------|
| 利用者定員        | 100名       |
| 利用者延べ人数      | 34,807名    |
| 一日平均利用者数     | 95.4名      |
| 稼働率          | 95.4%      |
| 稼働日数（延べ）     | 365日       |
| 単価（一人一日当り）   | 15,120円    |
| サービス活動収益（千円） | 526,299千円  |
| 職員数（常勤換算）    | 63.9名      |

# 宝塚栄光園

2016 年度、当園が目指すものは、当園が拠点とする宝塚市内の地区において、唯一多床室を持つ特別養護老人ホームとして、低所得の方や生活保護受給者の方へのサポートをしっかりと行い、その役割を果たす。また、入所される方の医療依存度の増大や、家族関係の複雑化、また看取り介護など、ニーズは多様化している中でも、職員の専門性を高め、利用者や家族が「安心してこの施設で『人生の最期のとき』まで過ごしていただける」よう努める。また、兵庫県から認定された地域サポート型特養事業を活かし、地域福祉に貢献できるよう地域住民とのかかわりを大切に、地域軸に重点を置いた施設運営を実践する。

## 【施設理念】

『自分にしてもらいたいと望むとおり、人にもそのようにしなさい』

## 【経営方針】

宝塚栄光園の従事者は、各事業における個々の利用者の障がい、疾患、要介護状態に応じて可能な限り、最期までその人らしい生活が実現できるように、常に利用者の立場に立ったケアサービスを総合的に提供していく

## 【事業・運営計画】

1. 利用者の「できること」に注目できる「気づき」から生まれる創造的ケア
  - (ア) 利用者の「できること」をエビデンス（根拠）に基づき、しっかり支えるケアを実施する
    - ① もっと利用者一人ひとりの「強み」を活かし、I C F（国際生活機能分類）に基づいた介護過程の展開を行い、利用者にとって価値ある時間を創造する
    - ② 職員が介護のエビデンスをしっかりと確立できるよう勉強会の実施を進める
    - ③ 介護プロフェッショナルキャリア段位制度において年間 2 名のレベル認定を目指す
  - (イ) 「人生の最期のとき」まで創造的ケアを提供する
    - ① 利用者に安心して人生の最期のときを迎えてもらうための職員の体制作りを進める
    - ② 最後のワンスプーンまでおいしく食べてもらえるよう、多職種による嚥下評価や食事形態の検討を随時実施する
    - ③ 喀痰吸引等研修に年間 2 名参加させる
  - (ウ) 言葉遣いをていねいに行う
    - ① 利用者・家族等、どなたが聞いても気持ちのよい言葉遣いを職員一同心がける
    - ② 3 ヶ月に一度、よい言葉遣いの職員を表彰し、他の職員もその言葉遣いを目指す
  - (エ) パーソンセンタードケアを実践する
    - ① 利用者一人ひとりを「一人のひと」として人間として接することができる職員作りを行う
    - ② 認知症のある方にも「人権」があることを再認識することで、施設全体が認知症ケ



アを特別なケアではなく、「人としてどうかかわるべきか」を体現したケアとして実践できる認知症ラダーを実践する

- ③ 認知症実践者研修に年間 4 名、認知症実践リーダー研修に年間 3 名を参加させる

## 2. サービス持続力の強化

### (ア) 相談員機能を強化する

- ① 各加算の把握と常に経営を意識したベッドコントロールを実施する  
② 短期入所、介護福祉施設サービスの継ぎ目のないサービスを提供する

### (イ) 介護業務と周辺業務の切り分けの実施

- ① 介護の業務の細分化を進め「コア業務」とそれ以外業務を分別する  
② 分別した業務を再構築し、環境整備スタッフへの再分配を実施する

### (ウ) 介護業務の省力化を進める

- ① 宝塚地区で記録システムの導入の検討を行う  
② 介護ロボット等の移動補助リフトの導入の検討を行う

## 3. 地域への貢献

### (ア) 兵庫県地域サポート型特養事業（地域見守り事業）を定着させる

- ① 宝塚市における地域サポート型特養事業の定着を図る

### (イ) ゆずり葉自治会食事会の開催を目指す

- ① ゆずり葉自治会、宝塚市社会福祉協議会と協力してゆずり葉地区の独居高齢者の把握を行い、自治会と協同して独居高齢者を対象とした食事会の開催を目指す

【数値指標】※特養・短期とも従来型のみ（個室 19 室、2 人室 3 室、4 人室 15 室）

|              | 介護老人福祉施設   | 短期入所生活介護  | 合計         |
|--------------|------------|-----------|------------|
| 利用者定員        | 70 人       | 15 人      | 85 人       |
| 利用者延べ人数      | 24,479 人   | 5,019 人   | 29,486 人   |
| 一日平均利用者数     | 67.1 人     | 13.7 人    | 80.8 人     |
| 稼働率          | 95.8%      | 91.7%     | 95.0%      |
| 稼働日数（延べ）     | 365 日      | 365 日     | 365 日      |
| 単価（一人一日当り）   | 12,009 円   | 11,559 円  | 11,936 円   |
| サービス活動収益(千円) | 295,241 千円 | 58,012 千円 | 353,137 千円 |
| 職員数（常勤換算）    | 43.7 名     | 8.1 名     | 51.8 名     |

# 花屋敷栄光園

花屋敷栄光園短期入所  
花屋敷デイサービスセンター  
花屋敷地域包括支援センター

2016 年度、花屋敷栄光園は、分野を問わない、地域の実情に見合った総合的なサービス提供を強く意識した取組みを進めていかなければならない。そのためには、園内各事業の認知症利用者ケア、中重度者ケアの機能維持強化と地域に向けた新たな実践が求められる。

地域包括支援センターは、その活動を通して、常に地域で分野横断的な対応が必要な課題に直面しており、そこに当園が取り組むべき課題も明確化している。

具体的には、次世代の担い手の育成と地域介護力・福祉力の向上のために専門職が外に出て行く取組みや、介護人材育成強化と施設内の雇用の創出による非専門職、高齢者、障害者の雇用推進、新たなニーズに基づく新規事業への取組みの検討を行う。介護者、要介護者双方の負担軽減のための介護ロボットの導入・活用の検討などに積極的に取り組みたい。

医療報酬改定、消費増税、新日常生活総合支援事業の動向を踏まえつつ、非営利組織としての自覚とその成果を意識し、2018 年の同時報酬改定に向けて正念場となる 2016 年度をしっかりと運営していきたい。

## 【施設理念】

互いに愛し合いなさい

利用者、家族、職員、ボランティア、地域住民が、共にその人らしいいきいきとした暮らしの創造のために、互いを尊重し合い、地域全体の福祉の向上に寄与する

## 【経営方針】

1. いのちと尊厳を守ります
2. よりよいサービスを提供します
3. 地域社会と共に歩みます

## 【事業・運営計画】

1. 個々の利用者に日常的な居心地のよさを提供する
  - (ア) 認知症利用者の尊厳を大切にするケアを継続して実践する
    - ①24 時間シートを活用し、個々の入居者の望む暮らしを明らかにし、それをケアに活かすために、プランと記録が連動する I C T 化を進める
    - ②認知症実践者研修、実践リーダー研修を効果的に受講し、在宅・入居それぞれに正しい知識と技術に基づいた当園の認知症ケアモデルを確立する
    - ③認知症対応型通所介護において、4D A S を活用した機能訓練を開発し実践する
    - ④短期入所生活介護と通所介護のプランと記録の情報共有の仕組みとして I C T 化を進め、認知症の在宅利用者を確実に受け入れていく

(イ) 中重度要介護者の尊厳を大切にするケアを継続して実践する

- ①入居者が、経口による栄養摂取を維持できるための取り組みを継続して行う
- ②入居者、職員相互の介護負担軽減のため園全体の設備、備品面の見直しを効果的に行う
- ③各種介護ロボットの積極的活用（助成事業、リース事業の活用やモニター協力推進）
- ④短期入所の緊急利用促進と通所、短期入所送迎体制を強化し、ニーズに即応できるように在宅介護サービスチームのアセスメント力の向上に取り組む
- ④看取り介護の質の維持向上にさらに努め、PDCAサイクルをより確実に実践する
- ⑥環境整備やマニュアル更新等、各種感染予防対策をより一層強固なものにする

(ウ) オール個室、ユニット化に見合う質の高いケアを確立する

- ① ユニットリーダー研修の受講を推進し、リーダー育成、リーダー会の活性化に取り組む
- ② 効果的で柔軟なユニット運営が実践できるように、24時間シートを活用する
- ③ 刻み食廃止、柔らかか食や嚥下食の質の向上、提供方法の工夫とユニット内設えを見直す

## 2. 専門職の人材育成と人員の効果的な配置、定着化の推進

- (ア) 介護職員キャリア段位制導入を推進し、OJTを効果的に行う仕組みづくりを進める
- (イ) 相談員ラダー、看護職ラダーをそれぞれ活用し、自己評価を進める
- (ウ) 医療と介護の連携ケアに意識的に取り組む
- (エ) 各事業配置事務員の役割を整理し、マニュアルを整備する
- (オ) 事務職員のスキルアップの仕組みを整え、各自が実践し自己評価する
- (カ) 必要に応じた外部研修に計画的に参加し、各自が園内に伝達できるように取り組む
- (キ) 地域サロンでの相談支援や介護技術講習、認知症介護教室などの知識・技術伝達、学校での福祉教育講師など、専門知識を活かした取組みとして積極的に地域に出向く

## 3. 地域包括ケアの推進に積極的に取り組む

- (ア) 今後、空床利用で障害者の短期入所を受け入れるため、内外職員研修を実施し、精神障害者を中心とした障害者相談支援と就労支援を検討する
- (イ) 各種業務の細分化と移譲を検討し、高齢者等非専門職の就労場所としての可能性を追求し、人材確保に積極的に取り組み、事業所内保育所開設を検討する
- (ウ) 地域包括支援センターを核とした新日常生活総合支援事業への取組みを明確にする
- (エ) 地域の福祉力・介護力を高める取り組みを積極的に行うと同時に、広報のあり方を見直し、当園が実践活動の場としてより地域に活用されるように取り組む
- (オ) 地域との協定の締結、合同防災訓練実施等、地域防災拠点として機能強化する
- (カ) 省エネルギー化を視野に計画的な修繕と設備更新を進め、さらに地域に活用される施設となる

【数値指標】

高齢者入居・短期入居・通所関係事業

|                   | 特養入所<br>ユニット型 | 短期入所<br>ユニット型空床型 | 通所介護       |       |           | 合計         |
|-------------------|---------------|------------------|------------|-------|-----------|------------|
|                   |               |                  | 通常規模型      | 予防型   | 認知症対応     |            |
| 利 用 者 定 員         | 108 名         | 12 名             | 47 名       |       | 12 名      |            |
| 利 用 延 数           | 38,690 名      | 4,380 名          | 8,086 名    | 106 名 | 2,488 名   |            |
| 一 日 平 均 利 用 者 数   | 106 名         | 12 名             | 26 名       | 4.1 名 | 8 名       |            |
| 稼 動 率 ( % )       | 98.1%         | 100%             | 74.3%      | 33.8% | 66.7%     |            |
| 稼 動 延 日 数         | 365 日         | 365 日            | 311 日      | 311 日 | 311 日     |            |
| 平 均 介 護 度         | 4.09          | 3.00             | 2.40       | 0.40  | 3.0       |            |
| 単 価 ( 一 人 一 日 )   | 14,244 円      | 14,014 円         | 12,610 円   |       | 14,630 円  |            |
| サービス活動収益(千円)      | 551,591 千円    | 61,380 千円        | 102,061 千円 |       | 36,400 千円 | 751,432 千円 |
| 職 員 数 ( 常 勤 換 算 ) | 83.2 名        | 13.8 名           | 28.7 名     |       | 6.1 名     | 131.8 名    |

地域包括支援事業（花屋敷地域包括支援センター）

| 宝塚市受託収入<br>(千円) | 予防プラン<br>請求件数 | 予防プラン<br>委託件数 | 予防プラン<br>単価(円) | サービス活動収益<br>(千円) | 職員数<br>(常勤換算) |
|-----------------|---------------|---------------|----------------|------------------|---------------|
| 34,207 千円       | 270 件         | 70 件          | 4,780 円        | 53,647 千円        | 9.6 名         |

# ケアハウス花屋敷

介護保険制度の改正で、要支援者の訪問介護・通所介護は介護保険からは外れ、市の総合支援事業として形が変わっていく。ケアハウス入居者の1/3は要支援の認定を受けており、今後の宝塚市の動きを確認しながら、支援不足から生活の質が低下することの無いよう、支援体制については聖隷全体で構築していかなければならない。ケアハウス花屋敷としても、行政や医療機関、様々なサービス事業所と情報共有・連携を強化し、介護保険だけでなく、多様化する種々のサービスと園独自の有料サービスをうまく組み合わせて支援していく必要があると考えている。そのためには、制度についての理解と情報収集、病状や日常生活動作、認知機能に変化がみられた時に柔軟に対応できる介護力は必須であり、計画的に職員教育を進めていく。

国は重度の方対象の入所施設を増やす方向で動いており、ケアハウスの中でも花屋敷のように自立型の施設が増えることは今後考えにくい。介護の必要な方を支える施設はもちろん必要であるが、核家族化が進んだ昨今、独居や高齢者世帯が増えており、その方々が、少しの支援があれば生き生きと元気に過ごせることは、ケアハウス花屋敷で実証されており、存在意義は大きいと考えている。

入居者が出来るだけ今の健康状態や日常生活動作を維持出来るよう、栄養バランスのとれた美味しい食事の提供、安全に過ごせる生活環境の整備、健康体操やラジオ体操など健康維持のための取り組みをしていくと共に、楽しむことを大切に、新しい発想を入れながら行事を組み立てていきたい。また、災害が起きたときに困ることが無いよう日頃の備えと、災害時の職員・入居者の動き方を園だけで考えるのではなく、地域の方・入居者にご協力いただきながら考えていきたい。

## 【施設理念】

高齢者や障害者を含むすべての人々が、自立し、尊厳をもって暮らせる地域社会の実現を目指します

## 【経営方針】

1. いのちと尊厳を守ります
2. よりよいサービスを提供します
3. 地域社会と共に歩みます

## 【事業・運営計画】

1. 自立を支援し、認知症の症状や介護の必要性があっても対応できる柔軟性、対応力を強化する
  - (ア) 認知症についての知識・対応能力の取得・向上
    - ① 認知症実践者研修の受講 1 名
    - ② ①の受講者からの伝達講習と認知症についての施設内研修の実施
    - ③ アセッサー（介護プロフェッショナルキャリア段位制度の評価者）を 1 名養成し、職員の育成がより効果的に出来るようにする
  - (イ) 介護技術の習得と強化
    - ① 事業団研修、宝塚地区実施の新入職員研修・介護技術研修・リーダー研修等の受講
    - ② 施設内研修（緊急時対応、誤嚥・窒息時の対応等）
  - (ウ) 入居者の健康増進・健康維持
    - ① 週 1 回の健康体操の新カリキュラムの構築
    - ② 入居者対象の認知症研修の実施、認知症サポーターの育成
  - (エ) 自立支援
    - ① 入居者個々の状態や変化に対して、必要なタイミングで必要な支援が出来るよう、在宅サービスと園独自の有償サービスを組み合わせ、マネージメントする
    - ② 毎日 14 時～のショートカンファレンスで、タイムリーに利用者の課題について検討し、個々の能力を見極め、出来ることと 不足していることの判断や支援体制を協議する
  - (オ) 介護保険制度や宝塚市総合支援事業の情報共有をし、必要な知識を習得する
  - (カ) 介護支援専門員、訪問看護、訪問介護、福祉用具専門員、行政との連携強化
2. 今後の介護職員等確保の難しさを鑑みてのケアハウス人員配置等の検討
  - (ア) 軸となる介護職員を配置しながら、業務内容によって無資格の方を雇い入れ、育てる
    - ① 正職員とパート職員の割合や業務配分を再検討する
    - ② 必要な業務・時間帯に応じた人材を地域も含めて発掘・育成

- ③職員の業務の中でも清掃については、障害者の雇用を検討
- ④喫食業務については、短時間働ける地域の方の採用を検討
- (イ)確保の難しい大型免許が必要なマイクロバスから 10 名定員程度の車に変更
  - ①入居者が不便を感じることを無いう、時間帯によって便数を増やす
  - ②ケアハウスと花屋敷栄光園のそれぞれの運転手を総動員して、職員送迎と入居者・家族送迎を一体的に運営する
  - ③入居者・地域の利用者に説明会を開いて、了解を得たうえで進めていく
- 3. 生活の中で楽しむことや心地よさの提供
  - (ア) 日本の伝統行事や季節感を大事にし、継続するものと新規に企画するものを行事係を中心に検討し、1 か月前には決定する。必要に応じて利用者アンケートを実施し評価検討する
  - (イ) 中庭に菜園のスペースを更に広げ、入居者と共に植え付け～収穫を行い、収穫したものは、食事の一部として提供する。サツマイモを育て、「焼き芋会」企画予定
- 4. 運営安定の維持
  - (ア) 待機者数の維持と適時に入居案内を行うことで 100%入居率を維持していく
  - (イ) 計画的な修繕・設備管理と予測外の故障に対応できる資金準備
  - (ウ) 物価上昇や光熱費高騰への対処
    - ①天井電熱ヒーターの廃止
    - ②施設外周の水銀灯のLED化と事務所の直管蛍光灯のLED化
    - ③共有スペースのエアコンの更新の検討
- 5. 安心安全で美味しい食事の提供と安定した喫食数の確保
  - (ア) 季節感や伝統行事などを考慮し、五感で楽しめる食事、産地や品種の選択・調理の工夫により、より食べやすい食事を提供する
  - (イ) 喫食数は、昼食 70 食、夕食 80 食を確保できるよう検討する
    - ①配食サービス利用している治療食摂取の利用者には、栄光園からの提供が出来る形を構築
    - ②地域の独居高齢者等で希望される方への配食が出来ないかの検討
    - ③花屋敷全体で職員の喫食数を増やせるよう、呼びかける
- 6. 防災対策
  - (ア)4～5 月に行う居室訪問時に災害時対策として全入居者の居室の家具の配置等危険がないか、非常時準備品が用意できているかの確認し、指導・アドバイスすることを継続
  - (イ) 火災や地震等災害時に安全に避難できる方法を、入居者や地域の方の協力を得て確立する
    - ①東消防署、長尾台、ふじが丘の防災担当者、入居者、花屋敷栄光園と協力体制の検討・確立
    - ②後期には、協力体制が確立できたところを盛り込んだ避難訓練計画を立て、実施・評価
- 7. 安全で快適な生活環境の整備、老朽化に伴う修繕や設備更新を計画的に行う。
  - (ア) 外壁からの漏水の原因の究明と修理について、2017 年度実施に向けて検討
  - (イ) 共有スペースのエアコンを含めた設備の故障対応、厨房の機器の順次更新

【数値指標】

|               |            |
|---------------|------------|
| 利用者定員         | 100 人      |
| 利用者延べ数        | 36,500 人   |
| 稼働率 (%)       | 100%       |
| 単価 (一人一日)     | 4,298 円    |
| サービス活動収益 (千円) | 156,877 千円 |
| 職員数(介護:常勤換算)  | 6.4 人      |
| (相談員:常勤換算)    | 1.0 人      |
| (宿直員:人数)      | 3 人        |
| (運転手:人数)      | 1 人        |

## 宝塚第2地区在宅複合事業（社会福祉事業）

聖隷ヘルパーステーション宝塚

聖隷逆瀬川デイサービスセンター

聖隷逆瀬川デイサービスセンター虹

2016年度、聖隷ヘルパーステーション宝塚は、宝塚市東地区でサテライトを展開し同法人内の在宅事業所と連携し利用者のニーズに応えていく。特に重度利用者の対応を重点的に行っていく。重度利用者の対応については職員の知識と技術が高くなければ対応が困難なため、しっかりとした教育環境を整えて人材育成にも力を入れていく。東地区への展開、教育を行うにあたっては人材確保が必須事項であるため、人事部・宝塚せいの里運営管理課と連携して人員の募集・採用活動を行っていく。

聖隷逆瀬川デイサービスセンターは、要介護の利用者により多く利用して頂くことを目指す。受け入れる利用者の介護度が上がることが予想されるため、職員対応力向上のための教育体制再構築とリスクマネジメントの強化に力をいれて取り組んでいく。

聖隷逆瀬川デイサービスセンター虹は地域密着・認知症対応型通所介護事業所としての役割をしっかりと果たすために、重度の認知症利用者に焦点をあてる。また利用者が安心して穏やかに過ごせる環境作り・対応の向上を行うため、一人ひとりのアセスメントをさらに細かく行っていく。更なる知識・技術の向上が求められるため、定期的な勉強会を行っていく。

事業所間での連携を密に取り各事業所が果たすべき役割を明確にし、また家族・地域と協力して在宅で生活する利用者を支える。

### 【施設理念】

利用者が住み慣れた地域で、その人が望む、その人らしい生活を営むことができるよう支援する

### 【経営方針】

1. ご自宅で安心して暮らせる訪問介護サービスを提供します
2. 利用者が、その有する能力に応じ、可能な限り自立した日常生活を営むことができるように支援します

### 【事業・運営計画】

1. 利用者が安心して穏やかに在宅生活が過ごせるように支援する
  - (ア) 他職種間の連携を密に取り、利用者が安心できるサービスを提供する
  - (イ) 季節感を感じることができるレクリエーションを提供する
  - (ウ) 利用者とのコミュニケーションを積極的にとり、心身の状況に応じた適切な介護を提供する
2. 人材確保を行う
  - (ア) 人事部関西採用センター・宝塚せいの里運営管理課と連携して募集・採用活動を行っていく
  - (イ) 無資格者を含めて積極的に採用を行っていく

### 3. 人材育成の推進

- (ア) 同法人内の他事業所との積極的な交換研修を行う
- (イ) サービス提供責任者、喀痰吸引研修、認知症実践者研修への参加をすすめる
- (ウ) 毎月、事業所内での研修を計画的に実行する

### 4. リスクマネジメントの向上

- (ア) リスクマネジメント委員会の発足・持続を行い、職員内でのリスクマネジメントに対する意識の向上を図る
- (イ) ヒヤリハット報告書の記入について啓蒙し、職員間での報告書の共有を図る
- (ウ) 研修内に危険予知活動を取り入れて、日々の業務の中での危険予知能力を高める

#### 【数値指標】

##### 訪問介護事業（聖隷ヘルパーステーション宝塚）

| 介護給付           |                |                | 予防給付      |           | 単価(円)     |           | サービス<br>活動収益<br>(千円) | 職員数<br>(常勤換算) |
|----------------|----------------|----------------|-----------|-----------|-----------|-----------|----------------------|---------------|
| 平均<br>利用<br>者数 | 月間<br>訪問<br>件数 | 年間<br>訪問<br>件数 | 月間<br>利用者 | 年間<br>利用者 | 介護<br>(回) | 予防<br>(月) |                      |               |
| 114 人          | 1,216 件        | 14,586 件       | 112 人     | 1,350 人   | 3,948 円   | 18,027 円  | 118,297 千円           | 26.1 名        |

##### 通所介護事業（聖隷逆瀬川デイサービスセンター）

| 介護給付           |                |                | 予防給付      |           | 単価(円)     |           | サービス<br>活動収益<br>(千円) | 職員数<br>(常勤換算) |
|----------------|----------------|----------------|-----------|-----------|-----------|-----------|----------------------|---------------|
| 平均<br>利用<br>者数 | 月間<br>利用<br>者数 | 年間<br>利用<br>者数 | 月間<br>利用者 | 年間<br>利用者 | 介護<br>(月) | 予防<br>(月) |                      |               |
| 21 人           | 540 人          | 6,481 人        | 220 人     | 2,644 人   | 8,400 円   | 6,000 円   | 70,450 千円            | 14.3 名        |

##### 通所介護事業（聖隷逆瀬川デイサービスセンター虹）

| 介護給付           |                |                | 予防給付      |           | 単価(円)     |           | サービス<br>活動収益<br>(千円) | 職員数<br>(常勤換算) |
|----------------|----------------|----------------|-----------|-----------|-----------|-----------|----------------------|---------------|
| 平均<br>利用<br>者数 | 月間<br>利用<br>者数 | 年間<br>利用<br>者数 | 月間<br>利用者 | 年間<br>利用者 | 介護<br>(月) | 予防<br>(月) |                      |               |
| 9.6 人          | 249 人          | 2,986 人        | 0 人       | 0 人       | 13,000 円  | 0 円       | 39,429 千円            | 8.9 名         |



## 宝塚第 2 地区複合事業（公益事業）

聖隷訪問看護ステーション宝塚

逆瀬川地域包括支援センター

聖隷ケアプランセンター宝塚

2016 年度は第 6 期の介護保険事業計画の中盤の年となり、宝塚市が進める地域包括ケアシステム、新総合事業等への取り組みが本格的に求められる年と言える。宝塚第 2 地区は、市内で最も人口の多い地域（市人口の約 2 割）であり、65 歳以上の人口も同様である。重度の要介護者は他の地域を若干上回るものの要支援認定者が市内で最も多く、元気な高齢者が多い地域という特徴も持っている。ここから見えてくるポイントは、宝塚 2 地区として新総合事業に対しより早い取り組みが求められることである。多数を占める要支援者の今後の重度化を見越すと、地域包括ケアシステムの柱と位置付けられる在宅医療、介護連携、認知症への質が問われてくることは間違いないと言える。2016 年度は、地域事情、制度の流れを踏まえ、個々のケアの質も上げていけるよう各事業所が取り組んでいく。

### 【施設理念】

利用者が住み慣れた地域で、その人が望む、その人らしい生活を営むことができるよう支援する

### 【経営方針】

#### 聖隷訪問看護ステーション宝塚

1. 利用者の人格を尊重し、常に利用者の立場に立ったサービス提供に努め、地域や家族との結びつきを重視した運営を行う

#### 逆瀬川地域包括支援センター

1. 介護保険法を順守し、公正中立な立場で介護予防支援を行う
2. 利用者が可能な限り居宅において日常生活が送れるようサービス計画の作成を行う
3. 地域における介護関係内外を問わず様々な情報を利用者に提供し、サービスの選択を求める

#### 聖隷ケアプランセンター宝塚

1. 利用者が可能な限り居宅において、自立した生活が送れるよう援助を行う
2. 利用者の意思及び人格を尊重し、適切なサービス利用ができるよう援助を行う
3. 地区の保健・医療・福祉など様々な資源との連携を図り援助を行う

### 【事業・運営計画】

#### 聖隷訪問看護ステーション宝塚

多職種と円滑なチームを組むことができるような取り組み

1. 自主勉強会による看護リーダー及びスタッフの育成を図る
2. 看取りのカンファレンスを継続開催。行政やサロンなど地域と協力して、看取りに関する地域全体の意識の底上げを図る
3. 関係機関のニーズを把握し、重度利用者や看取りに関する知識・技術の向上を図る

4. 言語聴覚士の積極活用。機能を地域にアピールし、より効果的な専門性の提供を図る

### 逆瀬川地域包括支援センター

新総合事業への円滑な移行と認知症対応の強化

1. 予防給付対象者への意向調査結果を市に報告するとともに、利用者の意向を中心に、地域の様々な主体（住民・ボランティア・NPO等）による新しいサービスの活用を図る
2. 地域ケア会議及び認知症サポーター養成講座の積極的な開催を図る
3. 地域包括ケアシステムに関する勉強会を専門職だけでなく地域に向けて開催する

### 聖隷ケアプランセンター宝塚

ケアプランの質の強化と地域包括ケアシステム推進への参画

1. 重度の利用者及び認知症利用者へのアセスメント方法を新たに実践し、サービス内容や連携の充実を図る
2. 地域の介護サービス連携強化を目的に開催される研修に主任ケアマネジャーを派遣し、地域内の専門職間の連携強化を図る
3. 看取りのカンファレンスの継続開催。訪問看護とともに地域の全体の意識の底上げと知識・技術の向上も図る

#### 【数値指標】

訪問看護事業（聖隷訪問看護ステーション宝塚）

|    | 平均利用者数 | 月訪問件数 | 年訪問件数   | 単価(円)    | サービス活動<br>収益(千円) | 職員数<br>(常勤換算) |
|----|--------|-------|---------|----------|------------------|---------------|
| 医療 | 52 人   | 378 件 | 4,540 件 | 10,000 円 | 119,624 千円       | 15.6 名        |
| 介護 | 107 人  | 580 件 | 6,970 件 | 9,900 円  |                  |               |
| 予防 | 22 人   | 47 件  | 560 件   | 9,900 円  |                  |               |

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター宝塚）

| 年間請求件数  |       | 平均単価(円)  |         | 訪問調査<br>年間件数 | 訪問調査<br>単価(円) | サービス活動<br>収益(千円) | 職員数<br>(常勤換算) |
|---------|-------|----------|---------|--------------|---------------|------------------|---------------|
| 介護      | 予防    | 介護       | 予防      |              |               |                  |               |
| 3,252 件 | 432 件 | 17,500 円 | 4,300 円 | 2,400 件      | 4,200 円       | 68,838 千円        | 14.6 名        |

地域包括支援センター事業（逆瀬川地域包括支援センター）

| 年間請求件数  |         | 平均単価(円) |         | サービス活動<br>収益(千円) | 職員数<br>(常勤換算) |
|---------|---------|---------|---------|------------------|---------------|
| 予防      | 予防（委託）  | 予防      | 委託（委託）  |                  |               |
| 4,800 件 | 2,580 件 | 4,750 円 | 4,750 円 | 76,480 千円        | 11.0 名        |

# 北神戸地区在宅複合事業

聖隷訪問看護ステーション北神戸

聖隷ケアプランセンター北神戸

2016 年度、北神戸は地域の利用者に 24 時間 365 日切れ目のない療養生活を包括的に支援できるように訪問看護及び居宅介護支援の機能強化を目指したい。2015 年度は常勤看護師 2 名、常勤ケアマネジャー 1 名と予定通りの採用ができ、機能強化に向けて人員体制を整えることができた。

2016 年度は、訪問看護及び居宅介護支援のさらなる質の向上、地域にアピールできる特色を強化していく。他ステーションに負けない対応をするため、難病、精神、小児、癌のターミナルや看取りなど、全スタッフの看護技術や対応能力を強化する。特に精神・小児看護に着目している。依頼を迅速・丁寧にする事ができるよう、多様な体制を整え、地域ニーズに沿った事業展開につなげていき、将来的には新たな複合事業を目指す。

## 【施設理念】

利用者が可能な限り居宅において、その有する能力に応じて自立した日常生活を営むことができるよう、その療養生活を支援し、心身の機能維持回復を目指す

## 【経営方針】

利用者の人格・想いを尊重し、常に利用者の立場に立ったサービスに努め、地域や家庭との結びつきを重視した運営を行う

## 【事業・運営計画】

### 1. 北神戸地区において専門性のある事業を展開

- (ア) 重症及び医療依存度の高い利用者に対する安全・安心な、きめ細やかで多様な体制作り
- (イ) 研修計画を立て研修へ参加し、看護師やケアマネジャーの専門性を強化する精神・小児・難病・癌など得意分野を極め、サービスの質・スキルアップにつなげ、事業所の「売り」をアピールしていく
- (ウ) 職員を大切に離職をなくすために、兼務も含めた効率の良い職員体制、訪問スタッフの負担の軽減を図る
- (エ) 地域ケア会議に参加し、訪問看護の活用をアピール、積極的に参入していく

### 2. 各機関との連携強化と効率化

- (ア) 聖隷訪問看護ラダーの活用
- (イ) 関西地区の訪問看護ステーションやケアプランセンター間で相互間チェックによるリスク管理・交換研修への参加
- (ウ) 神戸市看護大学より実習生の受け入れ継続と精神専門看護師実習生の受け入れ

【数値指標】

訪問看護事業（訪問看護ステーション北神戸）

| 平均利用者数 | 月訪問件数 | 年訪問件数   | 単価(円)   | 総収入(千円)   | 職員数(常勤換算) |
|--------|-------|---------|---------|-----------|-----------|
| 122 人  | 737 件 | 8,844 件 | 9,604 円 | 84,937 千円 | 11.1 名    |

居宅介護支援事業（ケアプランセンター北神戸）

| 年間請求件数 |       | 平均単価(円)  |         | 訪問調査<br>年間件数 | 訪問調査<br>単価(円) | 総収入(千円)   | 職員数<br>(常勤換算) |
|--------|-------|----------|---------|--------------|---------------|-----------|---------------|
| 介護     | 予防    | 介護       | 予防      |              |               |           |               |
| 850 件  | 400 件 | 12,500 円 | 3,640 円 | —            | —             | 12,024 千円 | 3.3 名         |

# 宝塚第5地区在宅複合事業（公益事業）

聖隷訪問看護ステーション山本

聖隷ケアプランセンター花屋敷

宝塚第5地区に訪問看護ステーションを開設し3年が経過した。宝塚市東地区の住民にも認知され多職種と連携を図り、小児から高齢者の生活を支えている。

2016年度は聖隷山本デイサービス跡地へ事務所を移転し、居宅・訪問看護のみでなく介護サービスの積極的な事業展開を視野に置いた準備の年にしたい。また、今後この地で新たに必要とされるサービスを模索し、暮らしに不安が少なく、可能な限り在宅で過ごすことができる。それを支えるプラン・介護・看護サービスを提供していく。

## 【施設理念】

1. 利用者が可能な限り居宅において、自立した生活が送れるよう援助を行う
2. 利用者の意思及び人格を尊重し、適切なサービス利用ができるよう援助を行う
3. 地区の保健・医療・福祉など様々な資源との連携を図り援助を行う

## 【経営方針】

### 聖隷訪問看護ステーション山本

訪問看護ステーションの職員一人一人が「人間本来の持つ回復力や治癒力を引き出し、利用者1人ひとりの人生をともに考え、命の最期のときをご家族とともに支えられる」これを目標に日々いきいき仕事ができるステーションになる

### 聖隷ケアプランセンター花屋敷

特定事業所として職員一人一人が高い専門知識・技術を持ち、利用者が望む在宅生活が継続できるよう支援する

## 【事業・運営計画】

### 聖隷訪問看護ステーション山本

1. 2016年度、職員全員が自身を成長するための目標が1つ以上達成でき、退職者ゼロを目指す
  - (ア) 目標参画・ラダーが確実にできる。目標参画・ラダーの時間確保
  - (イ) 上記の確実な面談とフィードバックを確実にを行う
2. 超過勤務を減らし、有給消化率をUPできる
  - (ア) 個々の目標から可能な時間管理方法を計画し達成できるよう支援
  - (イ) 休暇について計画的にスケジュール調整
  - (ウ) 業務改善について、無理無駄を省く。月の合同会議で検討項目をあげ、実践評価
3. 居宅・包括との連携強化（医療連携強化の取り組み・体制づくり）が具体的に1つでも見出せる
  - (ア) 宝塚5・6地区内での利用者が暮らし続けられるための有効な医療連携ができる為は何ができるか課題を抽出し具体的な実践につなげる

- ①地域・住民・職員のニーズの各々を把握しできることを把握
- ②年内に具体化・実践・評価を1つ以上行う
- 4. 山本拠点に置いた新規ケース開拓と介護サービス展開に向けての準備
  - (ア) グループホームとの契約
  - (イ) 伊丹北部・川西南部の新規居宅開拓
  - (ウ) 管理者の地域での講師・講演活動
  - (エ) 介護サービス展開に向けての準備

#### 聖隷ケアプランセンター花屋敷

1. 事務所移転後も安定した事業所運営ができるよう収支のバランスを整える
  - (ア) 1年目ケアマネジャーの育成とレセプト件数を10月までに25件、育休明け職員を1月までに30件へ段階的にアップする
  - (イ) 看板を設置し新規の来所相談を増やす
  - (ウ) パートケアマネジャーの募集を継続して行なう
2. 法令順守を意識したケアプラン業務の展開と検証
  - (ア) 相互間チェックの継続とワイズマンの活用方法の検証
  - (イ) アセスメントツールの見直し
  - (ウ) アセスメントと居宅サービス計画書の連動の再検証
3. 法人内事業所との連携強化
  - (ア) 定期的に事業所の状況について話し合う機会を作る
4. 宝塚東地区の事業展開への積極的参画
  - (ア) 事務所移転をスムーズに行う
  - (イ) 他法人の動き・新規開設事業所などの情報を発信する
  - (ウ) 職員募集の看板の設置
  - (エ) 地域住民と関わりの場づくり

#### 【数値指標】

##### 聖隷訪問看護ステーション山本

| 平均利用者数 | 月訪問件数 | 年訪問件数  | 単価（円）  | サービス活動収益（千円） | 職員数（常勤換算） |
|--------|-------|--------|--------|--------------|-----------|
| 116人   | 670件  | 8,036件 | 9,500円 | 74,970千円     | 10.28名    |

##### 聖隷ケアプランセンター花屋敷

| 年間請求件数 |      | 平均単価（円） |        | 訪問調査年間件数 | 年間調査単価（円） | サービス活動収益（千円） | 職員数（常勤換算） |
|--------|------|---------|--------|----------|-----------|--------------|-----------|
| 介護     | 予防   | 介護      | 予防     | —        | —         | 59,463千円     | 9.6名      |
| 3,395件 | 288件 | 17,150円 | 4,300円 |          |           |              |           |

# 聖隷逆瀬台デイサービスセンター

利用者の状態を問わず幅広く受け入れができる大規模デイサービスとして宝塚第2地区において開設より20年活動してきた。地域のコミュニティとして施設を一部開放していることで地域住民からの認知度も高く、聖隷逆瀬台デイサービスセンターを含めた聖隷福祉事業団全体に対する期待も大きい。専門性と根拠に基づく人材育成を積み重ね、合わせてチームによる多角的な視点を持ってケアの質向上に努めることで中重度、認知症の利用者が安心して通えるデイサービスとして地域からの期待に応えていきたい。

2015年度介護報酬改定にてデイサービスの再編が明確にされ、これを介護保険の節目と捉え制度の枠に囚われない地域軸での新たなサービスを検討し実施できるよう準備していく1年としたい。

## 【施設理念】

住み慣れた地域で最後まで、在宅での介護を支える

## 【経営方針】

1. 日常生活上必要な介護等を一人ひとりに合わせて提供します
2. 心身機能の維持・改善に努めます
3. 家族の身体的・精神的負担の軽減を図ります
4. 社会的孤立感の解消を図ります

## 【事業・運営計画】

1. 中重度・認知症利用者を柔軟に受け入れできる
  - (ア) 稼働率80～85%を維持できる受け入れ体制と人員配置を整える
  - (イ) ニーズに合わせたOFF-JTと職場でのOJTを充実させサービスの品質保証に努める
  - (ウ) 利用受付に関する判断基準・ルールを作り、利用ニーズにタイムリーに対応する
  - (エ) サービス評価を年1回以上実施し、自己評価と他己評価でサービスの品質を管理する
2. チーム活動を活性化させ組織力が向上できる
  - (ア) 職場内のチームを再編し、リーダーのマネジメント力を育成する
  - (イ) チームおよびリーダーを中心とした業務遂行を行う
3. 施設老朽化に伴う設備補修を計画する
  - (ア) 必要部分を明確にし、長期的視野で検討し計画的に更新する

## 【数値的指標】

大規模通所介護Ⅰ 利用定員40人（介護・予防を一体的に運営）

|     | 一日平均<br>利用者数 | 利用者<br>延べ人数 | 単価<br>(日当たり) | 稼働率   | サービス活動<br>収益(千円) | 職員数<br>(常勤換算) |
|-----|--------------|-------------|--------------|-------|------------------|---------------|
| 要介護 | 32.0人        | 9920人       | 12,300円      | 83.0% | 137,152円         | 22.0名         |
| 要支援 | 1.7人         | 527人        | 6,500円       |       |                  |               |

## 聖隷デイサービスセンター結い

2015 年 4 月に移転し事業規模を拡大し、開設当初の介護予防対象の運動機能型から、要介護利用者も多く利用して頂くために、2015 年 10 月より、食事、入浴のサービスを開始した。

2016 年度は、2017 年度より始まる総合支援事業へ向けて介護予防中心のサービスから要介護中心のサービスへ転換を図り、経営の安定化を図る。

また、当事業所はUR都市機構の団地内にある為、その立地条件を活かして自治会への参加及び地域行事への協力をを行い、総合支援事業に向けての準備期間としたい。

### 【経営方針】

利用者の方の有する能力に応じ、可能な限り自立した日常生活を送れるよう支援する

### 【事業・運営計画】

1. 要介護を中心とした地域密着型通所介護への変更に伴う事業運営の実施
  - (ア) 介護予防中心から要介護中心への転換を図り、経営を安定させる
  - (イ) 総合支援事業へ向けて更なる要介護利用者の新規獲得を目指す
  - (ウ) 予防から介護になっても継続して利用できるプログラム作りを行う
2. 2017 年度総合支援事業開始に向けての準備
  - (ア) UR都市機構団地内自治会への参加及び地域住民との関係作り
  - (イ) 地域行事や出前講座への協力
  - (ウ) 介護保険から外れた後でも継続して利用できる仕組み作り

### 【数値指標】

| 介護給付       |             |             | 予防給付      |           | 単価(円)     |           | サービス活動収益<br>(千円) | 職員数<br>(常勤<br>換算) |
|------------|-------------|-------------|-----------|-----------|-----------|-----------|------------------|-------------------|
| 平均<br>利用者数 | 月 間<br>利用者数 | 年 間<br>利用者数 | 月間<br>利用者 | 年間<br>利用者 | 介護<br>(月) | 予防<br>(月) |                  |                   |
| 9.9 人      | 255 人       | 3,061 人     | 390 人     | 4,650 人   | 8,000 円   | 5,800 円   | 51,459 千円        | 10.5 名            |



# コミュニティケアセンター宝塚店

当事業所は収益の約7割強が介護保険関連であり、その内4割が軽度者である。

2018年度の介護保険改定で福祉用具貸与では(1)貸与価格の見直し、(2)要介護区分ごとに貸与対象品目の見直し、(3)貸与・住宅改修工事の軽度者原則自己負担等が検討されており現状のサービスだけでは大幅に減収すると予想される。

介護保険改定を見据え、2016年度から現状のサービス拡充をしていくと共に介護保険外も含め新しいサービスを模索し実践していきたい。

## 【施設理念】

利用者が可能な限り在宅生活において、その有する能力に応じて自立した日常生活を営むことができるよう、利用者に対し適切な福祉用具貸与サービスを行う

## 【経営方針】

常に利用者の立場に立ち適切な用具選定に努め、利用者とその家族が在宅において安心して療養又は介護が可能な福祉用具貸与サービスに努める

## 【事業・運営計画】

### 1. 新サービスの開始

- (ア) レンタル卸会社と協同し、介護保険外レンタルの新しい仕掛けと仕組みの構築
- (イ) 早期退院、退所支援サービスに向け福祉用具が提供できる仕組みを病院、介護老人保健施設へアプローチをかけていく
- (ウ) 障害給付（日常生活用具、補装具）への取組強化

### 2. リスク管理

- (ア) 内勤事務のローテーションを行い職員同士がフォローできる職場作り
- (イ) リスク委員会を中心にアクシデント・インシデントの共有の強化

### 3. 質の底上げ

- (ア) 年間計画を作成し勉強会を毎月開催。外部研修にも積極的に参加し、職場にフィードバックする仕組み作り

## 【数値指標】（千円）

| 年 間<br>利用者数 | 年 間<br>貸与売上<br>(千円) | 年 間<br>販売売上<br>(千円) | 年 間<br>住改修売上<br>(千円) | サービス<br>活動収益<br>(千円) | 職員数<br>(常勤換<br>算) |
|-------------|---------------------|---------------------|----------------------|----------------------|-------------------|
| 8,430 件     | 106,770 千円          | 51,480 千円           | 16,580 千円            | 176,330 千円           | 11 名              |

# 聖隷カーネーションホーム

聖隷在宅介護支援センター淡路

聖隷ケアプランセンター淡路

淡路市の総人口減少に反比例する形で高齢化率は年々増加を続けている中、高齢者を対象とした医療・介護サービス等は整備されてきている。この状況下、利用者の選択眼は養われ、より質の高いサービスが求められるようになることは想像に難くない。また、淡路市では2017年度に向け「介護予防・日常生活支援総合事業」の準備も着々と進んでおり、医療・福祉連携を主とした地域包括ケアシステムに関する住民の期待も高まりつつある。この変革の時期において、聖隷カーネーションホームは自己研磨を重ね、利用者や家族のみならず地域の方々に率先して選択してもらえる質の高いサービス提供に努めていく。更に、制度改変が進む中、新たなニーズに対する対応力を醸成していくとともに、制度の谷間で困窮する人が存在しないように、介護保険にとらわれず、地域福祉の視点で新たな福祉サービスの創造にも積極的に取り組んでいく。そのためには、聖隷福祉事業団内外を問わず各種機関との連携を図り、地域包括ケアシステムの主軸として地域における医療・福祉力の向上を図れるよう基幹施設としての役割を担っていく。

## 【施設理念】

人と地域と未来のために『ともに咲き続ける』ことのできる事業所となる

～『ともに咲き続ける』ために私たちは…～

1. ご利用者、ご家族のみならず地域に信頼され続けるサービスを提供します
2. 現在だけではなく、過去を活かし未来を見据えたサービスを提供します
3. 私たちだからこそできる専門的で先駆的な質の高いサービスを提供します

## 【経営方針】

1. ご利用者、ご家族、地域に安全と安心を与え続けられるようサービスの質の向上に努める
2. 安心して地域で暮らし続けられるよう福祉サービスの創出、定着に努める
3. 地域包括ケアシステムの主軸となるよう淡路地区総合化力の発揮に努める
4. 地域への情報発信を促進し、人材開拓・確保・育成に努める
5. 安定した運営ができるよう適切な加算算定、職員配置、設備改修等に努める

## 【事業・運営計画】

1. 「選択され続ける」サービスの提供
  - (ア) 利用者や家族、地域の方々が求めていることと提供サービスとの差異を適時評価し、選択され続けるサービスに向けて修正を重ねることで、サービスの質の強化に努める
  - (イ) リスクマネジメントを徹底し、介護者が原因となる事故の防止を図るとともに、利用者の状態変化に早期に気付き、対応することで病状悪化を抑制していく
  - (ウ) ボランティア等の活用、及び地域住民向け講座を通じ、地域に開かれた施設運営を図る
  - (エ) 地域にて最高であると評価してもらうための基準を明確化し、適時評価、改善を図る
2. 「安心して地域で暮らし続けられる」新たな福祉サービスの創出と定着
  - (ア) 支援困難な方や医療ニーズの高い方等の受け入れを積極的に検討、実践していく。併せて利用率を意識した受け入れの徹底、サービス対象エリアの拡大を図る

(イ) 制度の谷間で困窮している方がいないか確認を徹底し、必要時、介護保険法にとらわれず新たなサービスの提案、実施を図っていく

(ウ) 他事業所との連動方法を適時検討し、対応力の拡充に努める

### 3. 地域包括ケアシステムの主軸となるために淡路地区総合化力を発揮

(ア) 事業団内で切れ目なく関わり続けられるシステムを聖隷淡路病院等と検討、実践する

(イ) 事業団以外の事業所・医療機関との連携方法を検討し、適時提案、実践を図る

(ウ) 自施設の強みを整理し、地域包括ケアシステムにおける役割の明確化に努める

### 4. 人材開拓・確保・育成の徹底

(ア) 他法人施設と共同し「地域介護力向上講座」、「認知症予防講座」を開設する

(イ) 職員個々のキャリアアップを意識した目標設定を推奨し、必要な資格取得支援を行う

(ウ) 事業団階層別研修や認知症研修等の外部研修への効果的な参加を図る

(エ) 淡路地区における介護職、看護職等の職種毎のキャリアパスイメージを構築する

### 5. 運営安定化の推進

(ア) 適切な加算算定、及び効率的な職員配置が行えるように業務改善を図る

(イ) 消耗備品の購入状況、及び外部委託業者の契約状況を評価し、適正化を図る

(ウ) 備品購入、設備改修の必要性を検証し、優先順位に応じた計画的な購入、改修を図る

#### 【数値指標】

|                  | 特養入所       | 短期入所      | 通所介護      |         |           |
|------------------|------------|-----------|-----------|---------|-----------|
|                  | 従来型        | 従来型       | 一般型       | 介護予防    | 認知症対応型    |
| 利用者定員            | 54 名       | 16 名      | 30 名      | (30 名)  | 12 名      |
| 利用者延べ人数          | 19,355 名   | 5,344 名   | 5,840 名   | 1,150 名 | 1,961 名   |
| 一日平均利用者数         | 53.0 名     | 14.6 名    | 18.8 名    | 3.7 名   | 6.3 名     |
| 稼動率 (%)          | 98.2%      | 91.5%     | 75.2%     |         | 52.7%     |
| 稼動日数 (延べ)        | 365 日      | 365 日     | 310 日     |         | 310 日     |
| 平均介護度            | 3.9        | 3.4       | 2.1       | —       | 2.8       |
| 単価<br>(一人一日当り)   | 11,222 円   | 11,296 円  | 9,162 円   | 3,630 円 | 11,830 円  |
| サービス活動収益<br>(千円) | 217,358 千円 | 60,369 千円 | 57,621 千円 |         | 23,199 千円 |
| 職員数 (常勤換算)       | 30.2 名     | 7.6 名     | 8.8 名     |         | 6.5 名     |

| 聖隷在宅介護支援<br>センター淡路 |               | 聖隷ケアプランセンター淡路 |             |              |                   |               |
|--------------------|---------------|---------------|-------------|--------------|-------------------|---------------|
| 受託収入<br>(千円)       | 職員数<br>(常勤換算) | 年間請求<br>件数    | 平均単価<br>(円) | 訪問調査<br>年間件数 | サービス活動<br>収益 (千円) | 職員数<br>(常勤換算) |
| 6,210 千円           | 1.2 名         | 介護            | 介護          | 84 件         | 35,380 千円         | 6.8 名         |
|                    |               | 2,280 件       | 15,000 円    |              |                   |               |

# 淡路栄光園

2015年度は、運営面では人員の確保に苦勞した年であった。あらゆる手を尽くしてもなかなか人員の補充に結びつかない中、職員は医療ニーズの拡大や見取り対応、短期入所の受け入れ等、利用者の生活を守ろうと必死に職務を全うしてくれたことに感謝する。そして、新たな取り組みとして一年間かけて各々が自分たちのケアを発信することに努めてきた。家族との信頼関係の形成によるやりがいや自信を深め、個々の成長と組織の安定が成果として見られている。

経営面では、グループ内の連携を活かし、可能な加算算定や稼働率の向上に努め、厳しい報酬改定後の年としては一定の結果を出すことができた。その結果、老朽化による機器の入れ替えや補修を進めることができた。

2016年度は引き続き人財育成と多様な可能性を広げ、目標達成とともにご利用者に還元できるような組織づくりを柱とし、新しい展開に向けて邁進していく。

## 【施設理念】

「家族の心とまなざしでむかえる」

## 【経営方針】

1. 「人財育成」を軸とした質の高いサービスの提供
2. 安定した施設経営の維持
3. 淡路地区における事業連携強化
4. 将来計画への取り組み
5. 環境対策への取り組みと社会貢献活動

## 【事業・運営計画】

1. 「人財育成」を軸とした質の高いサービスを提供する
  - (ア) 教育委員会による介護テクニカルリーダーを軸にした研修等の年間計画を作成、実施する
  - (イ) 職場全体でOJT指導を主とした職員教育体制を構築し、職員の質の維持、向上に努める
  - (ウ) 転倒による事故予防、体調不良の早期発見、感染症の予防等を行い、健やかな生活を送っていただけるようリスク管理に努める
  - (エ) 各部署のリーダーが中心となって、利用者状況に合わせた対応の検討やプラン作成は基より、本人、家族等に安心、納得いただけるような「伝える」力を強化する
  - (オ) 「介護職員等による痰の吸引等の実施のための研修」、「介護職員実務者研修」、「キャリア段位制度」など、外部研修に計画的に参加し、重度利用者ケア体制の充実を図る
  - (カ) 口腔機能に関する取組みを強化し、嚥下機能維持や肺炎予防の実践を行う
  - (キ) 介護福祉士・社会福祉士・介護支援専門員等の資格取得を積極的に推進する
  - (ク) 通所介護事業では、中重度加算や認知症加算等を取得する体制を構築し、医療ニーズや認知症予防に努めた対応を強化することで、利用者満足度向上に努める

## 2. 施設経営の安定化

- (ア) 病院との連携により、入院期間中の空室利用や退院調整を円滑に行う
- (イ) 広域での営業を行うことで待機者や利用者の獲得を行い、入所並びに短期入所の稼働率の維持向上を図る
- (ウ) 学校や地域との関わりを深め、新卒者や定年後の雇用希望者獲得等、人材確保に努める
- (エ) 職場長レベルで介護保険制度の理解、加算の適時対応等 安定した運営体制に繋げる
- (オ) 中重度者の受け皿を広げる体制を強化し、平均介護度の維持向上に努める
- (カ) 老朽化したライフライン設備等の保守、修繕を計画的に実施する

## 3. 淡路地区における事業連携強化

- (ア) 淡路地区エリア会議及び淡路地区戦略会議を基に、淡路地区聖隷事業所連携の具体的な取り組みと課題解決に努める
- (イ) 職員研修、交換研修、地区学会などを充実させ、淡路地区全体での交流と人材育成を図る
- (ウ) 聖隷内各施設及び他法人の医療・福祉機関や行政、社会福祉協議会等と連携し、地域包括ケアシステムの一翼を担う

## 4. 将来計画への取り組み

- (ア) 淡路市第6期介護保険事業計画について把握し、対応策を検討する
- (イ) デイサービスの移転計画を含め、障害部門等の新規事業について模索する

## 5. 環境対策への取り組みと社会貢献活動

- (ア) 環境対策への取り組み
  - ① 施設内照明器具のLED化を段階的に進め、消費電力の削減に努める
  - ② 空調、給湯設備の入れ替えを行い、水光熱費の抑制を図る
- (イ) 社会貢献活動
  - ① ボランティアや中学、高校との連携を図り、地域とのつながりや人材育成に寄与する
  - ② 行政や福祉関係機関が行う地域支援事業に積極的に参加する
  - ③ 兵庫式24時間LSA地域見守り事業や生きがい型デイサービス、有償サービスの実施により、地域の見守り支援、介護予防の役割を果たす

### 【数値指標】

|              | 特養入所      | 短期入所     | 通所介護     |        |
|--------------|-----------|----------|----------|--------|
|              | 従来型       |          | 一般       | 介護予防   |
| 利用者定員        | 60名       | 17名      | 35名      |        |
| 利用者延べ数       | 21,462名   | 6,023名   | 7,240名   | 1,448名 |
| 一日平均利用者数     | 58.8名     | 16.5名    | 20名      | 4名     |
| 稼働率(%)       | 98.0%     | 97.0%    | 68.6%    |        |
| 稼働日数(延べ)     | 365日      | 365日     | 362日     |        |
| 単価(一人一日当り)   | 11,191円   | 11,308円  | 9,762円   | 3,459円 |
| サービス活動収益(千円) | 240,543千円 | 68,107千円 | 75,701千円 |        |
| 職員数(常勤換算)    | 38.1名     | 9.0名     | 15.3名    |        |

# 聖隷訪問看護ステーション淡路

## 【事業・運営計画】

### 1. 「丁寧な看護」の実践

- (ア) 利用者の思い・願い・生活スタイルを尊重した、より良い暮らしを実現していく
- (イ) コストや時間に左右されず、常に最善のケアを目指す
- (ウ) 主治医と連携した早期対応を徹底することで、重症化を防ぎ、安定した療養生活支援を行う
- (エ) 利用者満足度の向上を図り、選ばれるサービス事業所となる

### 2. 津名事務所の積極的活用

- (ア) 淡路市南部の拠点としての整備を図り、淡路市津名・一宮地区並びに洲本市の利用者を獲得する
- (イ) 更なるチーム体制の充実、及び I C T の活用で業務の効率化を図る
- (ウ) 地域住民向け講座の開催等、津名事務所の多目的室を活用することで、地域連携や多職種連携を推進する

### 3. 在宅事業所間連携の充実

- (ア) 医療サービスと介護サービスの住み分けによる適切なサービス提供を行う
- (イ) 情報共有を充実させ、早期介入や必要性に応じた柔軟な対応体制とする
- (ウ) 「気がかり」を大切に、ご利用者の課題を発信し、検討できる職員を育成する

### 4. 「24 時間 365 日」体制の強化

- (ア) 小児から看取りまで、療養生活の安全・安心を担保する
- (イ) 淡路市内唯一、積極的な 24 時間体制ができる事業所としての責務を果たしていく

## 【数値指標】

| 平均利用者数 | 月訪問件数   | 年訪問件数    | 単価(円)   | サービス活動<br>収益(千円) | 職員数常勤換算 |
|--------|---------|----------|---------|------------------|---------|
| 182 人  | 1,110 件 | 13,314 件 | 8,533 円 | 113,611 千円       | 17.9 名  |

# 聖隷ヘルパーステーション淡路

## 【事業・運営計画】

### 1. 地域で選ばれる事業所になる

- (ア) 職員教育の充実を図る
- (イ) 淡路市全域を対象とした積極的な活動を行う
- (ウ) 聖隷訪問看護ステーション淡路との連携強化を図り、地域に強みをアピールしていく
- (エ) 早朝対応、夕方対応、有償訪問サービス等の柔軟な利用ニーズに対応できるように、受け入れ体制を確立する
- (オ) 事業団内事業所だけではなく、地域包括支援センターや地域の方々、他法人事業所等と積極的な関わりを継続し、連携を図っていく

### 2. 業務管理の徹底

- (ア) 淡路市内の地域ごとの無駄のない効率的なスケジュール管理を徹底する
- (イ) 『訪問介護計画書』の作成及び評価を徹底する
- (ウ) 定期的にカンファレンスを実施し、『訪問介護計画書』の精度向上を図る
- (エ) 登録ヘルパーの確保に努め、新規利用者を受け入れるための人員を確保していく
- (オ) 淡路市介護保険事業計画の動向を踏まえ、適時、チームの再編成や業務の見直しを図っていく

## 【数値指標】

| 介護給付         |            |            | 予防給付      |           | 障害（自立・移動支援） |            |            |
|--------------|------------|------------|-----------|-----------|-------------|------------|------------|
| 平均<br>利用者数   | 月間<br>訪問件数 | 年間<br>訪問件数 | 月間<br>利用者 | 年間<br>利用者 | 平均<br>利用者数  | 月間<br>訪問件数 | 年間<br>訪問件数 |
| 105 名        | 1,163 件    | 13,690 件   | 53 名      | 363 名     | 65 名        | 550 件      | 6,580 件    |
| 単価           | 3264 円/件   |            | 単価        | 19,500 円  | 単価          | 3,457 円/件  |            |
| サービス活動収益（千円） |            | 82,538 千円  |           | 職員数（常勤換算） |             | 25.4 名     |            |

# 奄美佳南園

特別養護老人ホーム奄美佳南園・デイサービス・ホームヘルプ事業所  
訪問入浴事業所・在宅介護支援センター（居宅介護支援事業）・春日デイサービス

2016 年度は、介護保険制度改正に伴う、地域支援事業が開始される。これまでも地域のニーズ、求めに応じ運営を行ってきたが、これからの地域包括ケアシステムにおいても中核施設としての役割を担って行ける様、各行政機関、地域自治会との連携を強化していきたい。

春日デイサービスにて月 1 回実施している「ゆていもれ会」が好評となっている。ボランティアを始め、地域の方々と共に考え、実施して行く事で地域貢献へと繋げて行きたい。また、従来行ってきた障害者へのサービスに加え、2015 年から開始した障害者の短期入所の受入れにおいても、今後の運営には欠かせない事業となると考える。のぞみ園相談支援事業所と奄美佳南園居宅介護の情報共有が行えるよう、統合も視野に入れつつ、連携強化を図って行きたい。

奄美エリアにおいては、のぞみ園の龍郷計画実施や障害者支援への取組を積極的に行い、子供から高齢者、障害者に至る迄、質の高いサービスの提供を実施して行きたい。

## 【施設理念】

「夕暮れになっても光がある」

～ 高齢者と職員が共に生きる中で、高齢者の余生は夕映えの美しさを発揮する ～

## 【経営方針】

- 1 利用者の生きがいのある日常生活を支援する個別ケアの充実とサービスの質の向上を図る
- 2 安定した経営基盤を構築するとともに、 職場・職種や他施設、地域との連携を強化する
- 3 職員一人ひとりが自らの役割を認識し、責任を果せる職員教育に取り組む

## 【事業・運営計画】

### 1 利用者の尊厳を守る

(ア) 重度高齢者に対する医療介護の専門機能を発揮できる施設として、各職員のスキルを高め、終生施設としてターミナルケア含め、利用者の尊厳を第一にケアの実践を行う

(イ) 利用者が求めるニーズを探求し、利用者の求めるケアの実現を図る

### 2 利用者が安心して安全な生活を送れるケアの実践

(ア) 利用者が希望に満ちた生活を送れるよう、介護職員の参画した個別ケアプランの作成を行い実践する

(イ) 医療行為の多い利用者が増加する中で、介護職員の知識・技術力の向上と看護・介護の役割を明確にし、利用者が安全で安楽な生活できるケアを実践する。

### 3 奄美における事業拡大と安定した運営基盤を構築する

(ア) 通所・入所稼働率の改善を行うため、長期入院者への退去へのアプローチ、ミドルショートの入入れ、障害者短期入所の入入れを行うと共に、在宅サービス全体の地域への広報活動の充実を図り、2016 年度実施される地域支援事業を視野に、春日デイサービスのサテライト化や 24 時間訪問介護について検討し計画を立案する



(イ) 相談支援事業、居宅介護支援の連携強化と充実を図り、事業拡大に向け、日中一時支援、生活訓練、労支援事業等の障害者支援サービスについて検討し計画を立案する

#### 4 地域との連携を強化する

(ア) 防災時のみならず、奄美市が実施する地域見守りネットワーク作りに、在宅介護支援センターを中心として積極的に関わり、地域の高齢者の実態把握を行い、デリバリー型サービスの検討を行う

(イ) 地域行事への参加を積極的に行うとともに、民生委員との連携を強化、ボランティア受入体制の充実を図り、地域との交流を活性化する

#### 5 次世代を担う自立した職員の育成

(ア) 介護テクニカルラダーを導入し、職員の技術・知識の向上と、マネジメントの出来る職員教育体制を充実する

(イ) 係長を中心に奄美での研修体系の構築、各階層別研修を実施する

#### 【数値指標】

|                 | 特養入所          | 短期入所         | 通所介護（佳南園）    |              | 配食サービス       |             |
|-----------------|---------------|--------------|--------------|--------------|--------------|-------------|
|                 |               |              | 一般           | 予防           |              |             |
| 利 用 者 定 員       | 80 名          | 10 名         | 20 名         |              |              |             |
| 利 用 者 延 べ 数     | 28,817 名      | 2,944 名      | 5,445 名      | 45 名         | 20,107 名     |             |
| 一 日 平 均 利 用 者 数 | 79.0 名        | 8.1 名        | 15.0 名       | 0.1 名        | 55.4 名       |             |
| 稼 働 率 （ % ）     | 98.69         | 80.66        | 75.0         | 0.62         |              |             |
| 稼 動 日 数 （ 延 べ ） | 365 日         | 365 日        | 363 日        |              | 365 日        |             |
| 単価（1 人 1 日当り）   | 11,225 円      | 12,054 円     | 9,425 円      | 5,232 円      | 650 円        |             |
| サービス活動収益（千円）    | 329,486<br>千円 | 29,558<br>千円 | 42,506<br>千円 | 1,678<br>千円  | 13,360<br>千円 |             |
| 職員数（常勤換算）       | 51.9 名        | 5.6 名        | 8.6 名        |              | 3.8 名        |             |
|                 | 在宅介護<br>支援    | ケアプランセンター    |              | ヘルパーステーション   |              |             |
|                 |               | 一般           | 予防           | 一般           | 予防           | 障害          |
| 利 用 者 定 員       |               |              |              |              |              |             |
| 利 用 者 延 べ 数     |               | 1,045 名      | 342 名        | 6,171 名      | 130 名        | 2059 名      |
| 一 日 平 均 利 用 者 数 |               |              |              | 17.0 名       | 0.4 名        | 5.7 名       |
| 稼 働 率 （ % ）     |               |              |              |              |              |             |
| 稼 動 日 数 （ 延 べ ） | 365 日         | 249 日        | 249 日        | 363 日        | 363 日        | 363 日       |
| 単価（1 人 1 日当り）   |               | 16,614 円     | 3,772 円      | 3,382<br>円   | 3,619<br>円   | 3,490<br>円  |
| サービス活動収益（千円）    | 4,812<br>千円   | 16,384<br>千円 | 1,290<br>千円  | 18,836<br>千円 | 3,856<br>千円  | 7,184<br>千円 |
| 職員数（常勤換算）       | 1 名           | 3 名          |              | 7.5 名        |              |             |
|                 | 訪問入浴          |              |              | 通所介護（春日）     |              |             |
|                 | 一般            | 予防           | 障害           | 一般           | 予防           |             |
| 利 用 者 定 員       |               |              |              | 15 名         |              |             |
| 利 用 者 延 べ 数     | 575 名         | 89 名         | 176 名        | 2,644 名      | 207 名        |             |
| 一 日 平 均 利 用 者 数 | 1.9 名         | 0.3 名        | 0.6 名        | 8.5 名        | 0.7 名        |             |
| 稼 働 率 （ % ）     |               |              |              | 56.68        | 4.44         |             |
| 稼 動 日 数 （ 延 べ ） | 311 日         | 311 日        | 311 日        | 311 日        |              |             |
| 単価（1 人 1 日当り）   | 15,042 円      | 9,953 円      | 12,480 円     | 10,078 円     | 5,168 円      |             |
| サービス活動収益（千円）    | 8,110 千円      | 886 千円       | 2,085 千円     | 23,453 千円    | 5,660 千円     |             |
| 職員数（常勤換算）       | 2.5           |              |              | 6.5          |              |             |

# のぞみ園

2015 年度、のぞみ園はこれまで希望してきた新築移転を迎え、新園舎での新たなスタートを切った。そして、2016 年度は開園 20 周年という節目の年を迎える。これまで、地域の方々の理解や保護者の協力を得ながら歩んできた道のりを大事にしつつ、地域に開かれた施設、地域と共にある施設づくりを継続していきたい。

その中において、2016 年度は奄美本島内に 1 か所しかない児童発達支援センターとしてさらなる機能充実を図ること、また、近年増加傾向にある早期療育を必要とする子ども達の受け入れや、のぞみ園の卒園生、さらには障害を抱えている方達が地域で安心して生活が送れるように、障害福祉サービス事業の新たな展開を奄美佳南園・春日保育園との連携を図りつつ、他法人等との協力体制も模索しながら取り組む 1 年にしたいと考える。また、全ての取り組みの礎となる人材育成を重点課題として積極的な人材育成への取り組みもしっかりと行っていきたい。

## 【施設理念】

「今の時を喜びと感謝を持って生きる」

～障害や発達につまずきのある子どもの発達に沿った発達支援～

## 【経営方針】

1. 児童発達支援センターとしての機能の充実
2. 新たな事業展開（龍郷のぞみ園・生活訓練事業・総合相談室の開設）と加算取得の取組み
3. 人材育成

## 【事業・運営計画】

1. 児童発達支援センターとしての機能の充実
  - （ア）個別支援計画に基づいた療育支援の充実（P D C A サイクルを用いたサービス提供）
  - （イ）家族支援体制の充実
    - ①保護者相談会の開催・個別面談の取組み(子どもの成長に対する共有や保護者への支援強化)
    - ②相談支援専門員による細やかなモニタリングの実施と情報共有
    - ③満足度調査とサービス自己評価の実施
  - （ウ）地域支援体制の充実
    - ①早期療育へのつなぎや学校、地域の支援施設との連携強化の取組み
    - ②保育所等訪問支援事業の充実
    - ③市町村、県の療育等支援事業への職員派遣
  - （エ）専門性の向上と職員育成
    - ①他専門機関との連携・専門職員の配置・職員研修の充実
    - ②担当者会、日々の振り返りを通じた職員の育成
  - （オ）地域防災の取組みに対する協力体制の構築
    - ①自治会の防災訓練への参加機会の模索
    - ②地域災害対策においてのぞみ園として担える役割の検討と提案

## 2. 新たな事業展開と加算取得への取り組み

- (ア) 龍郷町におけるのぞみ園の開設（児童発達支援事業・放課後等デイサービス事業）
  - ①2016 年度開設し、龍郷地域・笠利地域の子ども達の受け入れを行う
- (イ) 相談支援事業の充実と総合相談室の開設に向けた取り組み
  - ① 相談支援ソフトを活用しての計画作成
  - ② データ管理を実施し、予定・実績管理や事務との連携のスリム化を図る
  - ③ のぞみ園での相談支援事業・佳南園での居宅支援事業を統合し、障害者（児）と高齢者・生活困窮者の総合相談窓口の開設を検討していく
- (ウ) のぞみ園卒園児や地域で生活する障害者への新たな事業展開の取り組み
  - ①奄美佳南園と連携しながら、年齢・発達段階や将来の生活を視野に入れた放課後等デイサービス事業展開と自立訓練（生活訓練）、日中一時支援、就労支援といった事業の実施に向けた取り組みを行う
- (エ) 取得可能な加算の見直しと体制作り
  - ① 家庭連携加算・事業所内相談支援加算・訪問支援特別加算・欠席時対応加算
  - ② 福祉専門職加算取得のための職員配置や記録の整備

## 3. 人材育成

- (ア) 職員一人ひとりが高い専門性を追求し、技術を高め成長できる職場環境を作る
  - ① 法人・施設理念の理解を深める研修や階層別研修の実施
  - ② 外部研修への積極的な職員派遣
  - ③ 資格取得に取り組む職員への支援
- (イ) 年間の研修計画に基づく施設内研修の充実
  - ①関係機関の専門職による研修や事例検討会の実施
- (ウ) 事業所、施設間の協力関係に基づく人材育成
  - ①奄美佳南園・春日保育園・浜松・磐田地域との情報交換や協力関係の基、奄美地域における人材育成研修体系の構築を行う

### 【数値指標】

|          | 児童発達支援事業  | 放課後等デイサービス事業 | 保育所等訪問支援事業 | 相談支援事業   |          |
|----------|-----------|--------------|------------|----------|----------|
|          |           |              |            | 障害児      | 特定相談     |
| 利用定員     | 25 名      | 15 名         |            |          |          |
| 職員（常勤換算） | 14.6 名    | 7.2 名        | 4.2 名      | 2 名      | 1 名      |
| 利用者延べ人数  | 6,355 名   | 3,519 名      | 25 名       | 489 名    | 53 名     |
| 1 日平均利用者 | 27.16 名   | 15.04 名      | 0.10 名     | 1.96 名   | 0.21 名   |
| 稼働率（％）   | 108.63％   | 100.26％      |            |          |          |
| 稼働日数     | 234 日     | 234 日        | 249 日      | 249 日    | 249 日    |
| 単価       | 11,871 円  | 5,846 円      | 10,400 円   | 15,728 円 | 15,528 円 |
| サービス活動収益 | 75,442 千円 | 20,572 千円    | 260 千円     | 7,691 千円 | 823 千円   |

# 春日保育園

待機児童解消のために2014年より行った増改築工事が終了し、2015年度より定員90名から120名に増員して稼働することになった。ハード面の環境が整えられ感謝するとともに、地域社会に開かれた子育ての拠点となるための企画を立て、貢献できるようにしていく。受け入れ人数が増える事で多様な家庭が増え、一人ひとりの発達の保障をどうしていくか、また保護者も子育てに巻き込んだ取り組みなしでは発達はスムーズに促されないことから、様々な発信をすることで理解を求め共に取り組んでいきたい。こどもの「心」を大切に寄り添った保育を行っていく。

キリスト教保育指針を学び、保育の本質を高められるよう研鑽すると共に、奄美地区学会を通して研究から見えた課題を可視化し、さらに保育の中身が深まるよう職員相互の連携と理解を深め今後の取り組みを具体的に構築していく。

## 【施設理念】

「今の時を喜びと感謝をもって生きる」

生きる力を培い、集団生活で自己発揮出来る環境づくり

## 【経営方針】

1. 保育所保育指針及びキリスト教保育指針に基づいた保育をしていく
2. 一人ひとりの違いに気づき、お互いの存在を認め合う
3. 育児・親支援を図る
4. 地域との交流を図り心豊かな子育てができるような支援をする

## 【事業・運営計画】

1. 定員増による人数調整と環境整備
  - (ア) 奄美市と協力し、人数調整を行っていく
  - (イ) 保育室の環境整備・園児数増加による机・椅子の使い方の工夫等を行う
2. 統合保育の実施と専門機関との連携
  - (ア) 積極的に「児童発達支援センターのぞみ園」との並行児の受け入れを行う
  - (イ) 「児童発達支援センターのぞみ園」や専門機関との連携を行い、保育士の専門知識を高め、保育（療育）の実践に繋げる
  - (ウ) 少人数の親子教室と少人数保育に取り組み、子ども一人ひとりの育ちを重視した保育（療育）を行う
  - (エ) 専門機関と連携し、虐待やネグレクト（育児放棄）の家庭支援を行う
3. 地域との連携・交流を深める
  - (ア) 地域・小学校・中学校・高校・法人内施設との交流を計画的に実施する
  - (イ) 地域に根差した施設として、積極的に地域交流に努める
  - (ウ) 次世代育成として、ボランティアや実習生の受け入れを積極的に行う

#### 4. 食育と環境教育

(ア) 野菜作りの体験等を通し、食に対する興味や関心を持つと共に、食の大切さや感謝の気持ちを育む

(イ) 自然との触れ合いや生活の中から、教育につながる意図的な環境整備を行う

#### 5. 身体発達の向上

(ア) 年齢発達に合わせた運動機能の向上を意識し、リズムあそびや運動を行う

#### 【数値指標】

|      |                       |            |          |        |       |       |       |         |        |
|------|-----------------------|------------|----------|--------|-------|-------|-------|---------|--------|
| 利用者数 | 定員                    | 120 名      | 0 歳児     | 1 歳児   | 2 歳児  | 3 歳児  | 4 歳児  | 5 歳児    | 計      |
|      | 児童<br>入所<br>率<br>120% | 入所数 4/1 現在 | 6 名      | 20 名   | 24 名  | 24 名  | 24 名  | 24 名    | 122 名  |
|      |                       | 障がい児       |          |        |       |       | 2 名   | 1 名     | 3 名    |
|      |                       | 年間入所延人数    | 138 名    | 240 名  | 288 名 | 288 名 | 288 名 | 288 名   | 1530 名 |
|      | 特別<br>保育              | 年間利用延人数    | 一時保育事業   |        |       |       |       |         | 20 名   |
|      |                       |            | 延長保育促進事業 |        |       |       |       |         | 80 名   |
|      |                       |            | 障がい児保育   |        |       |       |       |         | 36 名   |
| 職員数  |                       |            | 施設長      | 保育士    | 栄養士   | 調理    | 保育補助  | 事務<br>他 | 計      |
|      |                       | 正規職員       | 1.0 名    | 9.0 名  |       | 1.0 名 |       |         | 11.0 名 |
|      |                       | パート・アルバイト  |          | 12.0 名 | 1.0 名 | 2.1 名 | 1.0 名 | 1.0 名   | 17.1 名 |
|      |                       | 計          | 1.0 名    | 21.0 名 | 1.0 名 | 3.3 名 | 1.0 名 | 1.0 名   | 28.1 名 |

# 沖縄地区在宅複合事業

聖隷訪問看護ステーションゆい      聖隷居宅介護支援センターゆい

2015年度沖縄地区在宅複合事業では、沖縄県中部地区で事業を行っていくための基盤をつくり、聖隷の知名度を上げるため、訪問看護に続き1月に聖隷居宅介護支援センターゆいを開設した。予防を中心とした地域包括支援センターからの新規依頼が多くあり、訪問看護の利用者数も徐々に増加しつつある。関係機関と連携し、一つひとつのケースを丁寧に対応することで、訪問看護への依頼へとつながった。2016年度も引き続き関係機関と連携していくことで、地域に根差した支援ができる体制を整えていきたい。

## 【経営方針】

1. 関係機関との顔の見える連携を図り、新規利用者を増やすとともに、信頼関係をつくる
2. 「利用して良かった」と思われる援助ができる職員の育成

## 【事業・運営計画】

### 聖隷訪問看護ステーションゆい

1. 新規利用者を増やすため、併設居宅介護支援事業所や関係機関との連携を図る
2. 退院前のカンファレンスにはできるだけ出向き、顔の見える関係をつくる
3. 医療ニーズの高い利用者はもちろんのこと、予防的な視点でも訪問看護が提供できるよう、OJTやカンファレンスの中で考える看護師の育成とともに、研修にも参加していく
4. 嘉手納町高齢者生きがい健康づくり推進事業「いきがいデイサービス」や地域のデイサービスの業務委託は引き続き協力し、訪問看護のアピールをしていく

### 聖隷居宅介護支援センターゆい

1. 訪問看護を併設している強みを生かして利用してもらえるよう、地域包括支援センターや病院と連携をはかり新規利用者を増やしていく
2. 依頼があった時はタイムリーに訪問し、介護保険サービスにつなげていく
3. ケアマネジャーのアセスメント能力向上のため、地域の研修への参加、事業所内でのカンファレンスの充実を図っていく

## 【数値指標】

### 聖隷訪問看護ステーションゆい

| 平均利用者数 | 月訪問件数 | 年訪問件数  | 単価     | 業務委託/月  | サービス活動収益 |
|--------|-------|--------|--------|---------|----------|
| 27名    | 179件  | 2,151件 | 8,800円 | 72,000円 | 20,048千円 |

### 聖隷居宅介護支援センターゆい

| 年間請求件数 |      | 平均単価    |        | サービス活動収益 |
|--------|------|---------|--------|----------|
| 介護     | 予防   | 介護      | 予防     |          |
| 264件   | 546件 | 12,000円 | 4,300円 | 5,515千円  |

## 聖隷こども園わかば

2015年4月、子ども・子育て支援新制度の施行に伴い、当園は幼保連携型認定こども園として定員を150名に増員して新たにスタートした。しかし浜松市の待機児童問題は深刻であることから、2016年度施設整備事業（増築計画）への要望が採択され、2017年度からは定員200名とさらに多くの園児の受け入れを行っていく事となる。量の拡大と共に、私たちは乳幼児期の子どもにとって必要な、より質の高い教育・保育が提供できるよう保育士の専門性を高めていかなければならないと考えている。事業団人材育成方針をもとに、職員一人ひとりが自己研鑽しながら責任を持って仕事に取り組めるよう、保育士ラダーを有効に活用していきたい。そして園内研修・保育学会への取り組み等をとおして職員の視野を広げ、専門性を磨く意識を持った職員集団を目指す。職員のモチベーションアップや人材確保のためには、処遇改善についても課題として取り組みたい。聖隷保育事業としての施設理念である“キリスト教の精神”を基本とし、一人ひとりの子どもにより豊かな経験ができる環境を整え、「子どもの最善の利益」を守り、乳幼児期の教育・保育を保証していく責任を果たすべく力を注ぎたい。

また、新しい時代の中で求められているものを見極め、選ばれる園として自園の強みを分かりやすく発信していく必要を感じている。地域の子育て拠点としての子育て支援ひろば事業、働く保護者をサポートする病後児保育事業、関係機関との連携を図り統合保育の推進等にも力を注ぎたい。

### 【施設理念】

子ども自身に生きさせよ～『自分で考え判断し行動する子ども』～

基本理念をキリスト教におき、集団生活をとおして人への思いやりや優しさを、また恵まれた自然環境の中での様々な経験をとおして逞しい心身の成長を育む

### 【経営方針】

1. 入所希望者のニーズに応えることで安定した運営をしていく
2. 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、子ども一人ひとりの育ちを支える教育・保育を行う
3. 地域につながる子育て支援をすることにより、地域での存在の意義を深める

### 【事業・運営計画】

1. より質の高い教育・保育を実践するための保育環境整備
  - (ア) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、園児の発達の連続性を考慮して、0歳から小学校就学前までの一貫した教育・保育を展開していく。乳幼児の理解に基づいた指導計画にあたっては、PDCAサイクルを用いて質の向上を目指す
  - (イ) 乳幼児が自ら色々な発見をすることのできる環境設定や、継続して遊びを繰り返すことのできる環境づくり、年齢を超えた子ども同士の関わりが自然にできる環境づくりを進

め、発達に即した教育・保育内容の充実を図る

## 2. 異年齢グループ・少人数グループでの保育の実践

(ア) 幼児クラスでは、異年齢グループでの活動・同年齢のクラスによる集団活動をバランス良く行う。乳児クラスでは少人数のグループで保育することにより、一人ひとりの発達に即したよりきめ細やかな保育を行う

(イ) 個別の関わりを必要とする子どもに対し、適切な対応の仕方を学び丁寧に関わる

## 3. 保育職としての専門性を高める

(ア) 園内研修の充実をはかり、職員一人ひとりが園の理念・目標を理解し、教育・保育の実践を行う

(イ) 保育士ラダー・目標参画を用いて、自己の課題を明確にした上で教育・保育を実践し、評価を行い、改善点を更なる向上につなげる

## 4. 子育て、親育て支援をする

(ア) 園便り・クラス便り・連絡ノート・ドキュメンテーション・ホームページ・掲示板・懇談会等を通して教育・保育内容・子どもの育ちを保護者に分かりやすく発信し、育ちを共有していく

(イ) 子育て支援ひろばの充実をはかり、親が子育てや子どもの成長に喜びを感じ、親としての成長を実感することでより良い親子関係を築けるよう支援する。出張ひろばを通し、地域の子育て力向上に寄与する

## 5. 独自の取り組み

(ア) 食育の推進 管理栄養士・調理師と連携を図り、野菜栽培やクッキング等の体験等日常の保育の中に食育を意識した活動を多く取り入れる。保護者にも「食」の大切さを分かりやすく伝える

(イ) 世代間交流 中高生の職場体験の受け入れや、近隣施設の高齢者との交流を図る

(ウ) エコ活動 水や電気の節約がどのようにエコロジーにつながるかを考え実行する  
資源の有効活用など、エコロジー活動の推進を家庭にも発信する  
ごみの分別収集を徹底する

### 【数値指標】

|               |              |            |             |        |       |       |       |       |         |
|---------------|--------------|------------|-------------|--------|-------|-------|-------|-------|---------|
| 利用者数          | 定員           | 150 名      | 0 歳児        | 1 歳児   | 2 歳児  | 3 歳児  | 4 歳児  | 5 歳児  | 計       |
|               | 児童           | 入所数 4/1 現在 | 10 名        | 24 名   | 27 名  | 30 名  | 27 名  | 27 名  | 145 名   |
|               | 入所率<br>97.5% | 内、障がい児     |             | 1 名    |       | 1 名   | 1 名   | 1 名   | 4 名     |
|               |              | 年間入所延人数    | 186 名       | 288 名  | 324 名 | 360 名 | 324 名 | 324 名 | 1,806 名 |
|               | 特別<br>保育     | 年間利用延人数    | 延長保育        |        |       |       |       |       | 1,440 名 |
|               |              |            | 障害児保育       |        |       |       |       |       | 960 名   |
|               |              |            | 一時預かり保育     |        |       |       |       |       | 120 名   |
|               |              |            | 病後児保育       |        |       |       |       |       | 240 名   |
|               |              |            | 地域子育て支援拠点事業 |        |       |       |       |       | 2,500 名 |
| 職員数<br>(常勤換算) |              |            | 施設長         | 保育士    | 看護師   | 栄養士   | 調理師   | 事務他   | 計       |
|               |              | 正規職員       | 1.0 名       | 19 名   | 1.0 名 |       |       |       | 21.0 名  |
|               |              | パート・アルバイト  |             | 7.5 名  |       | 0.2 名 | 0.8 名 | 3.0 名 | 11.5 名  |
|               |              | 計          | 1.0 名       | 26.5 名 | 1.0 名 | 0.2 名 | 0.8 名 | 3.0 名 | 32.5 名  |



# 聖隷こども園桜ヶ丘

2015年度は「幼保連携型認定こども園」として定員を130名から160名に増員して新たにスタートし、2016年度は定員がさらに30名増え190名となる。浜松市の待機児童解消に向け、現在は保育を必要としない1号認定枠を定めていないが、将来的な1号認定枠受入を視野に、保育園と幼稚園の機能を併せ持つ施設として「養護と教育」についての見直しを行っていききたい。その中でも特に環境についての学びを深め、子どもたちにとって何が大切であるのか、そのために何を行っていくのかの見直しを重点に置いていききたい。聖隷の理念・園目標を職員一人ひとりが理解し、常にそこに立ち返りながら園児の成長発達を見守り、利用者の信頼を得ることに努めたい。

保護者支援にも力を注ぎ、在園の保護者だけでなく在宅の子育て家庭の支援ができるよう、親子ひろばの充実も図っていききたい。地域に愛され、信頼され、貢献できる園となれるよう努力していききたい。

## 【施設理念】

1. 子どもたち一人一人が愛され受け入れられて愛することを知る
2. あそびや体験を通して心身を育て、子どもたち一人一人の個性を伸ばしていく

## 【経営方針】

1. 職員一人ひとりがこども園への理解をより深め、計画的な幼稚園教諭資格の更新・取得を進める
2. 職員一人ひとりが、園目標を基に質の高い保育を実践できるよう、職員の資質向上を目指す
3. 信頼され、選んでいただける園となるよう園内外の保護者支援に努める
4. 地域に信頼される園となるべく、地域との交流を通じて地域貢献を図る

## 【事業・運営計画】

1. 質の高いサービスを提供する
  - (ア) 施設理念や保育課程を基に、PDCAサイクルを用いて園児個々に見合った計画立案、実践を行う
  - (イ) 年間研修計画に沿って施設内外の研修に参加し知識や技術の向上を図り、各自の学びを現場にフィードバックして職場全体のスキルアップへとつなげる
  - (ウ) 園児の成長発達に合った環境を整え、園児一人ひとりが安心して自己発揮できるような関わりに努める
  - (エ) 保育士ラダーを活用し、個々のスキルアップと共に職員全体の質向上を図る
2. 安定した運営の意識を持つ
  - (ア) 職員一人ひとりが施設設備を丁寧に扱い、省エネルギーやエコロジーを心がけるなどのコスト意識を持つ

- (イ) 地域や子育て家庭のニーズを掴み、親子ひろばや一時預かり事業を積極的に行う
- (ウ) 働きやすい環境を整え、計画的に業務を進め、職員の心身の健康維持に努める

### 3. 地域に信頼される園となることに職員一人ひとりが意識を持ち、地域交流を図る

- (ア) 地域の自治会やシニアクラブ、施設と交流を図り、相互理解や連携、信頼関係や共助関係を構築する
- (イ) 中高生の職場体験やボランティアを積極的に受け入れ、次世代育成に貢献する
- (ウ) 小学校と連携を図り、教育についての学び、就学への理解を深める
- (エ) 親子ひろばや園見学等で来園される親子への理解を深め、職員が専門職としての意識を持ち積極的に関わることで保護者支援に努める

### 4. 環境を通して教育・保育の充実を図る

- (ア) 畑やプランターでの野菜栽培を通し、季節の移り変わりを感じられるようにする。また、クッキングを通し旬の味を感じ、食べ物への興味関心へとつなげ、食育を促進する
- (イ) 管理栄養士や調理師・保育士が連携して食育活動を展開し、園児や保護者が食に対する興味を持てるようにする
- (ウ) 豊かな自然環境を活かし、生き物や自然物に興味・関心を持てるような保育を展開し、豊かな感性を育む
- (エ) わらべうたあそびの実践を通し、子どもの心身の健やかな発達に活かす。また保護者支援にも繋げる

#### 【数値指標】

|               |                    |            |          |       |         |       |       |        |         |
|---------------|--------------------|------------|----------|-------|---------|-------|-------|--------|---------|
| 利用者数          | 定員                 | 190 名      | 0 歳児     | 1 歳児  | 2 歳児    | 3 歳児  | 4 歳児  | 5 歳児   | 計       |
|               | 児童<br>入所率<br>97.8% | 入所数 4/1 現在 | 9 名      | 30 名  | 30 名    | 36 名  | 36 名  | 37 名   | 178 名   |
|               |                    | 障がい児       | 0 名      | 0 名   | 0 名     | 1 名   | 3 名   | 1 名    | 5 名     |
|               |                    | 年間入所延人数    | 193 名    | 360 名 | 360 名   | 432 名 | 432 名 | 444 名  | 2221 名  |
|               | 特別<br>保育           | 年間利用延人数    | 延長保育     |       |         |       |       |        | 1,920 名 |
|               |                    |            | 障がい児保育   |       |         |       |       |        | 1,200 名 |
|               |                    |            | 一時預かり保育  |       |         |       |       |        | 288 名   |
|               |                    |            | 食物アレルギー児 |       |         |       |       |        | 1,200 名 |
| 職員数<br>(常勤換算) |                    | 施設長        | 保育士      | 看護師   | 栄養士・調理師 |       | 事務他   | 計      |         |
|               | 正規職員               | 1 名        | 21 名     |       |         |       |       | 22 名   |         |
|               | パート・アルバイト          |            | 6 名      |       |         | 3.5 名 | 3.1 名 | 12.6 名 |         |
|               | 計                  | 1 名        | 27 名     |       |         | 3.5 名 | 3.1 名 | 34.6 名 |         |

# 聖隷こども園ひかりの子

2016年度聖隷こども園ひかりの子は、女性の社会進出・子育て等の課題やニーズに答える為、地域に根ざしたこども園としての機能を果たすことを目指す。その一つである浜松市の待機児童解消の一端を担うべく、園児の定員を上回る受入を見込んでいる。さらに、2017年度の定員増(150名⇒230名)に向けて2016年度から増築工事がスタートする。増築中並びに増築後を見据えた環境設定・保育及び教育の見直し・地域交流等の強化が必要となる。利用者(子どもや保護者)や地域の方の視点に立ち、施設目標・保育内容の可視化・共有化により理解を得ながら、子どもの最善の利益を考慮し、安心した生活の場となるよう取り組んでいきたい。

また、職員が協同し、育児や介護をしながらでも継続して働くことができる職場環境の整備にも取り組みたい。

## 【施設理念】

キリスト教の精神を基本理念とし、児童福祉法、児童憲章、幼保連携型認定こども園 教育・保育要領、キリスト教保育指針に基づいて、心身ともに豊かな子どもを育てる。

## 【経営方針】

1. 神に愛され、多くの人から愛されていることを感じ、愛する心を育む
2. ひとりひとりの違いに気づき、お互いが大切な存在であることを知り、認め合いながら主体的に生活する
3. 自己発揮できる環境の中で創造性を育てる
4. 在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する

## 【事業・運営計画】

1. 保育の質の向上
  - (ア) 子どもが主体的に遊び込める(集中できる)環境作りと保育内容の見直し(自由遊び・コーナー遊び)
  - (イ) 発達障がい児・発達の気になる子どもについて必要に応じてケース会議を開き、専門機関との連携を図り、職員全体で専門理解を深める
  - (ウ) 園内外の環境と調和した食育やエコロジー活動への取り組み(畑の収穫物によるクッキング・園庭の緑化・グリーンカーテン他)
  - (エ) 保育者が感性を磨き、園児も大人も寛げる美しい保育室を整える(衛生面・装飾等)
  - (オ) 保育の中で自然な形で異年齢交流を図る(学童・乳幼児等)
  - (カ) 保育士ラダー・目標参画の活用により自己の強み弱みを知ること、具体的な課題に向けて職員一人ひとりが研修計画を立て、取り組む

## 2. 保護者支援の充実

- (ア) 保育の可視化（写真入りドキュメントやお便り等）により、子どもの成長を保護者と共有し、一人ひとりに応じた支援を行う
- (イ) 茶話会・懇談会・講演会等を通して、『おいしい楽しい食事』を目指して保護者と共に取り組む
- (ウ) 親子ひろばの役割を明確にし、地域の子育て親子への的確な支援を行う（園庭開放・エンジェルリトミック・出前相談業務他）

## 3. 幼保連携型認定こども園としての体制強化（5年間の経過措置期間残り4年）

- (ア) 必要に応じた速やかな対応が取れるよう、的確な情報収集及び職員間での共有・協議を行う（指針の勉強会・養護と教育について・免許更新他）
- (イ) 2017年度の定員増（230名定員）にむけて、保育及び教育（環境含む）を見直す
- (ウ) 子育て・介護中の職員も継続して働くことが出来るよう、職場環境を整える

## 4. 職員連携の充実

- (ア) プリセプターシップで丁寧な新人教育を実施する（中堅及び熟練者職員が対応）
- (イ) 他職種・クラスの枠を超えた効果的な職員間連携を行うための方法を見出し、実践する。（園内保育士交換・リーダー会議・パート会議・職員の茶話会等）

## 5. 地域社会のニーズに対応できる支援や連携の充実

- (ア) 長上地区子育て連絡会・民生児童委員・社会福祉協議会等との連携を密に図り、情報の共有化を行う
- (イ) 与進小学校・与進幼稚園と園児及び職員交流を行い、幼児期の保育及び教育と小学校との教育上の接続を図る
- (ウ) 地域の方との世代間交流（老人会・畑の世話人・小中高校生の保育体験他）を行う

### 【数値目標】

|               |        |            |          |       |      |        |      |       |        |
|---------------|--------|------------|----------|-------|------|--------|------|-------|--------|
| 利用者数          | 定員     | 150名       | 0歳児      | 1歳児   | 2歳児  | 3歳児    | 4歳児  | 5歳児   | 計      |
|               | 児童     | 入所数 4/1 現在 | 8名       | 25名   | 28名  | 29名    | 28名  | 26名   | 144名   |
|               | 入所率    | 内、障がい児     |          | 1名    |      |        | 1名   |       | 2名     |
|               | 117.0% | 年間入所延人数    | 227名     | 360名  | 369名 | 348名   | 336名 | 323名  | 1,963名 |
|               | 特別保育   | 年間利用延人数    | 延長保育     |       |      |        |      |       | 1,000名 |
|               |        |            | 障がい児保育   |       |      |        |      |       | 480名   |
|               |        |            | 一時預かり保育  |       |      |        |      |       | 200名   |
|               |        |            | 食物アレルギー児 |       |      |        |      |       | 1,200名 |
|               |        |            | 保育園親子ひろば |       |      |        |      |       | 1,400名 |
| 職員数<br>(常勤換算) |        |            | 施設長      | 保育士   | 看護師  | 栄養士    | 調理師  | 事務他   | 計      |
|               |        | 正規職員       | 1.0名     | 12.0名 |      |        | 1.0名 |       | 14.0名  |
|               |        | パート・アルバイト  |          | 12.7名 |      | (0.1名) | 2.6名 | 1.6名  | 16.5名  |
|               |        | 計          | 1.0名     | 24.7名 |      | (0.1名) | 3.6名 | 11.6名 | 30.5名  |

# 聖隷浜松病院ひばり保育園

子ども・子育て支援新制度が施行され、一般の方の利用を含めた保育園の運営も2年目となる。利用者の幅が広がったことで、今後は更に地域の中に溶け込み、地域の方々とのつながりを大切にした活動をしていき、これまで同様、保育園の存在が理解を持って受け止めてもらえるようにしていく。また子どもを預けて働く親には、子育ての喜びを感じてもらえる支援をしていきたい。

病院職員の利用ニーズが高い現状の中で、需要に応える利用枠の拡大とともに保育の質の向上を図っていかねばならない。そのためにも安定的な人材の確保をしていくことが課題となる。

- 【施設理念】
- ・ 神と人から愛されて育つ中で、他者を愛する心を知る
  - ・ 安心できる環境の中で、基本的生活習慣とともに社会性を身につける
  - ・ 年齢・月齢に合った遊びを実践し、子どもの成長発達を促す
- 【経営方針】
- ・ 聖隷浜松病院のニーズに応えながらも保育の質を落とさない運営をしていく
  - ・ 地域一般からの利用者も含め、保護者の声も取り入れた保育が展開していけるよう弾力的な運営を図る
  - ・ デイサービスセンター住吉と連携を取り合い、互いにプラスとなる交流を図る

## 【事業・運営計画】

1. 自ら遊びを見つけ出し、創造・展開のできる環境をつくる
  - (ア) 保育所保育指針に基づいて教育的配慮を意識した年齢別カリキュラムを作成し、個別指導計画のもとに保育し、評価をしていく
  - (イ) 乳幼児が自ら遊びだすことのできる環境づくりをすると共に、発達に即した生活経験の場の提供に繋げる
  - (ウ) 専門的指導を受ける体操教室や英会話教室等を導入することにより経験の幅を広げる
2. 少人数グループによる保育・異年齢交流の実践
  - (ア) 少人数単位で保育ができるような環境をつくり、細やかな対応をすることで一人ひとりの発達の保障をする
  - (イ) 日常の中に縦割りグループでの活動を取り入れ、異年齢児との関わりを通して人に対する思いやりの気持ちを育む
3. 質の高い保育の提供
  - (ア) 保育士ラダーを利用することで、自己の強み・弱みを知り園全体のスキルアップを図る
  - (イ) 外部への研修の機会を確保し、参加していく

## 【数値指標】

|                    |            | 0歳児   | 1歳児    | 2歳児   | 3歳児   | 4歳児   | 5歳児   | 計       |
|--------------------|------------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|---------|
| 従業員枠<br>定員 125 名   | 入所数 4/1 現在 | 1 名   | 21 名   | 22 名  | 16 名  | 17 名  | 13 名  | 90 名    |
|                    | 年間延人数      | 12 名  | 252 名  | 264 名 | 192 名 | 204 名 | 156 名 | 1,080 名 |
| 地域枠<br>定員 20 名     | 入所数 4/1 現在 | 3 名   | 7 名    | 6 名   |       |       |       | 16 名    |
|                    | 年間延人数      | 36 名  | 84 名   | 72 名  |       |       |       | 192 名   |
| 職員数<br>(常勤<br>常換算) |            | 施設長   | 保育士    | 看護師   | 保育助手  | 栄養士   | 用務    | 計       |
|                    | 正規職員       | 1.0 名 | 13.0 名 |       | 2.0 名 |       |       | 16.0 名  |
|                    | パート・アルバイト  |       | 2.0 名  | 1.0 名 | 0.8 名 | (1 名) | 0.6 名 | 4.4 名   |
|                    | 計          | 1.0 名 | 15.0 名 | 1.0 名 | 2.8 名 | (1 名) | 0.6 名 | 20.4 名  |

# 聖隷めぐみ保育園

子ども・子育て支援新制度が施行され、聖隷めぐみ保育園が運営を開始して一年が経過した。事業所内にも徐々に浸透しニーズも増え、2016年度は小規模型から保育所型へと転換し、利用定員は19名から30名となる。「一人ひとりのニーズに対応する保育園」を強みとし、利用者に寄り添う保育を心掛けたい。また園の立地を生かして和合せいいれの里内の様々な方と触れ合い、乳幼児期からノーマライゼーションの精神を育んでいきたい。利用者が安心して預けられ、信頼が得られるよう、保育士は学びを深めるとともに養護と教育の充実を図り、事業所内保育園としての位置づけをより確かなものとして利用者増を図りたい。

## 【施設理念】

キリスト教を保育の基本理念とし、

1. 子どもたち一人一人が愛され、受け入れられて、愛することを知る
2. あそびや体験を通し興味や好奇心を引き出し、主体性を育てる

## 【経営方針】

1. 保育の基盤をキリスト教に置き、子どもたちの自尊感情が育まれる保育を行う
2. 日々の生活の中で様々な個性を持つ人と出会い、自分との違いに気づき、ノーマライゼーションの精神が育まれるよう和合せいいれの里での交流を深める
3. 養護と教育を一体的に行い、興味や知的な好奇心を引き出し、子どもたちが主体的に生活し自己発揮できる環境を整えられるよう保育士の質向上を図る
4. 保育の可視化により、子どもの成長を共に喜び、親としての成長を実感することで親育ちを支援する

## 【事業・運営計画】

1. 利用者に質の高い保育サービスを提供する
  - (1) 保育理念や保育目標に沿って、園児個々の発達に合った実践をPDCAに則って行う
  - (2) 施設内外の研修に積極的に参加し知識や技術の向上を図り、現場で活用する
  - (3) 保育士ラダー、目標参画を活用し職員個々の資質向上を図る
2. 事業の成長、発展のための工夫をする
  - (1) 保護者理解に努めニーズを探り、育児に関わる種々の情報を園便りなどで発信する
  - (2) 養護・教育を可視化し、ホームページへの掲載等事業所向けに発信しアピールする
  - (3) 定員増に対応できるよう環境整備を図る

## 【数値指標】

|      |             |      |           |      |      |      |
|------|-------------|------|-----------|------|------|------|
| 利用者数 | 歳児別<br>定員   | 30名  | 0歳児       | 1歳児  | 2歳児  | 合計   |
|      |             | 従業員枠 | 7名        | 8名   | 8名   | 23名  |
|      |             | 地域枠  | 1名        | 3名   | 3名   | 7名   |
|      |             | 計    | 8名        | 11名  | 11名  | 30名  |
|      | 4/1<br>入所児数 |      | 1名        | 8名   | 9名   | 18名  |
|      | 年間入所延人数     |      | 34名       | 120名 | 108名 | 262名 |
| 職員数  | 保育士         |      |           |      |      |      |
|      | 正職員         | 6名   | パート・アルバイト |      | 6名   |      |

# こうのとりの保育園

厚生労働省は『1億総活躍社会の実現に向けて』の基本姿勢を明確にした。「夢を紡ぐ子育て支援」として、1) 妊娠・出産、子育てによる不本意退職を解消する。働きたいと希望するすべての労働市場参加や継続就業を実現する。成長に必要な労働力の確保を通じて、「希望を生み出す強い経済」に貢献する。2) 育児不安・負担感を軽減する等が具体的に挙げられている。こういった社会の動きの中で、社会全体で、子どもの豊かな育ちと子育てそして親育てを支えていくために何ができるのかを考え、歩みたい。そのために職員の専門性を高め、組織力を強めていきたい。

## 【施設理念】

『隣人を自分のように愛しなさい』 マタイ福音書 22:39

『わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい』 ヨハネ福音書 13:34

## 【経営方針】

1. 神に愛され、多くの人から愛されていることを感じ、愛する心を育む
2. ひとりひとりの違いに気づき、お互いが大切な存在であることを知り、認め合いながら主体的に生活する
3. 自己発揮できる環境の中で創造性を育てる
4. 在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する

## 【事業・運営計画】

### 1. 保育の質向上への取り組み

- (ア) 保育者一人ひとりが、保育理念・保育目標を理解して保育実践する
- (イ) 子どもの最前の利益を考え、子ども一人ひとりの成長発達に合わせてP D C Aサイクルを用いた指導計画を実践する
- (ウ) 保育の実践課題に基づいた研究を聖隷保育学会につなげ、聖隷保育の確立を目指す
- (エ) 統合保育の実践
  - ①障がい児を対象とした一時保育である「こひつじ保育」について、保護者や子どものニーズ、児童発達支援の位置づけを考慮し、園内での在り方を再考する
  - ②在園クラスとの相互連携により、子どもの姿を保育士間で共有し、子ども一人ひとりの育ちを重視した計画を立てる
  - ③「磐田市発達支援センターはあと」の巡回相談を積極的に利用することで専門的な観点の理解を深め、個別・集団における保育（療育）の実践に繋げる
- (オ) 歳児・異年齢別クラスを、更に少人数に分けたきめ細やかな保育の実践。
  - ①異年齢保育や少人数保育を行う意義や目的・効果について、具体的場面を通して伝え合い、再確認する
  - ②発育を促すための食事・睡眠・運動・排便といった生活の流れを考え、乳幼児期の生活とあそびを一人ひとりの成長に合わせて提供できるような環境作りを実践する
  - ③乳幼児期の養護と教育を一体的に考え、具体的な保育実践を可視化・言語化する

## 2. 地域子育て支援への取り組み

- (ア) 親子の絆作りに着目し、ベビープログラムを継続実施する。また、子育て中の母親が、地域子育てセンターを利用して、自主的に演奏会や手作りの店等を企画し、職員と協働して発揮する場を作り、地域交流を行う
- (イ) 多世代間交流を通し、すべての人が子育てに興味や関心を持てるように促す

## 3. 利用者（保護者と子ども）を中心に置いた子育て支援

- (ア) 保育学会の研究や保育実践を通して得た子どもの育ちについて、分かりやすく保護者にも伝えることで、「育ち」のメカニズムを知り、“乳幼児期に何を大切に考えるか”の視点で共に考え合える土壌を形成する
- (イ) 「親育て」を基本とし、保護者向けに「脳の発達と食の大切さについて」等の講演を企画し、職員も専門性を磨く

## 4. 働きやすい職場環境の整備

- (ア) 職員の“こうしたい”の気持ちに寄り添い、モチベーションを高め、それぞれの能力を発揮できるようにする。また、日常における効率化の意識を高め、働きやすい職場環境を目指す
- (イ) 人材育成ツールとしての保育士キャリアラダーを活用し、職員の意識向上を図る
- (ウ) 保育学会を通過点に専門職としての質向上を図り、興味関心を持った内容について職員相互の話し合いを行い、園に合った方法で反映させていく
- (エ) 保育園の役割等にふれ、意識向上に繋げるよう、パート会議の内容の充実を図る

### 【数値指標】

|               |         |            |           |        |       |         |       |       |         |
|---------------|---------|------------|-----------|--------|-------|---------|-------|-------|---------|
| 利用者数          | 定員      | 120 名      | 0 歳児      | 1 歳児   | 2 歳児  | 3 歳児    | 4 歳児  | 5 歳児  | 計       |
|               | 年間児童入所率 | 入所数 4/1 現在 | 11 名      | 23 名   | 26 名  | 27 名    | 25 名  | 25 名  | 137 名   |
|               |         | 内、障がい児     |           |        | 2 名   |         | 4 名   |       | 6 名     |
|               | 118.8%  | 年間入所延人数    | 188 名     | 276 名  | 312 名 | 324 名   | 311 名 | 300 名 | 1,711 名 |
|               | 特別保育    | 年間利用延人数    | 延長保育      |        |       |         |       |       | 1,500 名 |
|               |         |            | 障がい児保育    |        |       |         |       |       | 1,500 名 |
|               |         |            | 一時預かり保育   |        |       |         |       |       | 900 名   |
|               |         |            | 休日保育      |        |       |         |       |       | 100 名   |
|               |         |            | 病後児保育     |        |       |         |       |       | 30 名    |
|               |         |            | 食物アレルギー児  |        |       |         |       |       | 1,500 名 |
|               |         |            | 学童保育      |        |       |         |       |       | 900 名   |
|               |         |            | 地域子育て拠点事業 |        |       |         |       |       | 3,000 名 |
| 職員数<br>(常勤換算) |         |            | 施設長       | 保育士    | 看護師   | 栄養士・調理師 |       | 事務他   | 計       |
|               |         | 正規職員       | 1.0 名     | 15.0 名 | 1.0 名 |         | 2.0 名 |       | 19.0 名  |
|               |         | パート・アルバイト  |           | 14.0 名 |       | (0.3 名) | 1.3 名 | 5.7 名 | 21.0 名  |
|               |         | 計          | 1.0 名     | 30.0 名 | 1.0 名 | (0.3 名) | 3.3 名 | 5.7 名 | 41.0 名  |



# 磐田市子育て支援総合センター「のびのび」

就労環境や子どもと家庭を取り巻く環境が変化し、結婚・出産・子育てに希望を持ってない、子育てに不安や負担を感じているなど、子育てを巡る新たな課題が見えてきている。

そのため、子育て支援センター職員に求められる役割の大きさを強く感じると同時に、私達だけでなく地域・社会をあげて子育て支援に取り組んでいく事の重大さを強く感じている。

2016年度は、経験や知識がある職員体制を生かし、母親たちが抱える問題や悩みについての本質を見極め、子育て中の母親が孤立せず地域で安心して生活できるよう、利用者との信頼関係を構築していきたい。

## 【施設理念】

子育てをしている家族とその子どもの心身の成長発達のための総合的な支援を通し、生まれてくる子どもの命の尊さ、子どもを産み育てることへの親としての責任・義務、そして子育ての喜びを伝える。また、子育てが親育てになるよう、ここに関わるすべての人が成長できること。

## 【年度事業目標・年度重点施策】

### 1. 子育て支援総合センターの活性化

- (ア) 地域への出前子育て支援（であいのひろば）を実施しながら地域とのつながりを深める
- (イ) 多世代間交流による地域コミュニティの形成作りに積極的に取り組む
- (ウ) 子育て中の親子の交流、つどいの場の提供及び子育て関連の情報提供を図る
- (エ) 育児不安の相談業務を積極的に実施し、子育て中に発生する悩みについて体系的に把握する
- (オ) 子育てボランティアの育成・次世代のボランティアの育成を図る
- (カ) 発達に何等かの配慮が必要な子どもと親を対象とした、集団療育の場の提供を行う
- (キ) 日常のふれあい・イベント等を通し、父親や祖父母支援を図る
- (ク) 市の保健師・栄養士・市内支援センターと合同での企画、支援活動を行う

### 2. ファミリー・サポート・センター事務局としての役割強化

- (ア) 援助、依頼会員の募集、登録。幅広く利用されるよう広報活動を推進する
- (イ) 会員の講習会、交流会で支援員の質の向上、支援内容の情報交換を行う
- (ウ) 必要に応じて他機関との連携の充実を図る

### 3. 乳幼児一時預かり保育における柔軟対応

- (ア) 利用者のニーズによって、時間外・時間延長の要望にも柔軟に応える。

## 【数値指標】

|      | 一般利用者数  | ファミサポ利用者数 | 一時保育利用者数 | であいの広場利用者数 |
|------|---------|-----------|----------|------------|
| 登録者  | 8,700名  | 940名      | 150名     | 500名       |
| 年間利用 | 25,000名 | 3,300名    | 420名     | 2,600名     |
| 一日平均 | 80名     | 10名       | 2名       | 59名        |
| 稼働日数 | 313日    | 347日      | 347日     | 43回        |

# こうのとりの東保育園

## 放課後児童クラブ “オリーブ”

定員 200 名を目指し順調に園児数が増えている。一方で、新人職員が正規職の中で 6 割を占めている。一人ひとりの発達を見通した保育が出来る人、周りの職員や保護者と豊かなコミュニケーションがとれる人、このような人づくりを目指した人材育成に力を入れていきたい。日常の保育の中での気づきを言葉に表し、それぞれの役割をしっかりと担う保育者が集い、保育の質を向上させていきたい。

### 【施設理念】

『隣人を自分のように愛しなさい』 マタイによる福音書 22:39

### 【経営方針】

1. 一人ひとりが愛される経験を通して愛する心を知り、互いが大切な存在であることを認めながら生活する環境を作る
2. 生活、あそび等の豊かな経験を通し創造性や意欲を育てる
3. 地域のお年寄り、子育てサークル、多文化交流センターとの繋がりの中で、豊かな人間関係や感謝する心を育成していく

### 【事業・運営計画】

“魅力ある保育園にする為に”

#### 1. 保育の質の向上

(ア) 保育者個々が保育理念と保育目標を理解し、「一人ひとりを大切にする保育」を実践していく

- ① 園内研修等の充実により、子どもの最善の利益に視点をおいた保育内容・保育環境について職員間で共有化を図ると共に、事例検討を通し気づきからスキルに繋げる
- ② 保育学会、園内外の人材育成研修等へ積極的に参加することで、職員の資質向上を図る。園長・主任・中堅職員間の研修を立案し、園内で要となる職員を増やしていく
- ③ 保育士ラダーや目標参画の自己評価を行う事で、職員がそれぞれの目標を明確にし、保育力を向上させる
- ④ 一人ひとりの育ちを掴む力、子どもの気持ちを汲み取る力、その子の発達を押さえながら保育する力をつける為に、それぞれの保育者が役割を理解し、連携する

(イ) 保護者支援の実践

- ① 育児（保育）のおもしろさ、発達の喜びを伝える為に、懇談会や行事を充実させる
- ② 日々のお便り、声掛けを大切にし、子どもの様子、成長を伝える。また園便り、クラス便り、写真入りドキュメントを通し、園の理念、職員の願いを解りやすく伝える
- ③ 外国人家庭にも丁寧に伝える為、お便り、張り紙等を翻訳する。問題が生じた時は、通訳同席の保護者面接を行う
- ④ 地域への施設開放を行いながら、保育士・看護師・栄養士等の専門性を生かした支援を展開していく

## 2. 統合保育・専門機関との連携

- (ア) 保護者・保育者と共に、障がい児の受け入れを行う目的の共有化を図る
- (イ) 専門機関との連携を取りながら、その子の保育園での関わり方を模索していく
- (ウ) 虐待の危険が窺われる家庭や精神障害のある保護者の問題については、園と専門機関が連携し、精神的な援助をしながら子どもの安全・情緒を守っていく

## 3. 多文化共生推進

- (ア) 外国人の入園を受け入れる際は園の方針をしっかりと伝え、賛同して貰う。園児とは言葉によるコミュニケーションをとりながら、集団の中に入れるように配慮し、落ち着いた保育を目指す
- (イ) 国際交流協会との連携によるグローバル子育て教室を継続していく。その中で、子どもの育ちを保護者同士で考えあうことができる環境を整えていく

## 4. 食育の推進と環境づくり

- (ア) 栄養士・調理師・保育士が連携をとりながら、野菜づくりや親子クッキング等の活動を通し、子ども達や保護者の食への関心を膨らませていく
- (イ) 畑活動を通し、種（苗）から成長を見る事と収穫した新鮮な野菜のおいしさを体験する事で感謝の気持ちに繋げる

## 5. 放課後児童クラブ “オリーブ”

目的：児童にとって居心地のいい居場所。保護者にとって安心の場。保育園にとって大きな異年齢の場

定員：40 名 対象児童：市内 1 年生～6 年生

2016 年度児童予定数：通常 25 名（夏休み：40 名）

通常利用対象：東部小学校、田原小学校、福田小学校 \* 田原・福田については送迎車利用

### 【数値指標】

|      |                    |            |                 |       |       |           |       |       |         |
|------|--------------------|------------|-----------------|-------|-------|-----------|-------|-------|---------|
| 利用者数 | 定員                 | 200 名      | 0 歳児            | 1 歳児  | 2 歳児  | 3 歳児      | 4 歳児  | 5 歳児  | 計       |
|      | 児童<br>入所率<br>78.5% | 入所数 4/1 現在 | 6 名             | 32 名  | 31 名  | 36 名      | 30 名  | 21 名  | 156 名   |
|      |                    | 障がい児       |                 |       |       | 1 名       | 2 名   | 2 名   | 5 名     |
|      |                    | 外国人        | 2 名             | 2 名   | 5 名   | 7 名       | 4 名   | 8 名   | 28 名    |
|      |                    | 年間入所延人数    | 209 名           | 384 名 | 392 名 | 432 名     | 360 名 | 256 名 | 2,033 名 |
|      | 特別<br>保育           | 年間利用延人数    | 延長保育            |       |       |           |       |       | 1,440 名 |
|      |                    |            | 乳幼児保育           |       |       |           |       |       | 776 名   |
|      |                    |            | 一時保育            |       |       |           |       |       | 300 名   |
|      |                    |            | 病後児保育           |       |       |           |       |       | 70 名    |
|      |                    |            | 放課後児童クラブ “オリーブ” |       |       |           |       |       | 3,500 名 |
|      |                    |            | 食物アレルギー児        |       |       |           |       |       | 1,440 名 |
|      |                    |            | 外国人保育           |       |       |           |       |       | 7,200 名 |
| 職員数  |                    |            | 施設長             | 保育士   | 看護師   | 管理栄養士・調理師 |       | 事務他   | 計       |
|      |                    | 正規職員       | 1 名             | 20 名  |       |           |       |       | 21 名    |
|      |                    | パート・アルバイト  |                 | 18 名  | 1 名   | 1 名       | 3 名   | 6 名   | 29 名    |
|      |                    | 計          | 1 名             | 38 名  | 1 名   | 1 名       | 3 名   | 6 名   | 50 名    |

# こうのとりの豊田保育園

2015 年度は、年度途中に 3 歳児保育室の面積変更を行うことで受入を増やし、123.3%の入所率であった。2016 年度は 2017 年度 4 月の更なる定員増を視野に、可能な限り待機児童の受け入れを行うと共に、認定こども園移行に向けて具体的な体制作りを進めていく。

保育士個々のモチベーションや保育スキルをより向上させ、園全体の保育の質を高めていきたい。園内研修で学びを深めたコミュニケーションあそびを中心に、養護と教育の一体化を念頭においた保育を実践していきたい。職員一人ひとりの持ち味を出しあい、『子どもの最善の利益』を求める専門集団でありたいと考える。また、地域の子育て家庭に向けて子育て講座を定期的に企画・開催し、園庭遊具の増設や改修等園庭環境を再度見直し、在園児のみならず地域の乳幼児が安心して遊べる環境を提供することで、地域に根差した施設を目指していきたい。

## 【施設理念】

キリスト教を基本理念とし

『わたしがあなた方を愛したように、あなた方も互いに愛し合いなさい』ヨハネ福音書 13：34

## 【経営方針】

1. 愛されて、愛する心を知り、お互いが大切な存在である事を知る
2. 一人ひとりの違いに気付き、お互いを認め合いながら共に主体的に生活する
3. 自己発揮できる環境の中で創造性を育てる
4. 在園、地域の子育て家庭が心豊かな環境で子育てができるように支援する

## 【事業・運営計画】

### 1. 保育の質、専門性を高める

(ア) 保育目標、保育理念を理解し、具体的に実践する

- ①子どもの発達（学び）を可視化することで多角的に子どもを知り、子ども理解を深める
- ②養護と教育的な配慮のもと、PDCAサイクルを用いて個々の成長発達にあわせた保育を行う
- ③子どもの最善の利益を踏まえて保育環境を最大限に生かした保育を行うため、園内研修で保育室、園庭、遊具の使い方を職員間で確認し合い、互いの保育力向上に繋げる

(イ) 家庭と連携して子育てを共有する

- ①乳幼児期の安定した心の育ちの重要性を、クラスだよりや園だより・懇談会を通して保護者へ伝える
- ②心のふれあいと教育的な要素を取り入れた玩具やゲームを家庭への貸出し、親子でのコミュニケーション遊びを通して、園と家庭との共育に繋げていく

(ウ) 職員間で連携し保育の質の向上につなげる

- ①保育を語り合う場として園内研修会を定期的に行い、それぞれが課題や問題意識を持つ

目を養う

②主任、中堅職員を対象に人材育成研修等に積極的に参加または企画する

③保育の幅を広げるために、職員一人ひとりがそれぞれの特性を活かし、互いに指導的立場となって職員間で伝え合うことで、具体的な保育実践につなげる

(配慮を必要とする子どもの保育・運動遊び・栽培活動・クッキング・歌あそび等)

④人材育成ツールとしての保育士ラダーを活用し、一人ひとりの保育力の向上を図る

## 2. 地域に根ざした保育施設への取り組み

(ア) 定期的な園庭開放を行い、園の雰囲気や地域の子育て家庭に伝え入園につなげる

(イ) 地域の子育て家庭を対象に、保育士や栄養士等の専門的育児講座を企画する

(ウ) 学童保育を継続し、在園児との交流を深めながら学習する習慣を身に着ける

(エ) 地域ふれあいクラブの方々との交流を継続的に行い、地域の中で子育ての場を作る

## 3. 必要に応じて積極的に専門機関と連携を持つ

(ア)子どもの育ちの背景を踏まえ、必要に応じて磐田市の保健師や「磐田市発達支援センターはあと」や「児童発達支援事業所かるみあ」と連携をとり、保育園での関わり方や保護者へのアプローチの仕方を学ぶ

(イ)小学校就学にできるだけスムーズに移行できるよう、計画的に小学校との交流を持つ

## 4. 認定こども園移行に向けた体制作りを行なう

(ア) 子ども子育て支援新制度の確かな情報収集をし、職員間で共有する

### 【数値指標】

|               |                     |            |          |        |         |       |       |       |         |
|---------------|---------------------|------------|----------|--------|---------|-------|-------|-------|---------|
| 利用者数          | 定員                  | 120 名      | 0 歳児     | 1 歳児   | 2 歳児    | 3 歳児  | 4 歳児  | 5 歳児  | 計       |
|               | 児童<br>入所率<br>127.5% | 入所数 4/1 現在 | 6 名      | 25 名   | 30 名    | 30 名  | 30 名  | 28 名  | 153 名   |
|               |                     | 内、障がい児     |          |        |         | 1 名   |       |       | 1 名     |
|               |                     | 内、外国人      |          |        | 1 名     |       | 1 名   |       | 2 名     |
|               |                     | 年間入所延人数    | 300 名    | 336 名  | 360 名   | 360 名 | 360 名 | 336 名 | 3,180 名 |
|               | 特別<br>保育            | 年間利用延人数    | 延長保育     |        |         |       |       |       | 3,360 名 |
|               |                     |            | 乳幼児保育    |        |         |       |       |       | 696 名   |
|               |                     |            | 一時預かり保育  |        |         |       |       |       | 300 名   |
|               |                     |            | 学童保育     |        |         |       |       |       | 2,500 名 |
|               |                     |            | 食物アレルギー児 |        |         |       |       |       | 720 名   |
| 職員数<br>(常勤換算) |                     |            | 施設長      | 保育士    | 栄養士・調理師 | 事務他   | 障雇用   | 計     |         |
|               |                     | 正規職員       | 1.0 名    | 16.0 名 |         |       |       |       | 17.0 名  |
|               |                     | パート・アルバイト  |          | 11.2 名 | 1.0 名   | 3.1 名 | 2.8 名 | 1.0 名 | 19.1 名  |
|               |                     | 計          | 1.0 名    | 22.2 名 | 1.0 名   | 3.1 名 | 2.8 名 | 1.0 名 | 36.1 名  |

# 逆瀬川あゆみ保育園

新制度の施行より1年を迎えたが、宝塚市はもとより自園では特に変化のない1年であった。しかし今後も国が引き続き掲げる保育の量的拡充・質の向上を通じた「両立支援」と「総合的子育て支援」を心に留めながら、子どもたち一人ひとりを大切にする保育を深めていきたい。

2015年度は、園内研修や目標参画システムにより、職員みんなが同じ方向を向きそれぞれに出来る事を考え助け合いながら子どもたちを共に愛する姿があった。2016年度はそれに加え、保育士ラダーを活用することで職員一人ひとりがキャリアデザインを描き、自己の成長の道しるべとなるようにしていく。人材不足が深刻化する中、保育者の「子どもを観る目」を育て、共に語り合うことで深め、個々の子どもの発達に合った遊びの提供と援助に繋げる事が出来るようにする事で保育を楽しんで実践すると共に保育の質の向上に繋げたい。

## 【施設理念】

キリスト教保育 「愛によって歩みなさい」

## 【経営方針】

1. 愛されて愛する心を知り、ひとりひとりが大切な存在であることを知る
2. ひとりひとりの違いに気づき、認め合い共に生活する
3. 楽しい環境の中で主体性、創造性を育む

## 【事業・運営計画】

### 1. 保育の質の向上

#### (ア) 保育の基本方針の統一を図る

- ① 保育者と共に保育理念、施設目標を確認し、「一人ひとりを大切にする保育」を具体的に考えたり、研修を通して理解を深めたりして実践する
- ② わらべうた遊びやふれあい遊びなどを通して子どもとの遊びを広げ、深める

#### (イ) 保育環境の定期的な見直しをする

- ① 子どもたち一人ひとりの発達や興味にあった玩具を用意し、いきいきと遊び込めるような環境を整え、発達や季節に応じて定期的に見直す
- ② 担当クラスだけでなく、他クラスの環境も視野に入れ、子どもにとってより良い環境を共に考えられるようにする
- ③ 保育者一人ひとりが人的環境（適切な声の大きさや丁寧な言葉使い、発達を見通した働きかけ方など）を考え行動し、クラスや園全体で共に分かち合いながら学び、実践する

#### (ウ) 保育者研修の充実・人材育成

- ① 保育現場にあわせた園内研修や「あゆみ合同研修」を実施し、子どもを観る目や専門職としての自覚と誇りを育てる
- ② 保育者の興味にあった外部研修への積極的参加を促し、職員間での共有化を図る
- ③ 保育の中での疑問や気づきを掘り下げ研究し、学会などで発表する

- ④キャリアラダーを活用し、各自のキャリアデザインが描けるようにする
2. 保護者との交流
- (ア) 保育参観や参加・懇談会・個別相談・送迎時の会話・園だより・クラスだより・連絡ノート・ドキュメンテーションボードを通して活動の様子を知らせる
- (イ) 保護者へのアンケートや面談によりしっかり意見を吸い上げ、出来る限り保護者の気持ち大切にしながら答えていく
3. 野上あゆみ保育園・御殿山あゆみ保育園との3園連携
- (ア) 合同研修や学会を通して情報交換や連携を図り、共に学び歩いていく。3歳児以降の受け入れ先となる野上あゆみ保育園とは、同年齢・異年齢の交流を持つことで子ども達の経験を増やし、発達や安心感に繋げる
4. 地域にむけての子育て支援
- (ア) 地域参加プログラム「すくすく」「赤ちゃんプログラム」や、園庭開放・室内開放を通して保護者同士の繋がりを育て、育児支援をしていく
- (イ) 園行事等での地域の保護者や子どもたちと職員間の交流を通して、ニーズや現状を理解し支援に繋げる
- (ウ) ホームページによる毎月のお便り紹介やブログにより、園内の可視化を図る
5. 食育への取り組み
- (ア) 栄養士を中心に、保護者に向けた行事やお便りを通して、食の情報の発信を行う
- (イ) 栽培やクッキング、食べ比べ、給食を通じて、旬の食材の名前や役割・味、食べることの楽しさを子ども達に伝えていく
6. 働きやすい職場環境を目指す
- (ア) 保育士一人ひとりの存在をお互いに大切に、保育の楽しさを語りあえる環境を整える
- (イ) 業務の省力化、情報の共有化を職員と共に考えていく

【数値指標】

|       |                   |            |              |       |       |       |      |      |         |
|-------|-------------------|------------|--------------|-------|-------|-------|------|------|---------|
| 利用者数  | 定員                | 45 名       | 0 歳児         | 1 歳児  | 2 歳児  | 3 歳児  | 4 歳児 | 5 歳児 | 計       |
|       | 児童<br>入所率<br>100% | 入所数 4/1 現在 | 4 名          | 14 名  | 14 名  | 13 名  |      |      | 45 名    |
|       |                   | 障がい児       |              |       |       |       |      |      |         |
|       |                   | 年間入所延人数    | 118 名        | 168 名 | 168 名 | 163 名 |      |      | 617     |
|       | 特別<br>保育          | 年間利用延人数    | 一時保育事業       |       |       |       |      |      | 1,320 名 |
|       |                   |            | 延長保育推進事業     |       |       |       |      |      | 118 名   |
|       |                   |            | 子育て支援事業      |       |       |       |      |      | 200 名   |
|       |                   |            | 障がい児保育（受け入れ） |       |       |       |      |      |         |
|       | 職員数               |            | 施設長          | 保育士   | 看護師   | 調理    | 助手   | 事務他  | 計       |
| 正規職員  |                   | 1 名        | 13 名         | 1 名   |       |       | 1 名  | 16 名 |         |
| パート職員 |                   |            | 5 名          |       |       |       |      | 5 名  |         |
| 計     |                   | 1 名        | 18 名         | 1 名   |       |       | 1 名  | 21 名 |         |

# 御殿山あゆみ保育園

子どもの成長は一直線ではなく、大人が想像する以上に色々なことに思いを馳せて、行きつ戻りつつしながら育つものである。このような子どもの成長を、どんな時でもありのままに子どもを認め受けとめて見守ることが、大人の務めである。温かい言葉のシャワーをたくさん浴びながら、ありのままの自分を認め受け止めてもらいながら育ってゆく、その経験の積み重ねが、ゆるぎない自己肯定感をもった大人の心を作る土台となっていくのではないだろうか。

人生の基礎を培う大切な乳幼児期、愛情深く子どもたちと関わっていき、やがて社会に出た時自己実現できる、夢のあるしなやかで強い心を育てていきたい。

2016 年度、御殿山あゆみ保育園は、職員が皆で同じ方向を向きながら「主体的に生活できる子ども」を育んでいくことを目指す。

## 【施設理念】

「あなたがたも愛によって歩みなさい」 エフェソの信徒への手紙 5-2

## 【経営方針】

1. 愛されて愛する心を知り、一人一人が大切な存在であることを知る
2. 一人一人の違いに気付き、お互いに認め合いながら共に過ごす
3. 豊かな環境の中で自己発揮し、創造性を育てる

## 【事業・運営計画】

1. 聖隷の理念や施設理念、保育の基本方針の確認
  - (ア) 施設理念をもとに保育目標の確認をしながら、職員が同じ目標に向かう
  - (イ) 職員の思いや迷いに耳を傾けながら、一つひとつを具体的に解決していき、保育士同志の連携、相互理解を深めていく
2. 子どもたちが安心感をもって園生活を送れるよう、一人ひとりの成長発達に応じた丁寧な関わりを心がける
  - (ア) 乳児期の特定の大人との信頼関係を基盤に、ありのままを受け止め認められながら、安心して過ごすことで、自分がかげがえのない存在であることを知る  
また、その中で自己発揮し、幼児期の「主体的に生活できる子ども」へと繋げていく
  - (イ) 異年齢で過ごす時間を自然に持てるよう考え、年齢の枠を超えての関わりを大切にする
  - (ウ) 障がい児の理解を深めるため、専門機関と連携を取りながら定期的にケース会議を行う
3. 食育の推進
  - (ア) 保育士、管理栄養士、調理師との連携による年間食育計画の作成と実施
  - (イ) 苗からの野菜の栽培、収穫の喜びを通して食への関心を持ち、感謝の気持ちを育む
4. 地域の状況に応じた子育て支援を考える
  - (ア) 保育士が出前児童館に出向き、保護者の様々な思いに寄り添いながら地域における子育て支援の役割、重要性を認識する



- (イ) 子育てに関する講演会、離乳食の試食会の実施
- (ウ) ホームページを見直し、園内や保育の可視化を図る

#### 5. 職員研修の充実と人材育成

- (ア) 専門性を高めるため、各自の保育の課題に沿った外部研修（保育、子育て支援、障がい児、虐待、保育行政等）に、主体的に参加する
- (イ) 宝塚地区3カ園の「あゆみ保育園合同研修会」の計画し実施する
- (ウ) 園内での保育の相互評価や講師を招いての研修会により、質の高い保育を目指す
- (エ) 保育の中での学びを発表する場として、宝塚地区での保育学会を計画し実施する
- (オ) 保育士ラダーの活用により、自覚と責任を持って仕事に従事することのできる人材を育成していく

#### 6. 逆瀬川あゆみ保育園、野上あゆみ保育園との3カ園の連携

- (ア) 3ヶ園で、相互の連携を取りながら共に歩んでいく

#### 7. 児童館との連携

- (ア) 互いの役割を理解し合い、協力体制を作りながら御殿山における子育て支援拠点としての位置づけを確立する
- (イ) 情報の共有化と行事の合同開催を実施する

#### 【数値指標】

|      |                                   |           |          |      |      |      |      |      |        |
|------|-----------------------------------|-----------|----------|------|------|------|------|------|--------|
| 利用者数 | 定員                                | 120名      | 0歳児      | 1歳児  | 2歳児  | 3歳児  | 4歳児  | 5歳児  | 計      |
|      | 児<br>童<br>入<br>所<br>率<br><br>109% | 入所数4/1現在  | 4名       | 23名  | 24名  | 24名  | 24名  | 24名  | 123名   |
|      |                                   | 障がい児      |          |      |      |      | 1名   | 1名   | 2名     |
|      |                                   | 外国人       |          |      |      |      |      |      | 0名     |
|      |                                   | 年間入所延人数   | 128名     | 287名 | 288名 | 288名 | 294名 | 288名 | 1,573名 |
|      | 特<br>別<br>保<br>育<br>補<br>助<br>事業  | 年間利用延人数   | 一時保育事業   |      |      |      |      |      | 490名   |
|      |                                   |           | 延長保育促進事業 |      |      |      |      |      | 2,014名 |
|      |                                   |           | 子育て支援事業  |      |      |      |      |      | 240名   |
|      |                                   |           | 障がい児保育   |      |      |      |      |      | 720名   |
|      |                                   |           | その他      |      |      |      |      |      |        |
| 職員数  |                                   |           | 施設長      | 保育士  | 看護師  | 調理   | 助手   | 事務   | 計      |
|      |                                   | 正規職員      | 1名       | 20名  | 1名   |      |      | 1名   | 23名    |
|      |                                   | パート・アルバイト |          | 11名  |      |      | 1名   |      | 11名    |
|      |                                   | 計         | 1名       | 25名  | 1名   |      |      | 1名   | 28名    |

# 御殿山児童館

御殿山児童館は、次世代を担う子どもたちの健全育成の推進を目的とする。地域に信頼される児童館であり続けるために2016年度も『地域子育て支援拠点ひろば型』事業として、子育て親子の交流を促進する場や機会の提供、相談・援助の実施や情報の提供、子育て講習の実施等、乳幼児親子への子育て支援の拡充に努める。また、小学生児童や中高生の余暇の居場所づくりの充実に加え、地域の実情と時代の風潮に合わせた事業展開を、併設の保育園と連携をとりながら図っていく。

【施設理念】 地域と関わりながら、ひとりひとりの居場所となる児童館を目指す

## 【経営方針】

1. 子どもや子育てに関わる大人からのニーズに応えられるような環境づくりや活動に遊び心を持って取り組む
2. 個々や集団での関わりを通して、感性を豊かにする活動を実施する
3. 地域や諸機関との連携を図りながら、コーディネーター的役割を担う

## 【事業・運営計画】

1. 児童館施設の利用児童の把握と支援
  - (ア) 日常的な児童館施設の開放と自由に安心して遊べる環境を提供する
  - (イ) 利用児童を把握することで必要な支援を的確に行う
2. 乳幼児親子支援
  - (ア) 発達年齢に応じた遊びや仲間作り活動を提供し「子育て」・「親育ち」を支援する
  - (イ) 保護者の子育てを支援し、保護者対象の講座を実施する
3. 小学生集団あそび及び支援
  - (ア) 運動遊びや自然体験活動・創作活動や視聴覚活動を通して仲間作りを支援する
4. 中高生居場所づくり
  - (ア) 自由に集える場の確保と多様な人とふれあう体験を通じて「心の自立」を支援する
5. 出前児童館
  - (ア) 児童館の事業と機能を地域に出向いて実施し、環境の整備と居場所作りを支援する
6. 地域組織活動の育成及び関係機関との連携
  - (ア) 地域における子育て支援の拠点として、家庭や学校、関係機関との連携・協力を図る
7. 児童館運営委員会の実施
  - (ア) 適正な運営を展開・維持するため、運営委員会で広く意見を求める
8. 職員の資質向上
  - (ア) 児童館運営に関する共通の認識を持ち、コミュニケーションを活発に行う
  - (イ) コーディネーター機能の強化のため、職員内研修を行う

【数値指標】 延利用者予定数 30,000人      出前児童館の予定回数 130回  
正職員1名      パート職8名      合計9名

# 野上あゆみ保育園

近年、子どもの貧困や養育低下が、社会的な問題となっている。孤立感を深めながら子育てを行っている保護者に対して「保育園は何ができるのか」を考えながら、具体的な取り組みを模索していく必要があると感じている。日々の保育や子育て支援を行う中で、SOSをキャッチするアンテナを張り、小さな変化を見逃さない見守りの姿勢や、子育ての協働者であろうとする思いを持ち保育を行っていききたい。

また、保育園・児童館・学童保育の連携のとり方については、野上あゆみ保育園でできるかたちを職員と共に引き続き考えていきたい。

## 【施設理念】

「あなたがたも愛によってあゆみなさい」 ―エフェソ 5-2―

## 【経営方針】

1. 私たちが神様に愛されて生かされるように、子どもたちに愛をもって接し、愛をもって子どもたちの心と身体を守る
2. 職員と保護者が、良い関わりを、子どもたちの成長を共に喜び合う
3. 地域の中でたくさんの人が集い、交わることのできる保育園とする

## 【事業・運営計画】

### 1. 保育の質の向上の為の取り組み

- (ア) 職員が保育理念・キリスト教保育を根底とした保育方針を理解し、子どもたちの主体性を育てていくことを前提に、保育の実践を考える。その上で園全体に意識を持ちつつ、職員一人ひとりの個性を生かしていける環境を整える
- (イ) 異年齢児保育や、高齢者等多様な人々との交流を通して、子どもの視野や社会性を広げ、コミュニケーション能力を育てノーマライゼーションの土台を作る
- (ウ) 子どもたちの様子や育ちについて、保護者と気軽に話し合える場や懇談会の内容を検討し、子どもの発達や、日々の中で保護者が大変だと感じていることなどを具体的に話し合える機会を設けていく
- (エ) 日々の食に興味を持ち、栄養士の協力を得ながら手伝いや食育への取り組みを行うと共に、野菜の栽培や収穫を通して生長や味の違いを感じられるような機会を継続的に持つ
- (オ) 行事など、在園児と学童保育児童の参加の仕方を検討し、職員間の連携や理解も深めていけるようにする

### 2. 施設の防災力の強化

- (ア) 自園の防災力強化を図るため、マニュアルや訓練等の見直しと共に、宝塚の聖隷施設との連携や地域の災害拠点としての動きを考えていく
- (イ) 引き取り訓練の内容検討

### 3. 地域連携による面的活動

(ア) 児童館・学童保育との連携

- ① 互いの役割を理解し共有しながら、地域に根ざした活動を実践する
- ② 地域ニーズを知り、子育て支援プログラムの充実化を図る（保護者参加プログラム 妊娠期からの支援取り組み）

(イ) 宝塚市内聖隷保育園 3 か園との連携

- ① 宝塚地区のよき働き手となるよう研鑽する

(ウ) 宝塚地区聖隷施設との連携

- ① 月 1 回の会議の中での情報交換と共有、子どもたちと高齢者との交流の実施（聖隷 デイサービスセンター結い、聖隷逆瀬川デイサービスセンター、宝塚エデンの園、宝塚 栄光園）

4. 「人づくり」への取り組み

(ア) 研修への参加など

- ① 全ての職員が専門性を高めるための研修に積極的に参加し、研修報告を充実させ、職員が共有できるようにしていく
- ② 全国規模研修：乳児保育担当者研修・障がい児保育担当者研修・子育て支援研修  
聖隷保育園研修：聖隷保育学会・聖隷法人本部企画の研修・あゆみ合同研修
- ③ 逆瀬川あゆみ保育園の 4 歳児受け入れに向けての職員交流
- ④ 園内研修：興味のあるテーマの意見を出し、記録を残し担当したい内容に取り組む 積極的な風土をつくる
- ⑤ その他：保育士ラダーの活用により、目的意識の明確化をはかる
- ⑥ 日々の保育を互いに見合うなどを通して、保育の振り返りを実施する

(ウ) 次世代育成

- ① トライやるウィークの中学生や実習生の受け入れにより、次世代育成を目指す

【数値指標】

|           |                             |             |             |       |       |       |       |       |         |
|-----------|-----------------------------|-------------|-------------|-------|-------|-------|-------|-------|---------|
| 利用者数      | 定員 90 名                     |             | 0 歳         | 1 歳   | 2 歳   | 3 歳   | 4 歳   | 5 歳   | 計       |
|           | 児童<br>入所<br>率<br>118.3<br>% | 4/1 現在      | 7 名         | 15 名  | 15 名  | 14 名  | 28 名  | 27 名  | 106 名   |
|           |                             | 障がい児        |             |       |       | 3 名   | 1 名   | 1 名   | 5 名     |
|           |                             | 年間入所延人数     | 105 名       | 180 名 | 180 名 | 168 名 | 336 名 | 324 名 | 1,293 名 |
|           | 特<br>別<br>保<br>育            | 年間利用<br>延人数 | 一時保育事業      |       |       |       |       |       | 1,450 名 |
|           |                             |             | 延長保育事業（月平均） |       |       |       |       |       | 11 名    |
|           |                             |             | 障がい児保育      |       |       |       |       |       | 1,104 名 |
|           |                             |             | 子育て支援事業     |       |       |       |       |       | 240 名   |
|           | 職員数                         |             | 施設長         | 保育士   | 看護師   | 調理    | 助手    | 事務    | 計       |
| 正規職員      |                             | 1 名         | 15 名        | 1 名   |       |       | 1 名   | 18 名  |         |
| パート・アルバイト |                             |             | 13 名        |       |       |       |       | 13 名  |         |
| 計         |                             | 1 名         | 28 名        | 1 名   |       |       | 1 名   | 31 名  |         |

# 野上児童館

野上児童館は開設から7年目を迎え、乳幼児の居場所としては本館、出前事業共に、定着しつつあるが、中高生へのつながった支援という意味ではまだまだ課題がある。中高生が幼い子どもと触れあう機会を作る中から、「子どもは可愛い」と感じられるような未来の子育て世代へもつなげていけるような取り組みを考えていきたい。

人の輪の中で育っていくということを大切にしながら、学校や健康センターなど、宝塚市の公共施設や、保育園・学童保育との連携をとり、野上児童館のあるべき姿を職員と共に見出していきたい。

【施設理念】 地域の中で信頼され、愛される児童館を目指す

【経営方針】

1. 来館者と職員が関わる中で、互いの信頼を築き、遊びの楽しさ、おもしろさを感じてもらいながら、いつでも気軽に相談ができるようなあたたかい雰囲気作りに努める
2. 地域のニーズを把握し、それに合ったプログラムを企画推進する。そして、子どもや、子育て不安を抱える保護者のこころやすらぐ児童館、地域の子育て支援の拠点を目指す
3. 関連する地域の諸機関との協力、連携により、子どもをとりまく様々な課題解決を図るためにコミュニティーワークを進める

【事業・運営計画】

1. サービスの質の向上
  - (ア) 食育、自然体験、小中学生向けのプログラム等、様々な活動を企画する
  - (イ) 児童館内で昼食を摂り、ゆったりと過ごすことができるようにランチタイムを設定する
  - (ウ) 乳幼児プログラムは予約制ではなく、参加しやすいものとし、内容の充実を図る
  - (エ) 玩具やゲーム、書籍等、利用者が興味を持って遊べるように環境を整備する
  - (オ) 子育てに役立つ地域の資源情報をまとめ、いつでも利用者に提供できるようにする
  - (カ) 子育てについての相談など、気軽に行えるような安心できる雰囲気作りをし、傾聴することを心がける
2. 地域との連帯の強化
  - (ア) 小学校、中学校、自治会、まちづくり協議会などに関わりを深め、協力体制をとり地域の子育て力の向上を図る
  - (イ) 出前児童館事業は、場所、時間帯を再考し、地域の協力をさらに得ながら、ニーズに見合った実施を進め定着させる
  - (ウ) 地域での子育てイベントへ出前児童館として参加することで、遊びを提供し、地域への参画と協力を得る
3. 職員の資質向上
  - (ア) 宝塚市児童館交流研修等には積極的に参加をする
  - (イ) 子育て支援研修など専門性を高めるための研修へ参加する

【数値指標】 ひろば型3名 出前児童館3名